◉イラストレーテッド・メモリアル

公式ファンブック

かまいたちの夜

チュンソフト＝編

チュンソフト

ISBN4-924978-01-9 C0076 P1000E 定価1000円（本体971円）

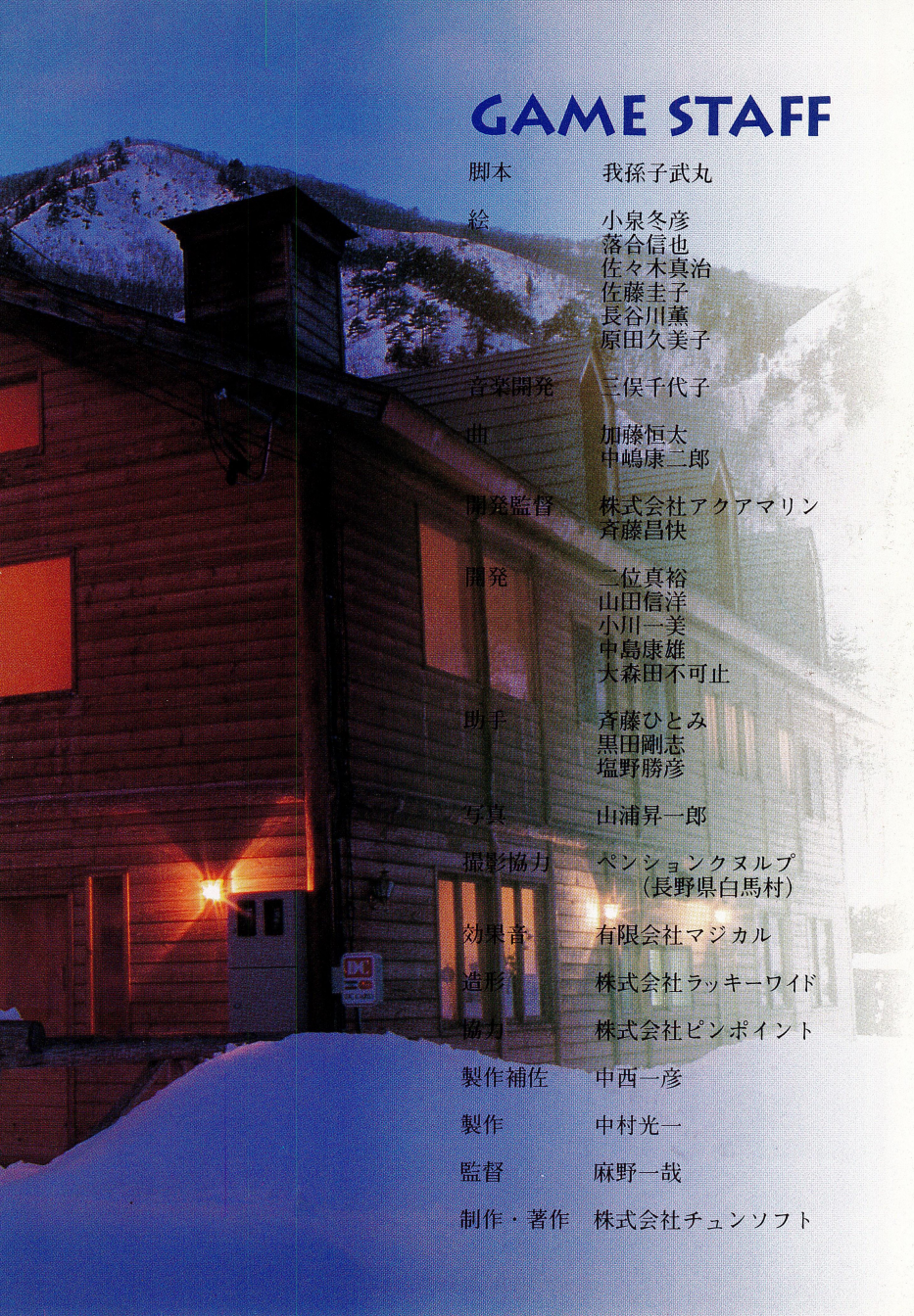
イラストレーテッド・メモリアル

かまいたちの夜

公式ファンブック

CONTENTS

MEMORIAL SIDE

STORY SIDE

本書は両面開きによる構成となっています。
小説とマンガは反対側からお読みください。

GAME STAFF

脚本	我孫子武丸
絵	小泉冬彦 落合信也 佐々木真治 佐藤圭子 長谷川薫 原田久美子
音楽開発	三俣千代子
曲	加藤恒太 中嶋康二郎
開発監督	株式会社アクアマリン 斉藤昌快
開発	二位真裕 山田信洋 小川一美 中島康雄 大森田不可止
助手	斉藤ひとみ 黒田剛志 塩野勝彦
写真	山浦昇一郎
撮影協力	ペンションクヌルプ (長野県白馬村)
効果音	有限会社マジカル
造形	株式会社ラッキーワイド
協力	株式会社ピンポイント
製作補佐	中西一彦
製作	中村光一
監督	麻野一哉
制作・著作	株式会社チュンソフト

1F&地下室

廊下

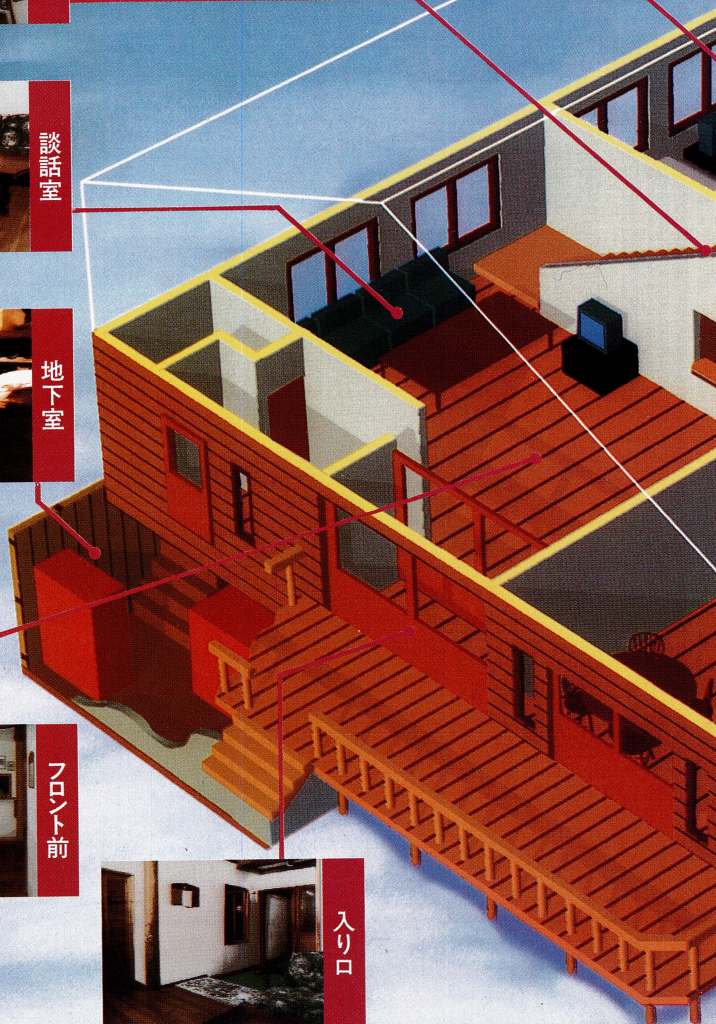
小林夫妻の部屋

階段

談話室

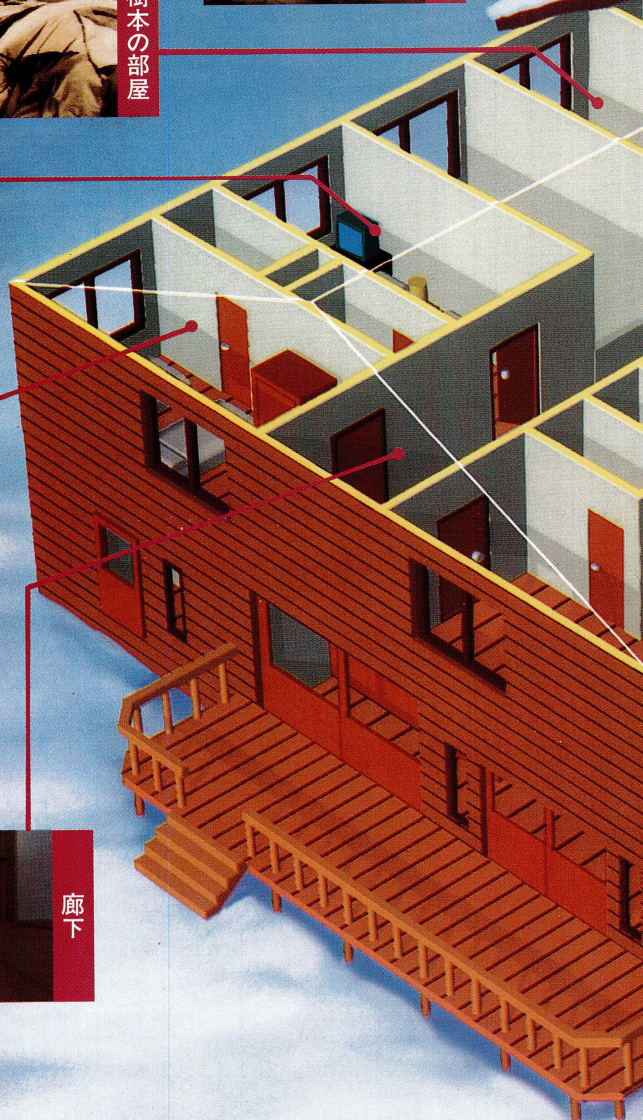
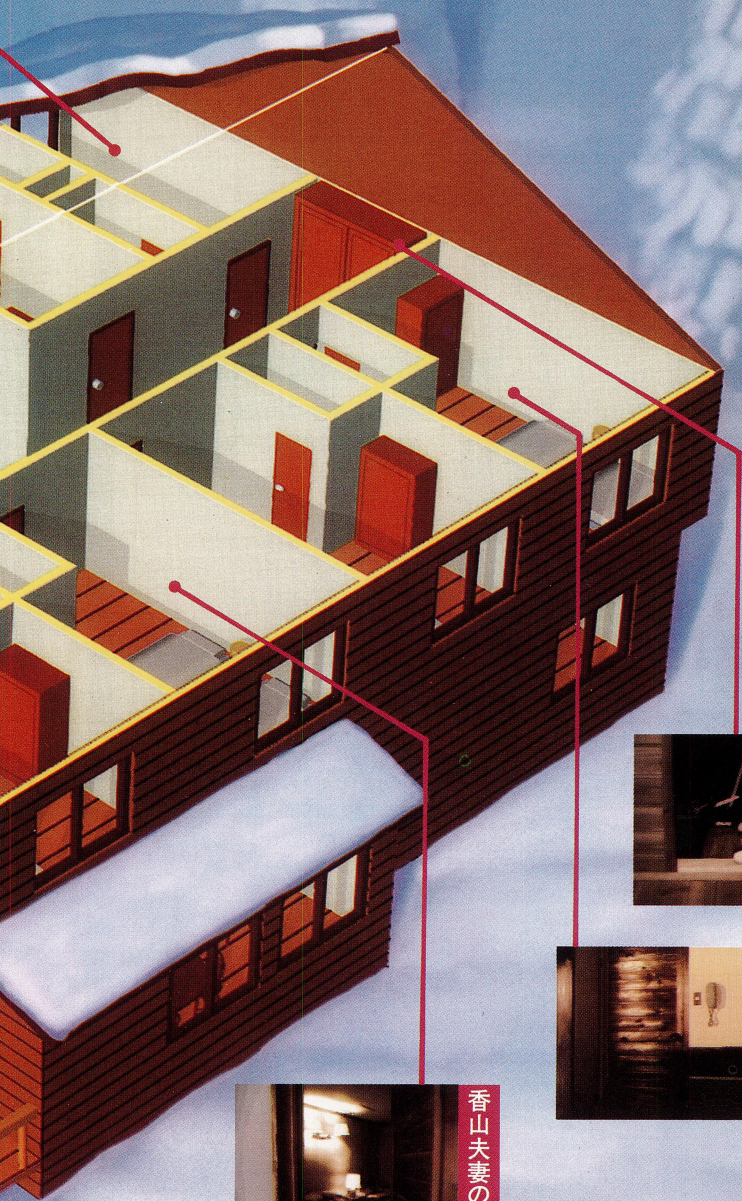
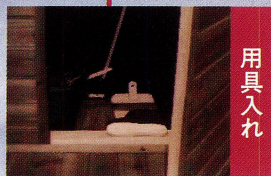
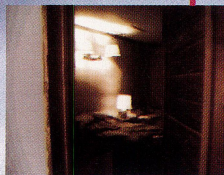
地下室

フロント前

入り口

ようこそ! ペンション「シュプール」へ

Welcome! Pension Spur

物語の舞台となるペンション"シュプール"の見取図である。宿泊客の部屋割りを良く覚えておいてほしい。

2F
真理の部屋
美樹本の部屋
田中の部屋
透の部屋
廊下

用具入れ
OL3人組の部屋
香山夫妻の部屋

キャラクター

Character File

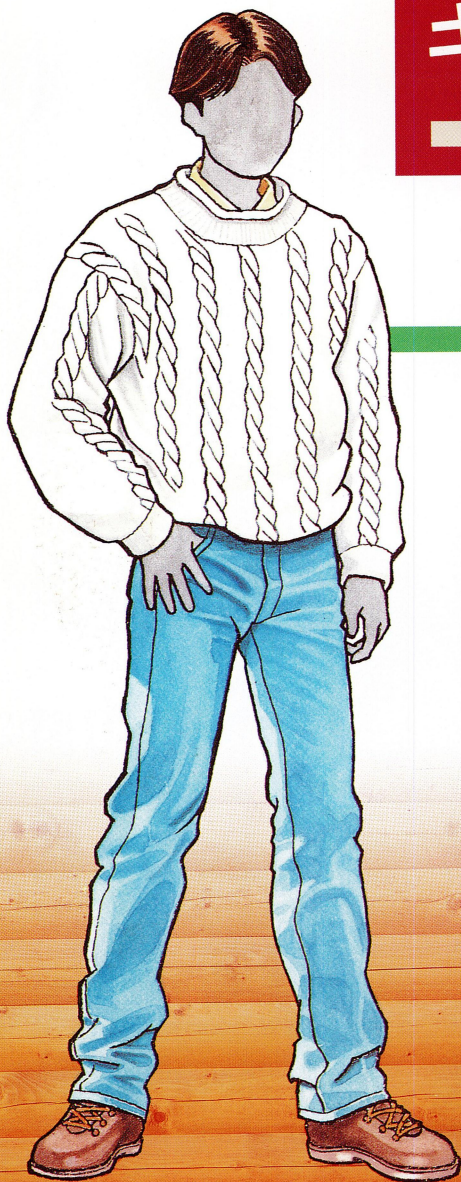
Toru

本編の主人公。首都圏に住むごく平凡な大学生で、真理とは大学で知り合った。

開発スタッフの選んだ透像

透は、本来自分を投影させる主人公であるだけに、その結果もまったくのバラバラ。「北の国から」の純役でおなじみの吉岡秀隆と中山秀征がわずかに2票ずつ集めた以外は、すべて1票ずつとなっている。

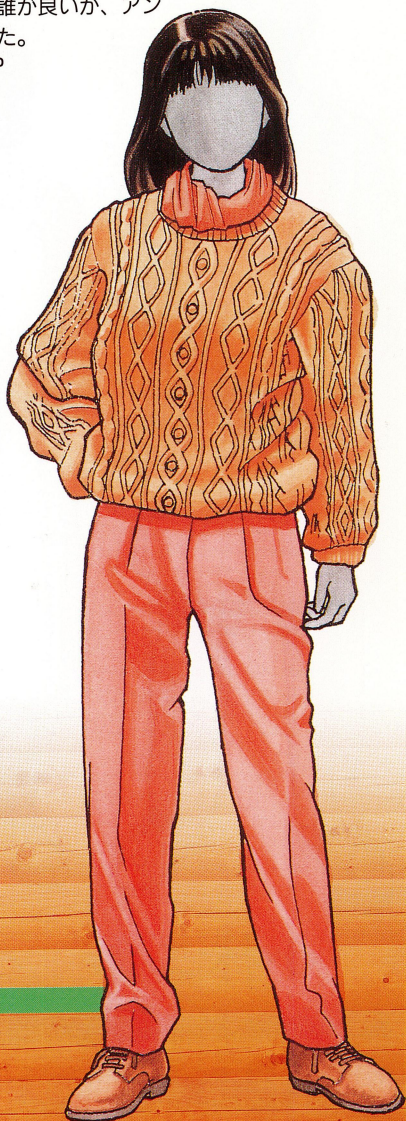
それでも、中居正広（SMAP)、稲垣吾郎（SMAP)、森　且行(SMAP)、植草克秀(少年隊）らが、それぞれ1票ずつ獲得しているところを見ると、ジャニーズ系タレントのイメージが結構強いキャラクターなのだと言えるかもしれない。

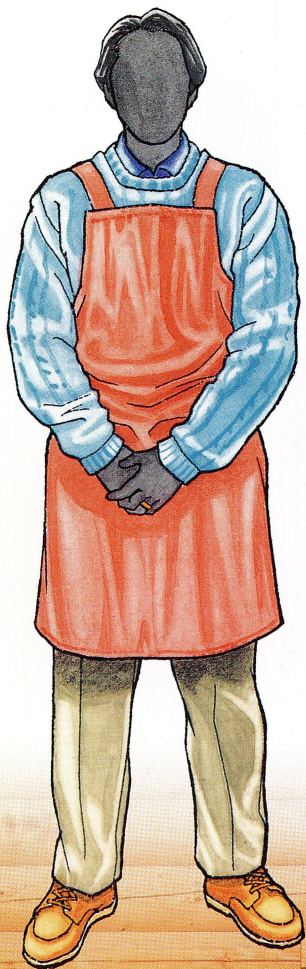
この他では萩原聖人、野村宏伸らの名前も挙がっているが、おもしろいところでは、マイケル・J・フォックスなんていう外国人タレント、昔の野口五郎という意見もあった。

ファイル

開発スタッフのみなさんに『かまいたちの夜』をドラマ化するなら、役者は誰が良いか、アンケートをとった。
さて、結果は？

開発スタッフの選んだ真理像

さすがヒロインだけに各人の好みがスパッと分かれる結果が出た。それでも４票を集め、ダントツトップに立ったのが常盤貴子。これに森高千里、鈴木杏樹の各２票が続き、他１票ずつでは菊池桃子、和久井映見、鶴田真由、宮沢りえ、渡辺満里奈、千葉麗子、森山祐子（「ゼイラム」主演）らの名が挙がっている。

ゲームでは、原田桃世という女優と間違えられているだけに、原田知世のイメージが強いのかと思えば、そうした声はひとつもなし。「主人公には自分の名前を入れ、相手役には、プレイするたびに、好みの女優を入れていき、『今度はこの女優さんと共演』という遊び方もできますよ」とのアドバイス的な声もあった。一度、試してみてはいかが？

Mari

スポーツ万能で、頭の回転も早い。しかもスタイル抜群で長い髪の似合う美人。小林の姪。

開発スタッフが選んだ小林二郎像

渋い配役を希望する意見が大半を占めたようで、一番人気は小林稔侍のとった4票。

これ以外はそれぞれ1票ずつで、峰　竜太、地井武男、大泉　滉、中村雅俊、石坂浩二、田中　健、小林昭二（「仮面ライダー」のおやっさん）、中条静夫、伊武雅刀など。

若き日の加藤茶という意見も1票あり、イメージはバラバラだ。

開発スタッフが選んだ小林今日子像

このキャラクターは年齢やタイプなどが、かなり幅広く捉えられているようだ。

2票を得たのが室井　滋。その他に若い感じだと山口智子、東ちづる、鳥越マリ、落ちついた感じだと田中裕子、篠ひろ子、五十嵐淳子、吉行和子などだ。

くせの強い樹木希林、もたいまさこ、岸田今日子などの意見もあった。

小林二郎　小林今日子

Kobayashi Jiro　**Kobayashi Kyoko**

事件の舞台になるペンション〝シュプール〟のオーナー夫婦。脱サラしてこの宿を始めた。

香山誠一　香山春子

Kayama Seiichi　Kayama Haruko

大阪の会社社長夫妻。誠一は昔、仕事で小林の世話をしたことがある間柄。

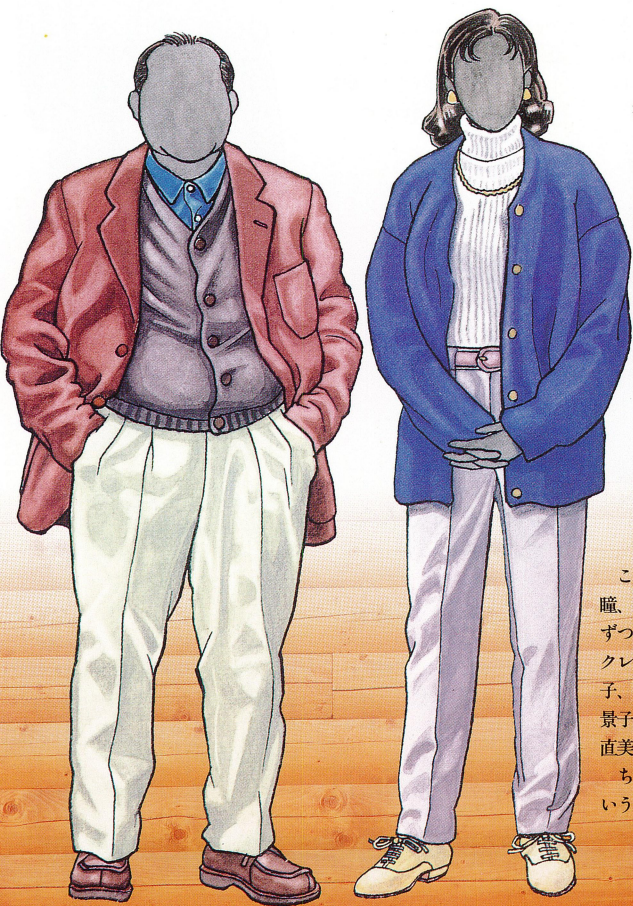
開発スタッフが選んだ香山誠一像

3票を得た坂東英二。2票獲得が石井光三（石井社長）と大地康雄。後は1票ずつで島木譲二、桜　金造、中内ダイエーオーナー、丹波哲郎、坂田利夫（アホの坂田）、横山ノック、笑福亭鶴瓶、小林稔侍または吉田茂元首相や田中角栄元首相などの意見もあり。

個性豊かな配役を希望する声が多いようだ。

開発スタッフが選んだ香山春子像

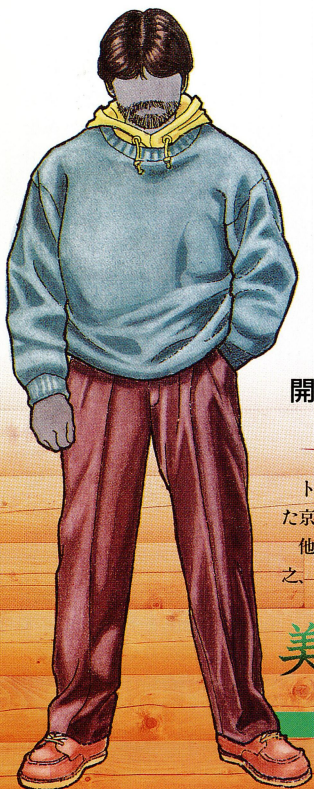
ここで票を獲得した女優は黒木瞳、藤あや子が各2票、後は1票ずつ高橋恵子、増田恵子（元ピンクレディー）、五月みどり、阿川泰子、秋吉久美子、阿木耀子、竹下景子、篠ひろ子、生田悦子、藤山直美または加賀まりこと続く。

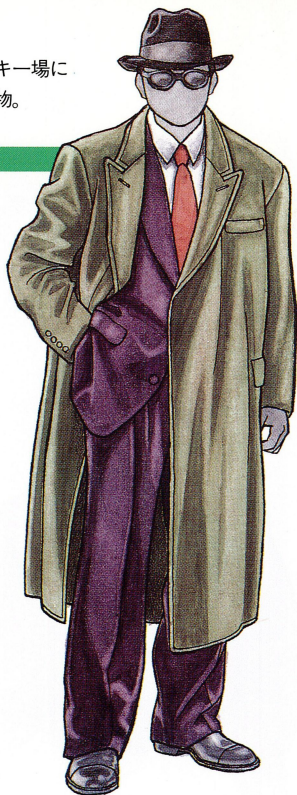
ちょっと影のある大人の女性というイメージが強いようだ。

田中一郎

年齢・職業などは一切不明。スキー場には似合わない服装という謎の人物。

Tanaka Ichiro

開発スタッフが選んだ田中一郎像

仲良く１票ずつの票が入った田中一郎。田中邦衛、時任三郎、竹中直人、緒形 拳、阿藤 海、財津一郎、ストロング金剛、石倉三郎、中尾 彬、といったところがイメージのようだ。

他には「悪役商会のおじさんの中に似ている人がいる」とか、「オカマの田中ミナコは、ローリー寺西が良い」などといった意見もあった。

謎の人物だけあって、一癖も二癖もある人選が行われた。

開発スタッフが選んだ美樹本洋介像

トップだったのは２票を獲得した京本政樹。

他は仲良く１票ずつで、国広富之、役所広司、舘 ひろし、神田正輝、島田荘司、風間トオル、緒形 拳、岩城滉一といった具合いに、山男とは縁遠いタイプが多い。

山男のがっしりしたタイプの割に意外にそれをイメージした人は少なく、木之元 亮（ロッキー刑事）や獣神サンダーライガーが、かろうじてそのイメージと言える。

美樹本洋介

風景写真専門のフリーカメラマンでがっしりした山男タイプ。

Mikimoto Yousuke

久保田俊夫

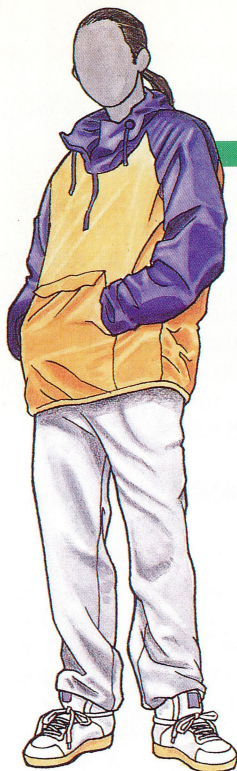
〝シュプール〞のアルバイト。スキーを愛する長身のスポーツマン。

Kubota Toshio

開発スタッフが選んだ 久保田俊夫像

８票を獲得した江口洋介がトップ。俊夫は美樹本とは逆に、割とイメージが固定されるキャラクターらしい。

他は各１票ずつで、坂本一生、羽賀研二などは江口に近いイメージかもしれない。スポーツマンというイメージからか、河合俊一を選んだ人もいた。時任三郎の若いころという意見もそれに近いだろう。

変わった意見では、中本賢（元ハンダース）、ザ・グレート・サスケ、スティーブン・セガールなどがある。

開発スタッフが選んだ 篠崎みどり像

篠原涼子、松下由樹が２票ずつ票を獲得した。女性キャラクターは、男性以上に好み等が反映されて、かなり選び方にばらつきがあるようだ。

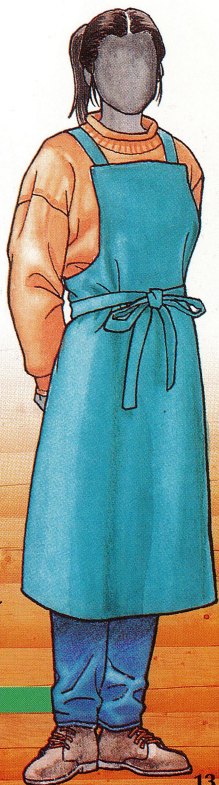
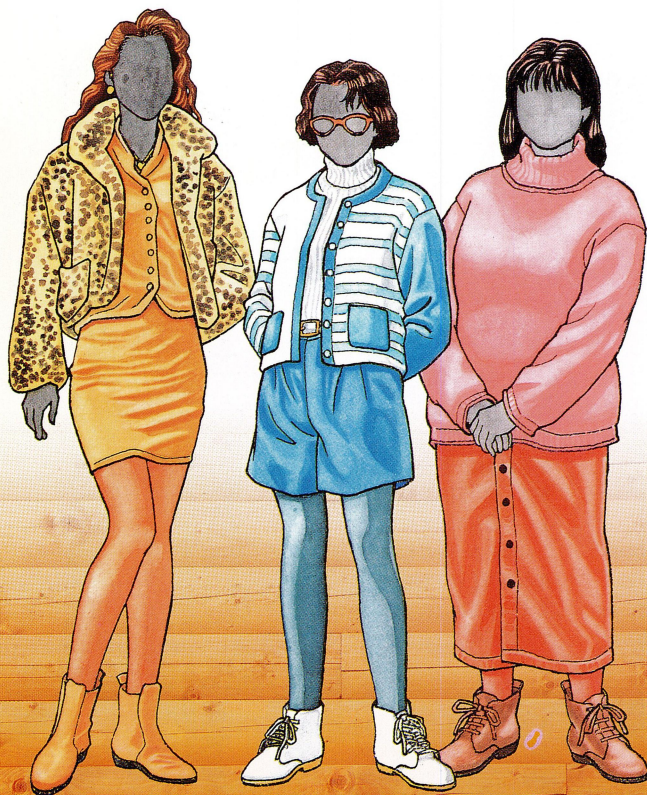
他はすべて１票ずつで、富田靖子、千堂あきほ、坂井真紀、和久井映見、飯島　愛、洞口依子または坂口良子という意見が出された。

おもしろかったのは、安達祐実、久本雅美という意見。共に、他にノミネートされた人たちに比べると、ずいぶん特異（とくい）な人選と言えるだろう。

〝シュプール〞の住み込みアルバイトをしているスキー好きの女性。

Shinozaki Midori

渡瀬可奈子
河村亜希
北野啓子

イケイケ、ボーイッシュ、ポッチャリのOL3人組で〝シュプール〟の泊まり客。

Watase Kanako　　Kawamura Aki　　Kitano Keiko

開発スタッフの選んだ渡瀬可奈子像

飯島直子が2票を獲得した。他は1票ずつで、イケイケ系では杉本　彩、武田久美子、飯島　愛などという意見があった。常盤貴子、葉月里緒菜、松雪泰子も役としては同じようにはまりそう。

おかしかったのは豊丸という意見があったこと。

開発スタッフの選んだ河村亜希像

藤田朋子が3票を獲得した。他は各1票ずつ。高橋由美子、和久井映見、石田ひかり、葉月里緒菜、板谷裕三子（元セイントフォー）などボーイッシュなイメージではない。

芳本美代子、森口博子とバラドル系も挙がった。くいだおれの人形というのか爆笑！

開発スタッフの選んだ北野啓子像

高橋由美子、細川ふみえが各2票ずつ票を獲得。

他は1票ずつで、森　公美子、高橋真美（元欽ドンのたまえ）はその体型からなのか。

松本明子、井森美幸、山瀬まみとバラドル系や、西田ひかる、宮沢りえの名も。松村邦洋という奇抜（きばつ）な意見もあり！

開発スタッフが選ぶ

キャラクターNo.1コンテスト

Character No.1 Contest

あなたの好きなキャラクターは誰コンテスト

チュンソフトの社員の方31名に、『かまいたちの夜』で一番好きなキャラクターは誰かを選んでもらった。あなたのごひいきキャラは入っているか？

真理　8票

2位　美樹本洋介　7票

3位　篠崎みどり　4票

選出理由

やはりというべきか、真理が１位に輝いた。他は香山誠一が３票。田中一郎、久保田俊夫、渡瀬可奈子が２票。香山春子、河村亜希が１票で、無効票が１票だった。

以下はその選出理由の中から、いくつかピックアップしたもの。

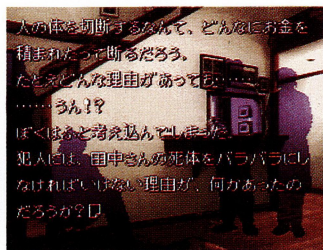
●真理「スパイ編の真理がカッコイイので好きです。名前入力を自分の名前にしたのでなりきってしまいました（帽子をかぶった横顔のポーズの画面が好き）」【総務・篠塚さん】●美樹本「悪役ばかりだけに、オカルトの美樹本が際だっていい人に見えるから」【グラフィックデザイナー・落合さん】●みどり「マシンガンで撃たれてみたい!!」【営業・後藤さん】●可奈子「エッチなスパイ編での可奈子ちゃんがやはりいい」【営業・中西さん】●可奈子「同感です」【社長・中村さん】●俊夫「バラバラ事件なんていうものすごいことが自分の身の回りで起こったにも関わらず、ぼくの隣でおいしそうにコーヒーを飲んでいるところが気に入りました」【開発・富江さん】

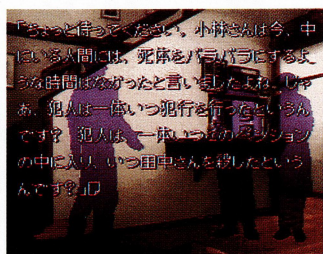
まずミステリーの基本に沿って第一の殺人を考える！

Point 1 アリバイの重要性

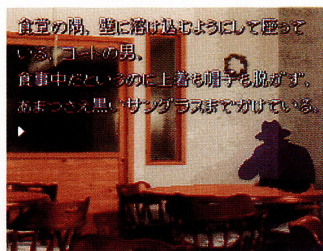
アリバイはミステリーにおける重要ポイントのひとつだ。しかし、その部分にのみ固執（こしつ）するのは考えものだ。特に、表面的な犯行時刻のみに捕らわれ、頭の中を固定してしまうと、大変な落とし穴にはまることになる。アリバイを考えるときは、見かけの犯行時刻に、本当に犯行を行うことが可能だったかまでを考えるのが鉄則だ！

Point 死体をバラバラにした理由は？

発見された死体がバラバラだったことについては、充分にその理由を考える必要がある。一般的にミステリーでバラバラ死体と言えば、死体を運びやすくするため、というのが定石だという。しかし、今回の事件の場合、それは当てはまるのか？　主人公が考えたいくつかの理由。その複合もある、という可能性も頭に入れておこう。

Point 犯人はいつ「シュプール」に入りいつバラバラにしたのか？

死体をバラバラにする、と一口に言っても、それにかかる時間はかなりのものだ。これにアリバイを重ねて考えることが、大きな混乱を招いている。ポイントは事件を狭いペンションに限定して考えないことだ。そして、この問題は、犯人がいつ、どうやってペンションに入ったのか、という点にも大きく関わってくるのだ！

Point そしてなぜ田中は殺害されたのか？

田中が殺された理由とは一体なんだったのだろうか？田中は最初から、スキー場のペンションには、そぐわない格好をし、他人が近付き難い雰囲気を漂わせていた。このあたりに、何か重要なポイントが隠されていそうだ。さらに、このポイントは死体をわざわざバラバラにした理由とも、密接な関係があるのだ！

プレイヤーズサポート

事件解決への手引き

何度プレイしても、未だに事件の真相を解明できない。それどころか、犯人の目星さえ付かない。そんな人に送るヒント集だ。これさえ読めば、かならず解ける！

Player's Support

第２の殺人が大きな手がかりとなる！

田中に続き、みどりが殺されたことは大きな手がかりになる。彼女が２階に上がる前に言っていた〝気になること〟とは、一体なんなのか？　ここではその点に付いてのみ絞って考えてもいいくらいだ。田中の部屋を調べるときも、常にこの点を頭に入れておくことが大切だ。そうすれば、かならず事件解決の糸口が見えてくるはず。

ここでの選択も実は、事件解決への重要な鍵を握っているのだ！

そして犯人は分かった。後は正しい推理に導くだけ！

たとえ、失敗ばかりでも何度かプレイしていれば、おそらく犯人の目星は付くだろう。あとは、正しい解決手順を見つけ出すことだ。そのためには、選択肢に秘められたミスリードの罠にかからないこと。これも、「これは絶対に違う」と思い込まないことが大切だ。ひょんなことから正しい推理が導かれることもあるのだから。

例えば、田中の部屋を調べに行くとき、わざと間違えるだけで、犯人の見当は付くはずだ。

名前入力画面を出せば解決まではあとわずか！

チャンスは３回！

正しい選択肢を選ぶと、出て来るのが〝犯人名入力画面〟。３回のチャンスが用意されているが、事件解決できたと判断されるのは、最初の２回までだ。

この画面が出ればＯＫ。もちろん真犯人はひとりだけだ。

まだまだ楽しめる『かまいたちの夜』

めざせ、ピンクのしおり

Advanced Aduice

まずは犯人を見つけ、事件を解決する

前ページまでの手ほどきを参考に、ロールアップ・タイトルが流れるエンディングを見るまで頑張る。

事件を解決できなかったときは、この画面は見れない。

解決した後に現れるストーリーを楽しむ

ちなみにこんなストーリーが…

▲〝シュプール〟内はスパイでいっぱい!? 〝かまいたち〟をめぐり、争奪戦が繰り広げられる！

▼真理が見た、窓の外から覗いていた人物とは？〝シュプール〟で巻き起こる超常怪奇現象。

▲なんと談話室にはＳＦＣがあった。ゲームで遊ぶことにしたふたりは不可思議な体験をする。

▼天候の悪化が新たな事件を招く。徒歩で〝シュプール〟まで戻ることになったふたりの運命は？

そしていよいよピンクのしおりにチャレンジ!!

新たに出現したエピソードすべてを味わったからといって〝ピンクのしおり〟になるわけではない。しおりをピンクにするためには、最初のミステリーも含めて、すべてのストーリーを堪能しなければならないのだ。

しおりをピンクにすると、食堂でカラオケも楽しめたりする。

※どうしても、ピンクのしおりにならない人は…P 57 からのカルトクイズへGO!

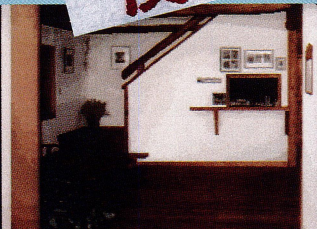
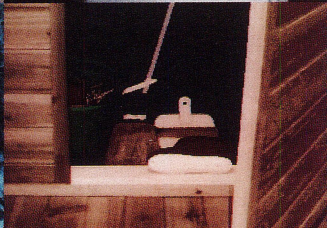
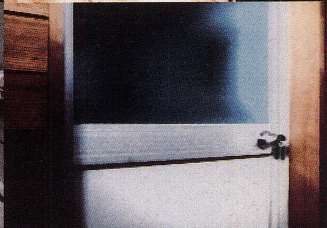
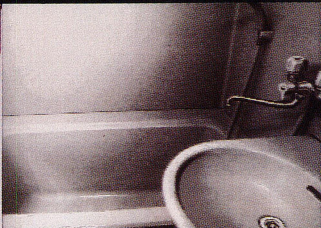
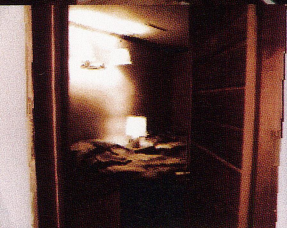
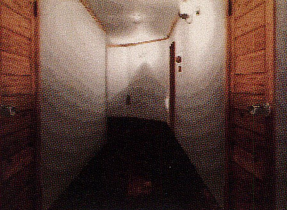
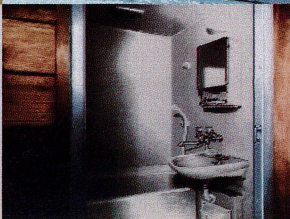
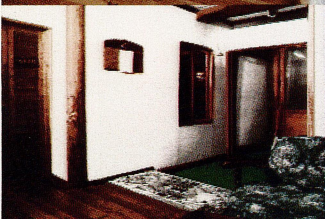
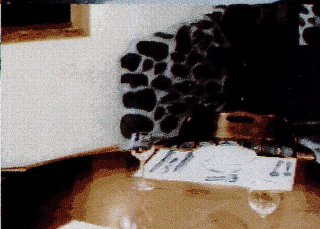
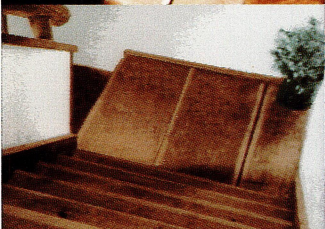
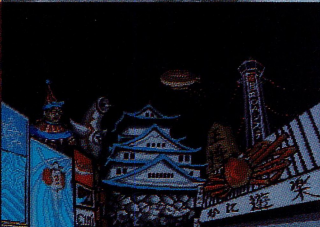
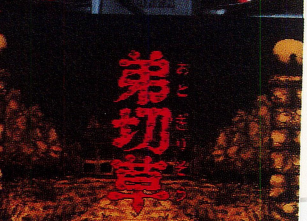
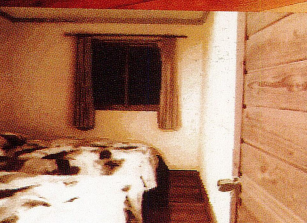
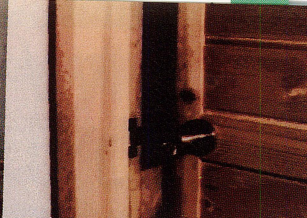
ALL ABOUT
かまいたちの夜

グラフィックスコレクション

Graphics Collection

かまいたちの夜

ここでは、本作品のバックグラフィックのほとんどを載せてみた。すべてを見ていないという人は、まだお目にかかっていない話があるということだ。

FRONT
弟切草
おとぎりそう

他にもこんな小道具たちが…

▶死体用の衣装。右が香山、左が小林のものである。血糊はペンキとケチャップの合成。

『かまいたち』で使われた小道具の数々。血糊用のペンキとくさったケチャップ。最前列のハゲズラに注目！

プロデュース

我孫子さんがシナリオを書き始めたのが、一昨年の9月ぐらい。完成まで、結局2年半かかりましたが、いい出来で大満足です。我孫子さんのカラッとした恐さとか、辛さが、麻野さんの演出とバッチリはまり、いい具合いに仕上がったと思います。前作以上に奥が深い！　ゲーム以外にもCDやこの本で、『かまいたち』にはまれる構成になっていますしね。マニアになればなるほど、まだ先がある感じです。

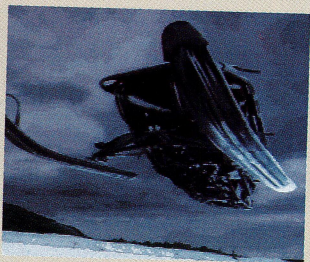
欲を言えば、実写取り込みの美しさと、それに重なった半透明のシャドウが表現するリアリティーを、感じてもらえるといいな。今までにない表現方法だと思うので。

後は絶対ステレオサウンドでやってほしいです。ピンクのしおりもまたあるので、ちょっとエッチな『かまいたち』にトライしてください。

最後に、ヒントをひとつ。暗号では、さらなる暗号に気を付けて！　あとCDドラマには新天地を開くカギが隠されています！

STAFF INTERVIEW
プロデューサー

■中村光一（30歳）
チュンソフト代表取締役
1984年4月9日チュンソフトを設立／1992年〝サウンドノベル〟というゲームジャンルの新天地を開いた。その第1作目が『弟切草』、今回2作目の『かまいたちの夜』で、さらなる可能性に挑む！

▶『かまいたち』グッズのストックが大活躍。とにかく陽気なスタッフ一同。

社長のお気に入り・デモ画面。疾走するスノーモービルがイカス!!

プログラミング —PROGRAMING—

STAFF INTERVIEW

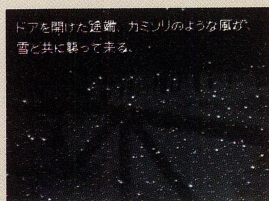
チーフプログラマー

■斉藤昌快（32歳）
㈱アクアマリン
アクアマリン代表取締役／『ファミコンジャンプⅡ』メインプログラマー／好きな本：メディア誌一般

今回プログラムサイドは、完全に裏方でしたね。目立たない、縁の下の力持ち的な存在です。

実は我々、ＲＰＧ主体で育ってきたスタッフで、しかもＳＦＣは初めてなんです。だからこの〝サウンドノベル〟という新しいジャンルに入るには、前段階の勉強と準備が大変でした。(笑)。ま、それにも増して苦労したのは、ゲームを作る際、ドタバタしないように１年かけて作った、サポートプログラムでしたね。

逆に、ぜひお勧めしたいのが、吹雪の画面！　これは絶対に他のソフトじゃできませんよ！　私も疲れたときは、この画面をながめて「絶対スキーに行くぞー！」と思いつつ、頑張りました。(笑)。皆さんもじっくり見てください。

後、制作するうえでこだわった点は絵ですね。〝サウンドノベル〟は音の小説なんですが、今回は絵を第一に考えました。作家の頭の中にあるビジュアルが、ユーザーに伝わりやすいようにさりげなくフォローして、より臨場感が増すように努力しました。皆さんにその感覚が伝わると、うれしいです。

ベテランプログラマー大森田さん制作の吹雪がふたりのお気に入り。

STAFF INTERVIEW

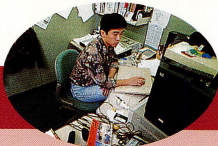
プログラマー

■二位真裕（22歳）
㈱アクアマリン
まだ学生です！／好きな音楽：カラオケで歌う曲／好きな本：『投稿写真』（うそ）、漫画

僕は何もかもが初めてなんで、叱られっぱなしでした。(笑)。今回の僕の役割は『かまいたち』の制作会議に全部出席して、他の部署や人からの意見を聞いて、それをゲームにフィードバックさせることでした。一度作ったものにリテイクが出て、泣きそうになったことも多々あります……。

今回、ユーザーの目に触れる部分での主な担当は、読み直しモードと、章選択モードです。実はこの２つのシステムは、ゲーム制作のサポート用システムで、ゲームに入れる予定はなかったんです。で、作業中に中村社長がこれは便利なんでゲームに入れようと提案して、ゲームへ採用になったんです。苦労した点でいえば、シャドウでしょうか。でもピンクのしおり以降は作っていて楽しかったです。どんな場面かはヒ・ミ・ツ♡

とにかく、デモから中身から、無駄なところのないゲームに仕上がったと思います！

グラフィック　— GRAPHIC —

一番の苦労は、減る減るといっていた動きが、全然減らなかったことですかね。(笑)。データ量の問題で、描き込むグラフィックがドンドン増えていったんですよね。

僕はだいたいのシャドウを担当しました。シャドウは、服を着せた線画のイラストの、輪郭だけをトレースして作りました。

特に難しかったところは、階段をしのび足で降りるところの表現です。あと、複数の人物が重なったときは大変でしたね。画面が紫の塊になってしまうので。(笑)。そういうときは人物を離して、どうにか入れましたけど。向きが前向きか後向きかわからない……っていうのもありますしね。(笑)。これは腕を描き込んで区別させたんですが。

全編通して、「こうじゃねぇだろ」と叫びつつ、こなしましたね。

■小泉冬彦（26歳）
入社2年目／短気でわがまま／好きな音楽：ヒューイ・ルイス＆ザ・ニュース／好きな本：ファンタジー系の小説全般

好きなシーン●みどりが死んで、俊夫が怒るところ。涙ものです。

『かまいたち』のグラフィックは6人で担当しました。実写取り込みに死体作りと、いろいろやりました。お守りセットも手作りです。

僕は背景を多く描いたんですけど、実写取り込みはカラー写真をそのまま入れられるわけじゃないんで、手間がかかりました。白黒で画面を取り込んで、ＳＦＣで表現できる色を塗っていくような作業なんです。それが大変でしたね。

あと、血糊をペンションで使えなかったので、死体系はこちらで作るような感じでした。バラバラ死体は人形で、他はグラフィックスタッフがモデルになりました。実は僕が香山の死体です。(笑)。

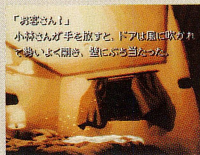
一応香山の設定がハゲなので、ハゲヅラをわざわざかぶってやりました。(笑)。知合いには絶対見せられない写真です。画面で見たら、僕を思い出してください。(笑)。

■落合信也（25歳）
入社3年目／頑固、母性愛強し／好きな音楽：日向敏文『アナザーグラフィティー』／好きな本：宮本輝　他

好きなシーン●「おはよう真理」のところ。透のセリフで一番いい！

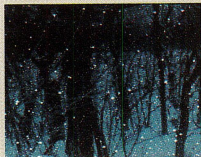
サウンド —SOUND—

サウンドは隔離(かくり)された部屋で、静かにやってます。ちょっと淋(さび)しいです。(笑)。『かまいたち』では、自然な感じで、リアルな違和感のない音を作るように努力しました。でも案外リテイクが出て大変でした。(笑)。中でも、音の半分以上を占めている風の音が、耳障(みみざわ)りにならないようにとか……。聞いていて、集中できる自然な風を創り出さなければいけないんですよね。本当に風には苦労したので、よぉく聞いてみて下さいネ！

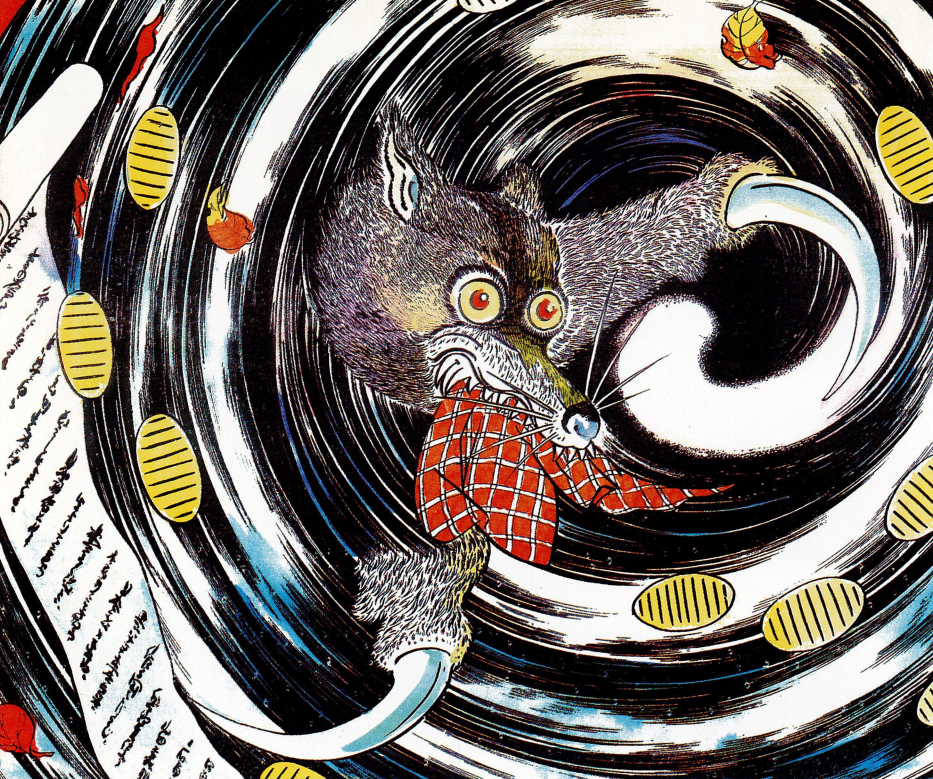
田中さんが殺される場面は、効果音の連続なのですごく大変でした。

■三俣千代子（27歳）
入社5年目／好きな音楽：映画音楽、ジェリーゴールド・スミス他／好きな本：シドニー・シェルダン

■加藤恒太（20歳）
入社3年目／バンドやってます／好きな音楽：谷山浩子／好きな本：長野まゆみ『カンパネルラ』

ども、スエルテ加藤です。(笑)。今回は変なものを作れたので楽しかったです。会議室にひとりこもって、手の甲を自分で吸って「ブチュー」の音を作ったり。香山の歌を作ったり。1日中悲鳴を取っていることもありました。不気味でしたよ。(笑)。

リテイクが出まくったバッドエンディングの曲が、一番の思い出。

■中嶋康二郎（26歳）
入社3年目／好きな音楽：ジャズとハードロック／好きな本：歴史小説の類、隆 慶一郎

作曲は今回が初めてです。『かまいたち』はなんでもありだったんで、のびのびやれました。20曲弱作りました。あと、カーテンの音を作ったんですが、音をループさせるのが難しいんで、どうなるかと思っていましたけど、よく鳴ってくれました。

一番良く聞く談話室の曲が『かまいたち』のテーマかも……。

妖怪!?、それとも自然現象!?〝かまい

ある男が道を歩いていると、突然つむじ風が起こった。そのまま歩いていくうちに、ふと足を見ると、鎌で切ったような傷を受けている。しかし不思議と傷みを感じない。

これが昔から伝えられる〝かまいたち〟の典型的なお話のパターンだ。

この際、傷から血が出ないとする説と、最初は出ないがしばらくすると大量に出るという説があるが、昔の人の多くは、これを妖怪もしくは神の仕業であると考えた。

岐阜県の山間部では、このかまいたちは3人連れの神であると信じられていた。まず先頭の神が人を倒し、次が刃物で切り、3番目が薬を塗る。だから傷みがないという訳だ。

また新潟県の弥彦山と国上山の間の黒坂では、ここでつまづくと、必ずかまいたちに襲われると言い伝えられ、越後の七不思議のひとつに数えられている。

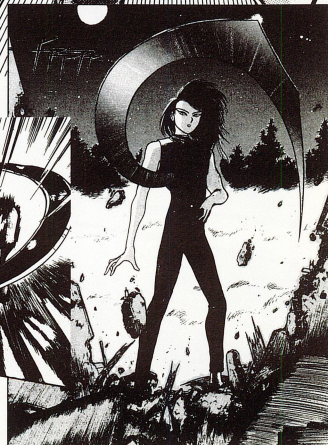
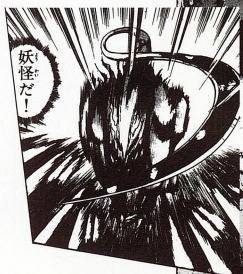
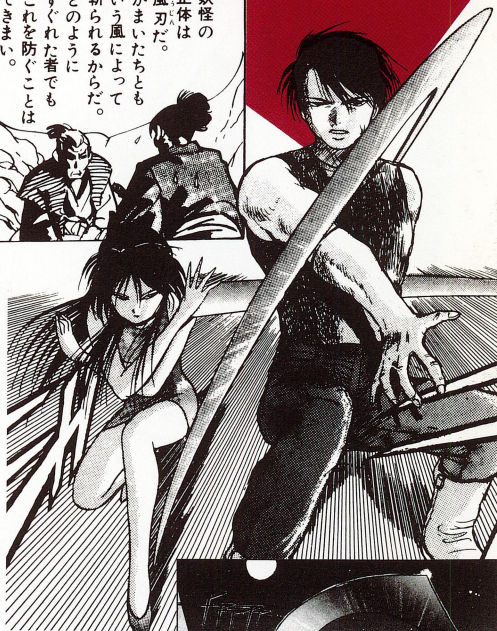
この妖怪は、一般的にイタチの姿をしていると考えられていた。傷を付ける鎌とミックスされて〝かまいたち〟になった訳だ。また一方で、その傷が太刀を構えて切ったようであることから〝かまえたち〟となり、〝かまいたち〟に転化したという説もある。

いずれにせよ、妖怪としてキャラクターのたっている〝かまいたち〟は、かなりメジャー

かまいたち ア・ラ・カルト

Kamaitachi a la carte

▲剣士林崎甚助は、伊勢の山中にて、かまいたちに胸を切り裂かれる。解説しているのは、北畠具教。白土三平「忍者武芸帳」より。

▶岩手県遠野に住まう〝かまいたち３兄弟〟。長兄が倒し、次兄が切り裂き、末妹が薬を塗る。藤田和日朗「うしおとら」より。

たち"の正体は？

な存在で、多くの妖怪マンガにも出演している。妖怪マンガといえば、まず誰もが思い浮かべる「ゲゲゲの鬼太郎」(水木しげる)にも当然出て来る。四国山中に出現した妖怪城に陣取る悪い妖怪の１匹として登場し、そのときの姿はイタチ型ではなく、完全な人間型であった。ただし、同氏の出した「日本妖怪大全」(講談社刊)の中では、鎌を持ったイタチの姿で描かれている(上図参照)。

また３人組の神説を踏襲しているのが、「うしおとら」(藤田和日郎)のかまいたち３兄弟。他にも、永井豪原作のアニメ「ドロロンえん魔くん」でも、３兄弟で登場している。

技としても活躍す

さて、この〝かまいたち現象〟。早稲田大学理工学部主任教授の大槻義彦理学博士によれば、様々な要因で起こる気圧の変化がその犯人であるという。空中に生じる真空に近い部分に触れた時、気圧の高い皮膚と血管が破れることで、こうした現象が起こる。が、このとき、人体の中でも比較的低い気圧で安定している神経だけは無傷であることが多いため、痛みを感じることが少ない、ということなのだ。そして、この原理はマンガなどの必殺技

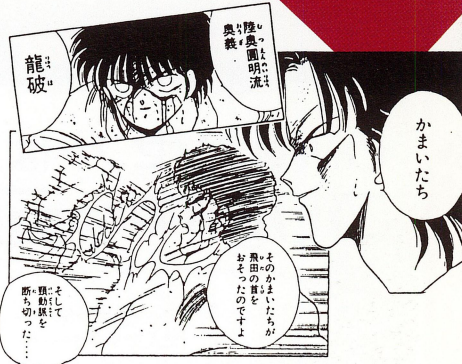
◀学園忍者、忍火満太郎が放つ必殺技！島本和彦「炎のニンジャマン」より。

る“かまいたち”!!

としても、驚く程の頻度で登場する。

スッパリと血も流さずに切り裂くという劇的な効果。〝真空〟云々のもっともらしい科学解説。必殺技のネタとして、これほどマンガにマッチした素材は他にないということだろう。かつての人気少年時代活劇「赤銅鈴之助」の〝真空斬り〟あたりが、その元祖ではないかと思われるが、とにかく良く出る！

忍者マンガ「忍者武芸帳」(白土三平)では、林崎流抜刀術の開祖林崎甚助が〝かまいたち〟に胸を斬り裂かれ、「炎のニンジャマン」(島本和彦)では、その名も〝真空かまい太刀〟なる語呂合わせの必殺技で登場(右図参照)！　他にも格闘技マンガ「修羅の門」(川原正敏)の陸奥圓明流奥義〝龍破〟(左ページ上図参照)や、ボクシングマンガの「リングにかけろ！」(車田正美)におけるフランスJR代表の必殺パンチに、「幽☆遊☆白書」(冨樫義博)での乱童の〝斬空烈風陣〟と、枚挙にいとまがないほどだ。

おもしろいところでは、マージャンギャグマンガの「ぎゅわんぶらあ自己中心派」(片山まさゆき)でゴッドハンド氏が行う〝真空自模〟(下図参照)や、野球ギャグの「すすめ!!パイレーツ」(江口寿史)で馬留丹星児が投げる〝殺人球〟でも〝かまいたち〟は使われている。かの大御所・手塚治虫も名作「ブラックジャック」の中で、このかまいたち現象の説明を図解入りで行ったりしている。

さらに必殺技系かまいたちのキーワード「真空で切る！」は、ゲームにも使用されている。RPGの大作「ドラゴンクエスト」シリーズ(エニックス)では、真空を作って敵を斬りきざむというバギ系の呪文がIIより登場。今ではすっかりファンの間で定着している。

実際に人間の力で〝かまいたち〟を起こせるかどうかは定かではないが、虚構の世界においては、それを自在に使いこなすものが、次から次へと登場しているのだ！

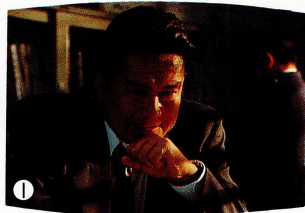
▼伝説の男陸奥九十九。レスラー飛田に奥義龍波を放ち、頸動脈を切り裂く！　川原正敏「修羅の門」より。

▲最強の雀師ゴッドハンド氏は、旋風のごとく素早くパイをつもることによってかまいたち現象を巻き起こす！　片山まさゆき「ぎゅわんぶらあ自己中心派」より。

全部見せます

CMの表裏

Zenbu Misemasu CM No Omote Ura

放送
10/29〜12/11まで　関東、関西、中京、北海道、宮城、静岡、広島、福岡地方
11/19〜12/11まで　新潟、長野、岡山、香川、熊本地方

CMのコンセプトは ゴリ夢中＝五里霧中

捜査に行き詰まった刑事。緊迫感をあおるBGM。「かまいたち？」犯人を示すキーワードらしき言葉をつぶやくが、推理はまとまらない。そして絶叫。「わからん！」

『かまいたちの夜』のCMは、刑事ドラマふうの展開だ。主演の竜雷太(りゅうらいた)氏は、現在20代後半～30代の人々にとっては「太陽にほえろ！」（1970～1980年代の人気刑事ドラマ）のゴリさんとしてなじみが深い。

「このゲームのメインターゲットは、20代以上の人々。層がピッタリ重なるんですよ」

CAST

刑事
（竜　雷太）

●1935年1月21日生まれ。超人気TV番組「太陽にほえろ！」（NTV系列、放映1972～1986）の〝ゴリさん〟こと石塚刑事役が有名。

現在もTV、映画に活躍中のベテラン俳優だが、CM出演は今回が2本目と意外に少ない。

最近作は東映映画「遺産相続」他。

警官

本来は若手の撮影スタッフが演じるはずだったが、顔つきが「精悍すぎる」ということでNG。進行の担当者が代役を務めた。

広告代理店の担当者は語る。

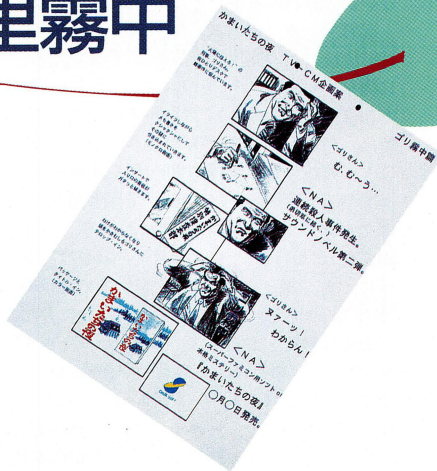
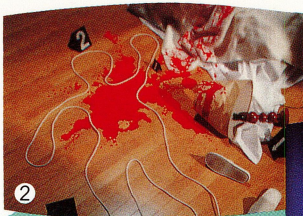
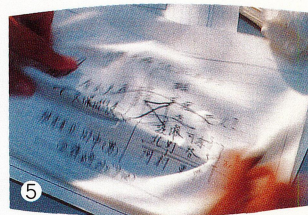
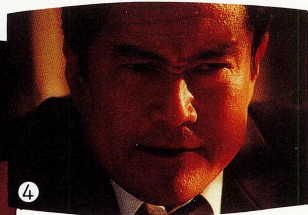
「とにかく何か新しい、変わったことをやりたかった（竜氏はCM出演の経験がほとんどない）のと、通常のSFCユーザーよりも高い年令層にアピールしたかったんです」

発売時期の変更（当初ゲームは5月ごろ発売の予定だった）もあり、コンテの検討はかなり念入りに行われた。そして最終的に残ったのが、ゲームの推理ドラマ的性質を前面に出したこのCM。

メインターゲットの人たちに向けた、隠しジョーク（タイトルを見ればわかるはず）もある、大人の遊び心をくすぐる作品だ。

CMフィルムダイジェスト

ヌァーッ！
わからん！

「こんや、12じ、だれかがしぬ」

①「誰が犯人だ……？」デスクに肘をつき、思索中の刑事。どうやら捜査に行き詰まっているらしい。
②③カットバックで挿入される、殺人現場のイメージ。乱れた室内に残された、現場検証用の人型のワク線。そして、犯人がナイフを振り降ろす図はなかなかのインパクトだ！
④「……かまいたち？」事件のキーワードらしき言葉をつぶやく。難事件のようだ。額にウッスラと浮かぶ汗。焦燥がつのる。
⑤事件の関係者たちの相関図らしきメモ。いきなりわしづかみにして、クシャクシャに丸めてしまう。
⑥激しくデスクを叩き、立ち上がって絶叫する刑事。後ろで資料を整理していた警官が、思わず振り向くほどの剣幕だ。
⑦ゲーム画面。犯人の予告状の部分がテレビの中のモニターに映し出される。「こんや、12じ、だれかがしぬ」
⑧実は刑事が悩んでいたのは、ＳＦＣソフトの『かまいたちの夜』が解けないからでした、というオチ。警官と一緒にモニターの前で熱中している刑事。

●ディレクター：佐古 彰彦
所属／佐古彰彦事務所
生年月日／1953年３月５日
略歴／㈱日本天然色映画、㈱ＣＭランドを経て、平成２年に佐古彰彦事務所を設立。
最近作／「永谷園・Ｊリーグお茶づけ（ラモス選手）」「大正製薬ゼナ・空港篇（所ジョージ）」

徹底検証 撮影現場9の秘密

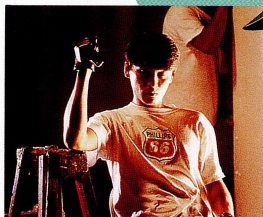
窓から差し込む光にも意外な苦労があった？

刑事部屋の窓から差し込む光は、作り物っぽくならないようにと、窓の外で本物の木を揺すって光の動きを演出した。しかも、葉擦れ(はず)の音がマイクに入らないよう、静かに動かせとの指示。スタッフはかなり苦労したようだ。

犯人(？)の振りかざすナイフは？

犯人らしき人物がナイフを振りかざす場面。よく見ると、結構ゴツイやつだ。それもそのはず、撮影に使われたのは、アウトドアライフ用の本格的な大型ナイフ。スタッフが知人から借りたもので、迫力満点の場面となった。

ちなみに、犯人役は撮影スタッフのひとりが務めた。

品番：ＲＶ-3350-A
「アラモボーイ」
●全長：330ミリ
●刃長：200ミリ
●製造元：
岐阜県関市
「金龍刃物製作所」
TEL:0575-22-3066

殺人現場シーンの意外な秘密

殺人の場面は回想風モノクロ画面。実は血がどぎつすぎると任天堂からチェックが入らないための処置だ。(ＳＦＣで残酷描写はご法度(はっと))。また床をフローリングにした理由は、演出のためと同時に「掃除が楽だから」。

飛び散る吸殻、舞う灰煙 こんな部分も気にしてます

刑事がデスクを叩いて立ち上がる瞬間、デスクの上の灰皿が衝撃で一瞬浮き上がり、大量の吸殻が見える。この吸殻は、実はスタッフ全員の喫煙力のたまものなのだ。

こうした小道具が刑事の動きの激しさをさりげなく表現している。

ロッカーの書類は殺人事件のファイル!

刑事の後ろのロッカーには、資料やファイルがギッシリ。よく見ると、どれも「○○殺人事件資料」とか「○○事件調査ファイル」などのタイトルが書いてある。万一アップになったときのため、美術スタッフが手書きで仕上げたのだ。

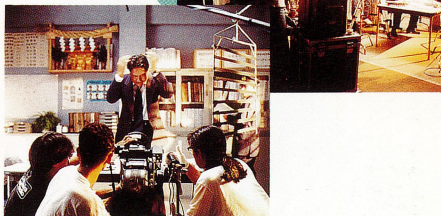
豪華な天井付きセットの真相は……?

この撮影ではセットが天井まで組んである。「カメラ位置が近いんで、竜さんが立つとすごいアオリになって天井まで見えちゃうんですよ」その立ち上がりの場面は、竜さんのスピードにカメラが追いついていけず、何度も撮り直しに。放送では一瞬で終わってしまうが……。

書いて丸めて、丸めて書いて

関係者の相関図を刑事がクシャクシャにする場面。当然、一度丸めた紙は使えない。相関図担当のスタッフは、NGのたびに同じ図を書くはめに。

幻の「かまいたち殺人事件捜査本部」

34ページの絵コンテを良く見ると、捜査本部の看板が傾いている場面がある。キチンとかかっている看板が、カタンと傾くというもので、実際に撮影も行われた。時間の都合でカットされたが、そのデキ映えは御覧の通り。

「実は大ファンでした」中村社長の大いなる野望

撮影現場を訪れた中村光一さんは、実は昔から竜さんの大ファン。終始ニコニコと撮影のようすを見守り、フィルムの上がりにも大満足。撮影後、竜さんにサインをもらって、御満悦の中村さんだった。

SPECIAL INTERVIEW

脚本 我孫子武丸
ゲームの中の殺人

Abiko Takemaru Special Interview

「ゲーム感覚で小説が書けたらいいですよね(笑)」
　ゲームという異なるジャンルでありながら、氏の才能は如何なく発揮された。

我孫子武丸（あびこ・たけまる）
1962年兵庫県西宮市生まれ。京都大学文学部哲学科中退。「京大推理小説研究会」出身。〝新本格推理〞の旗手のひとりである。「Theスーパーファミコン」（ソフトバンク刊）でコラム「日本一の無責任ゲーマー」を毎月連載中。

このゲームなら作家(ボク)でもいけると思ったんですよ

Abiko Takemuru Special Interview

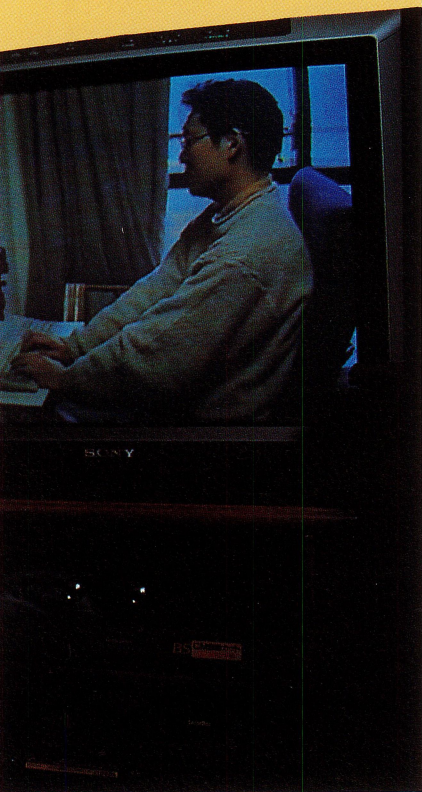
それは『弟切草』からはじまった

——『かまいたち』に参加されたきっかけは？

チュンソフトが、何人かのミステリー作家をモニターとして選んで、『弟切草(おとぎりそう)』を送り、アンケートを取ったんですよ。『弟切草』が発売されたのが昨年の３月ですから、４、５月ですね。そのときに、『僕はもうやってます。ドアドアのころから知ってます』(笑)と感想を書いたんです。それが、中村社長の目に留まって、喜んでくれたそうです。

７月にチュンソフトの方が京都まで会いに来てくれて、それで僕がゲームのことにもくわしいというのが分かって……じゃあ、やりましょう！　ということになったんです。『弟切草』をやってみて、自分の仕事に近いジャンルが初めて出てきたって感じがしましたね。それまでのアドベンチャーゲームよりも文章量が多い分、「僕だったらこうやる」というアイデアもすでにありましたから。

それに、テキストを読ませて音楽をつけるというのは作家としては、一番楽しみなところですからね。

実際、モニターの依頼があったときには、もしかしたら参加することになるかな……という予感はありました。けれども、ひとりで

全部書くとは思いませんでした。アドバイス程度とか、シナリオの一部を書くとか、校正するとかね。それでも、シナリオを上げれば、あとはできるのを待ってればいいのかな、なんて思ってました。でも、そうはいかなかった。(笑)。丸まる2年間、お付き合いすることになりました。

東京のチュンソフトにこもって作業していた時期すらあるんですよ。言うところの〝缶詰〟ってやつです。去年の年末くらいと今年の初めにもやりましたね。計3回くらいやってますね。2週間が1回、1週間が2回。

ホテルはチュンソフトから5分くらいの所で、そこから通ってました。缶詰といってもチュンソフトに出勤してたんですけど……。朝11時ごろにホテルから出勤して。昼は社員と一緒に食べて。夕方まで仕事して帰る、というのをやってたんです。

デバッグの時期に、分岐などで辻褄が合わない所を修正するためには、どうしても書いた本人が、そばにいないとだめなんですよ。

文字数こそ少ないが
小説よりも密度は濃い

──小説原稿執筆と違う点はありましたか？

画面の文字数が少ないので、場面転換のリズムが小説と違うんですよね。特にセリフは、1画面内で完結させないといけませんよね。普通の本の1ページよりも文字数は少ないけれど、めくる感覚は一緒なんです。めくってもずっと会話してたら、間がもたないと思うでしょ。本を読み慣れてない人もいるでしょうし、ページが変わるたびに場面がどんどん変わらないとダメなんですよ。

原稿は感じとしては、長いものだと長編小説並の密度がありましたね。

──脚本執筆に関して、中村さんからは何かオーダーがありましたか？

ほとんどなかったです。だからこっちも手探り状態で。「こういうのは技術的にどうでしょう」とか言うと「何とかしますよ」って。なんでも言った通りになってしまう。(笑)。

それでも、打ち合わせはかなり重ねてます。毎月、京都や東京で会って、そのときに原稿を少しずつ渡していったんです。それを読んでもらって、「もっとこういう感じになりませんか」という提案はありましたね。制作を進めていくなかで、チュンさんのほうも考えがまとまっていったみたいですね。

『弟切草』は同じ長さの話が並行する形でした。今回はじっくり読ませようというコンセプトが固まっていたんです。

初っぱなにドンと長いエピソードを置いて、2、3回やりごたえのある〝本格ミステリー編〟を楽しんでもらう。そこから先は、バラエティーに富んだ話を続出させようということになったんですね。

例えば〝スパイ編〟では、スノーモービルの追撃戦。「007」シリーズでスキーの追いかけっこがあるんですよ。雪山で、ぜひやり

氏自身ゲームには目がない。ゲーム歴は中学から。パソコンから家庭用ゲーム機までほとんど制覇。

たかったんです。スピード感やアクションは表現しにくいはずなのに、スタッフの方々ががんばってくれました。他にも、オカルト、エッチ、ＲＰＧ……かなり、いろいろな要素をブチ込みましたね。

結末として入れたくても入れられなかったのが、犯人が本当に「13日の金曜日」のジェイソンみたいな殺人鬼だったというアイデアですね。

最後、血みどろのスプラッターになる、というのもあったんです。でも、本編がストーリーによっては、血みどろに近い状態になったんで、別にやらなくてもいいか、ということになって。(笑)。

――すべての話をご自分で書いたんですか？

基本的には全部そうです。

ただ、ディレクターの麻野さんという方が、チュンソフトで唯一文系の方なんです。『弟切草』でノウハウは分かってるんで、選択肢が足りないなと思うと、脇の分岐を書いてくれたりしてくださったんです。

「怪奇大作戦」恐怖の思い出

――タイトルの〝かまいたち〟というのは、どこから発想されたんですか？

僕が小学生のときに「怪奇大作戦」という番組があって、そのワンエピソードに「かまいたち」というタイトルの話があったんです。人間が一瞬でバラバラになる事件で……あれがすごく恐かった。この番組のおかげで〝かまいたち現象〟というのも覚えて。(笑)。

それから、随分経って……。デビュー前にですね、それに触発されて小説を書いたことがあるんです。同じ「かまいたちの夜」というタイトルで。もちろん中身は別の話ですし、それ自体が世に出ることはないと思います。

だから、「かまいたち」という言葉には、小さいころ頃から執着があるんですよ。

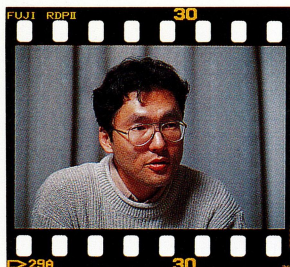
それと人間がバラバラになるのはホラーっぽくて良いかなと。『弟切草』でも感じたことなのですが、メディアの雰囲気自体が微妙にホラー志向ですからね。そういうのに向いてそうなので……。

同じミステリーでもパズルではなくホラー、オカルトっぽいほうが、演出の効果も期待できるだろうと、論理的に積み重ねていって出てきた結論ですね。

――舞台を雪山のペンションにした理由は？

ミステリーをあまり読まない人たちもプレイするということを考えて、オーソドックスな物で行こうということになったんです。登場人物を限定して、閉鎖された空間に閉じ込められるという設定ですね。

普通の人が感情移入しやすい話で、さらに『弟切草』と同じく主人公が若い男女である。そのあたりを考慮した結果〝雪山のペンション〟という舞台が、でき上がったんですよ。

当初、舞台は曖昧（あいまい）だったんです。全国を相手にするものなのでローカルな地名を出した

くはなかったんです。関西の人も関東の人も行くし、日本の真ん中ということで、信州と書いたんですよ。信州なら、白馬だろう、ということになったんです。

今年の2月、チュンソフトの方々と実際に白馬のペンションにロケハンにも行ったんですよ。でも、その時点ではプロットはほとんどまとまっていたので、あまり役に立ちませんでした。スキーは楽しかったです。(笑)。

"音"と"影"の効果は大きい

――でき上がったソフトをプレイしてみて、いかがでしたか？

先ほども言いましたけど、一番大きいのは"音"でしょうね。音楽とか効果音とか。やはり、盛り上がるところで盛り上がる音楽がかかると効果が倍増しますよね。音楽は小説には絶対にない要素なんで。映像はある程度読んでる人の想像力に任せてもいい部分なんですが、音楽はどうしようもないですね。

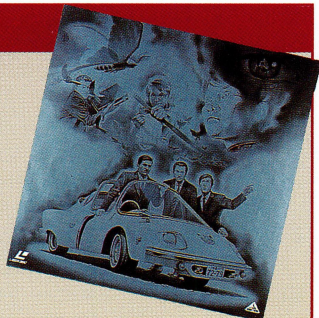
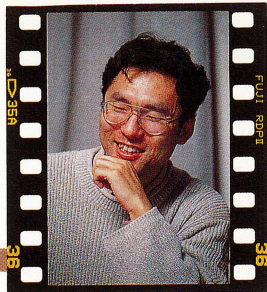
なんでもない映像やシナリオでも、音楽で無理矢理盛り上げることができるでしょ。プレイヤーとしても作家としてもラッキーなことだと思いましたね。

それに今回は、気持ちのいい絵がいっぱいあるんで、つい見入ってしまう。実写のようで実写じゃないですから。これは社員の人とも話していたんですが、次世代機でCD－ROMを使って、完全な実写映像の『かまいたちの夜』ができたとしても良くはないと思うんですよ。2時間ドラマみたいなキャスティングでやってもつまらなかったでしょうね。

――登場人物をシルエットにするというアイ

怪奇大作戦"かまいたち"とは!?

「怪奇大作戦」は、1968年TBS系で放映されたＳＦ犯罪ドラマだ。製作は「ウルトラマン」の円谷(つぶらや)プロ。「かまいたち」は第16話。真空発生機によって路上でバラバラにされる美女たち。この無差別的殺人に科学捜査研究所（ＳＲＩ）が挑む。来春全話ＬＤＢＯＸ発売の予定。必見！

怪奇大作戦
魔界殺人スペシャル
２枚組ディスク
税込価格9,800円
片チャンネルにＭＥテープ収録のマルチサウンド仕様。
バンダイビジュアル

©円谷プロ

デアはどなたが？

僕ですね。ただここまですごいことになるとは予想してませんでした。(笑)。

『弟切草』のときは、人物の顔を意図的に出さなかったそうなんです。でも、今回は人物が多いんで、そういう訳にはいかない。

それに、談話室でたくさんの人が話をしているときに空っぽの椅子が写ってたんでは、間が抜けてるでしょ。それで「影でも描いたらどうですか」と、言ったんです。でもそのときは、動かしてくれと言ったつもりではなかったんですよ。(笑)。

ところが、でき上がったのを見たら、力が入ってて、ひとり一人のデータが、影で見分けが付くくらいにしっかり作ってある。それを各場面コンテを描いて、動かして……。猫は走るし。(笑)。

熱意ですよね、気合いが入ってますよ。

ミステリーとゲーム サウンドノベルの未来

──サウンドノベルの可能性はどうお考えですか？

昔から、パソコンのアドベンチャーゲームは好きで、よくやっていました。でも、既存のアドベンチャーゲームは、推理する必要がない。せっかくミステリー物があるにも関わらず、そこには推理の要素がない。ゲームを解くためには、シラミ潰しにコマンドを選択していけばいい。それは、違うなと思うんです。アドベンチャーというジャンルは、推理には適さないという気がするんですよ。

今回の『かまいたちの夜』では、選択肢次第でプレイヤーを結構誘導でき、選択によっては、解ってる人はちゃんと選べるけど、解らない人は、そこからはじき出されてしまう。サウンドノベルは分類的にはアドベンチャーなんでしょうけど、できれば単なるゲームとしてではなく、ひとつのメディアになればおもしろいとは思いますね。

ただ、他が追随(ついずい)してこない限りは、メディアとして定着したとは言い難いですね。競合する物があって初めてジャンルとして確立できるのではないでしょうか。

次回作は 今までにないシステムで

──次回作の構想は？

今回、とても仲良く仕事ができたんで、中村社長と「またやろう！」という話はしてるし、アイデアなどもいくつかあります。

でも、僕はサウンドノベルではもうやらないと思います。このシステムでやりたいことは、ほとんどやらせてもらいましたから。

それに、このシステムではできないことを考えてるんで……。もっと、コンピュータでないとできないこと。今のシステムはゲームブックでもできるでしょ。紙媒体でも不可能ではないですよね。だから今度はコンピュータでしかできないことを考えているんです。

見た目はサウンドノベルと同じで、ひたすらテキストを読むような物。けれど、まったくシステムが違う物を考えてます。ただ、それが可能かどうかは、また相談ですね。(笑)。

――今後もゲームクリエイターとして進まれるのですか？

いろいろとアイデアはありますよ。誰かが作ってくれるんだったら、当然作って欲しいです。でも、それを仕事にしようとは思ってないです。遊んでるほうが楽しいから。(笑)。

本業のミステリーが中断してしまった感じなんで……短編はずっと書いてたんですが、長編を書いてなかったんで……これからは本業のほうへ戻ります。

次世代機ラッシュのほとぼりが冷めないと、この先どうなるか分かりませんが、映像ではなく、中身を主眼としたような物があっても良いかなとは思います。

アドベンチャーは、あまり映像表現のみに走っちゃうと、まるで映画のようなゲームになってしまうでしょう。それにプレイヤーも目が肥えてきて、ポリゴンを見ても誰も驚かない。実写は当たり前なんて時代が来るかも知れない。そういう状況になるとやはり今度は中身が問題ということになると思うんです。

そういう点でも理系の人だけではなく、文系の人も参加してくる、コンピュータが分からない人でも参加してくるという状況がゲームが成熟していく上で必要だと思うんです。

（1994年11月６日　京都府自宅にて）

8の殺人

我孫子武丸氏のデビュー作。警視庁捜査一課警部補、速水恭三を長男に、次男の慎二、妹の一郎（"いちお" と読む）の速水三兄弟妹が、８の字館で起こった殺人事件に挑む。

発売元　講談社
価格　460円（税込み）

0の殺人

速水三兄弟妹シリーズの第２弾。数少ない殺人事件の容疑者が、連続殺人によって次々に減っていく……。

真犯人が絞られていくように見えるなか、意外な真相が明らかとなる！

発売元　講談社
価格　460円（税込み）

メビウスの殺人

次々と起こる連続殺人の被害者達を結ぶ、意外な共通点とは？　事件を結ぶ "失われた環"（ミッシング・リンク）の謎に、おなじみ、我らが速水三兄弟妹が挑む、シリーズ第３弾。

発売元　講談社
価格　440円（税込み）

『かまいたちの夜』で我孫子ワールドに
引き込まれた、あなたのための

我孫子武丸全作品リスト

Abiko Takemuru Special Interview

探偵映画

日本映画の巨匠、大柳登志蔵監督が仕組んだ、かつてないほどの大仕掛の謎は？撮影途中で監督が失踪するという突発事態に、役者を含めたスタッフが映画の真犯人を推理していく……。

発売元　講談社
価格　540円（税込み）

人形は遠足で推理する

遠足の日。園児達、睦月、嘉夫＆鞠夫を乗せたバスに、拳銃片手の殺人犯が乱入。無実を主張する犯人の殺人容疑を晴らし、バスジャック事件解決に挑む人形探偵の活躍を描く。

発売元　角川書店
価格　760円（税込み）

人形はこたつで推理する

前代未聞の人形探偵が初登場。幼稚園の保母、睦月が慕いをよせる内気な腹話術師、嘉夫。彼の別人格である人形、鞠夫が元人格と正反対の鋭敏な推理で次々と、難・珍事件を解決する。

発売元　角川書店　価格　740円（税込み）

人形は眠れない

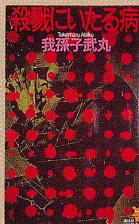
連続放火事件解決に乗り出す人形探偵。一方睦月は、自分に好意を寄せる青年、関口の言動に不可解なものを感じる。関口と事件の関係は？　そして恋仇の登場で睦月、嘉夫の恋の行方は？

発売元　角川書店
価格　760円（税込み）

ぼくの推理研究

TVゲームと児童心理をキーワードに少年少女の心の歪みと成長を描く。退屈な夏休みが一転する飛び降り自殺を扱った表題作の他、ゲーム通りの事件が起きる「凍てついた季節」を収録。

発売元　集英社
価格　760円（税込み）

殺戮にいたる病

惨殺、凌辱を繰り返す異常性犯罪者。彼を猟奇に駆り立てるものは愛か狂気か。大胆且つ緻密な構成で、綴られる事実の断片が、冒頭の”結末”の意外な真実を浮き彫りにしていく。

発売元　講談社
価格　780円（税込み）

ゴリさん わからん篇

掲載時期：
〝わからん篇〟が11月中旬〜12月初旬。〝わかった篇〟は12月中旬〜下旬。〝ピンクのゴリさん篇〟は1月となる予定。

ゴリさん広告３部作は『かまいたちの夜』をプレイしている刑事、ゴリさんのゲーム進行具合いを追ったものである。〝わからん篇〟は、ゲームを始めたばかりのゴリさんのようす。犯人の目星どころか、事件解決の糸口すら見つけられない。事件は早くも迷宮に入り。五里霧中状態だ。ゴリさん、早くも大ピンチか!?

AD ライブラリー

AD Library

〜ゴリさんの華麗なる三段活用〜

竜雷太氏を起用したこの広告は連作形式をとっており、３タイプが制作された。第１弾は発売日半月前に各種雑誌に掲載。ゴリさんがプレイヤーの想いを代弁する！

絶賛発売中

かまいたちの夜

わからん。

ゴリさん わかった篇

左は制作過程のデザインで、実際には右の写真が使用される。この第2弾ではゴリさんもついに事件の謎を解明！　しかし、新たな事件がゴリさんを待ち受ける……。

ピンクの ゴリさん篇

とどめの〝ピンクのゴリさん篇〟。ゴリさん、最後の試練、ピンクのしおりが出現。生唾ごっくんストーリーの連続にゴリさんはピンク色に包まれて、メロメロだ。

竜さんの勢いを第一に考えました。

雑誌広告プランナー
山本啓介さん

今回の広告のアイディアは、すぐにひらめいたもので、一発でゴーサインが出たんです。竜さんの持つ勢いを活かせたおかげで、単純明快でしかも強いアピール度を持ったものに仕上がりました。ちなみに最後の広告は、画面の照り返しでピンク色に染まってるという設定なんですよ。

掲載予定雑誌リスト
「週刊ファミコン通信」「ファミリーコンピュータマガジン」「Ｔｈｅスーパーファミコン」「電撃スーパーファミコン」「覇王」「GAME ON」「GAME WALKER」「GAME　ぴあ」「SPA！」「日経トレンディ」ほか。

AD
ライブラリー

あの感動・あの恐怖がBGMで蘇る!

『かまいたちの夜』のゲームBGMを収録した、オリジナルサウンドトラック。ゲームで味わったあの感動、興奮、恐怖が蘇る。

メインテーマを始め、事件解決の時のテーマ音楽や、涙なしには歌えない香山さんのテーマも入っている。全38曲収録。

「かまいたち夜　サウンドトラック」
発売元/キティエンタープライズ
定価/2,500円（税込み）

CDライブラリー

CD Library

～CDで綴るかまいたちの世界～

『かまいたちの夜』は見て、読んで楽しむゲーム。その『かまいたち』の世界が音でも楽しめるようになった。透や真理たちの声が聞けるドラマCDは必聞!

新感覚!耳で楽しむかまいたち!!

声優によるサウンドスペシャルドラマを収録。ゲームにはなかったオリジナルストーリーで、もうひとつの『かまいたちの夜』が楽しめる。

また、このストーリーは本編とリンクしており、ゲームの中に隠された、ふたつの重大な秘密に関するヒントも入っているとか……。

「かまいたちの夜　CDドラマ」
発売元/キティエンタープライズ
定価/2,800円（税込み）

我孫子武丸より

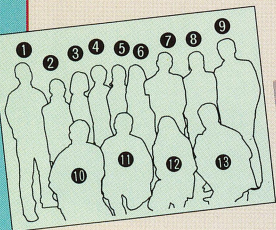
CDドラマのストーリーは、ゲームソフトの制作途中で、宇宙人とかUFOの出てくるSFっぽい話もありかなぁ……なんて思ったのが元になっています。声優さんが声で綴ったもうひとつの『かまいたち』。ぜひ聞いてみてください。

ドラマCD収録現場突撃リポート

総勢13人の声優さんが入ると、狭いスタジオはいっぱいに。出番の声優さんは替わるがわるマイクの前に立ちながら、熱演を披露。

収録に要した時間はおよそ6時間。キャストの良さも手伝ってか、収録は非常にスムーズに行われた。

声優さん一覧

10月24日。アバコクリエイティブスタジオにて収録。

①幸野善之（田中一郎役）
主な出演作：「美少女戦士セーラームーン」「ドラゴンボールZ」
②豊嶋真千子（篠原みどり役）
主な出演作：「美少女戦士セーラームーンS」「ママレード・ボーイ」
③永島由子（渡瀬可奈子役）
主な出演作：「餓狼伝説」「キッスは瞳にして」「ママレード・ボーイ」
④新山志保（河村亜希役）
主な出演作：「テレマルシェ」「CNNデイウォッチ」
⑤笠原留美（北野啓子役）
主な出演作：「ツヨシしっかりしなさい」「アンパンマン」「機神兵団」
⑥大塚瑞恵（小林今日子役）
主な出演作：「ツヨシしっかりしなさい」「シンプソンズ」
⑦岸野幸正（小林二郎役）
主な出演作：「まんがどうして物語」「AKIRA」「銀河英雄伝説」
⑧関根明子（香山春子役）
主な出演作：「ねるとん紅鯨団」「モーニングショー」
⑨岸野一彦（香山誠一役）
主な出演作：「キン肉マン」「YAWARA」「勇者特急マイトガイン」
⑩置鮎龍太郎（久保田俊夫役）
主な出演作：「スラムダンク」「ママレード・ボーイ」
⑪緑川　光（矢嶋　透役）
主な出演作：「新世紀GPXサイバーフォーミュラ」「スラムダンク」
⑫冬馬由美（小林真理役）
主な出演作：「ロードス島戦記」「ぼくの地球を守って」
⑬林　延年（美樹本洋介役）
主な出演作：「機甲警察メタルジャック」「蒼き伝説シュート」

ゲームの舞台となった

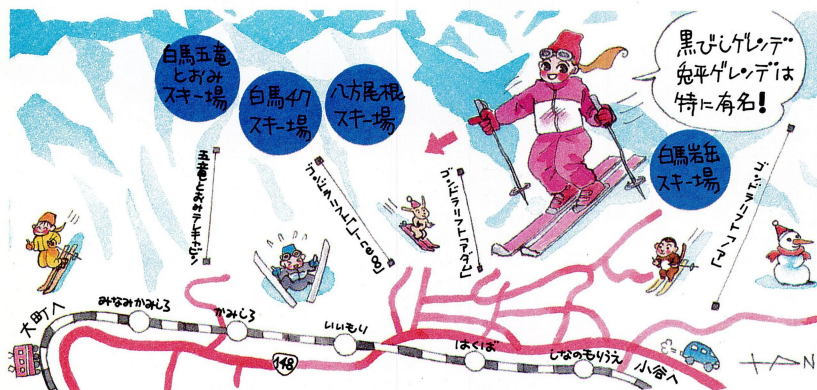
白馬をたずねて

Hakuba wo tazunete

白馬といえば、まずはスキー そのスケールは世界屈指!!

雄大な北アルプス連峰の懐に広がる白馬スキー場は、スケール、積雪量、雪質の三拍子そろった、世界屈指のスキーのメッカ。

1998年の冬季オリンピックの会場にも決定している。なかでも物語の舞台ともなった八方尾根(はっぽうおね)スキー場は、ビギナーから上級者までが満足できる多彩なコースを誇り、特にここのリーゼンスラロームを滑るのは、スキーヤーの憧れと言われている。

◀高度差630メートル、全長約2キロを8分で登る6人乗りゴンドラリフト〝アダム〟。

▲個性的なスキー場が点在する、まさにスキーパラダイス。12月初旬〜5月初旬までの間、たっぷりとスキーが楽しめるのもうれしい。リフトの数やゴンドラが充実しているので、移動もラクラク。特にゴンドラは、暖かくて御機嫌!

黒菱平(くろびしだいら)から八方池(はっぽういけ)までは〝自然研究路〟ともなっている絶好のハイキングコース。

目的地の八方池は、白馬三山や不帰ノ嶮(かえらずのけん)を映した素晴らしい眺めを披露してくれる。

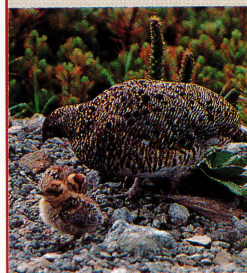
絶景！後立山連山を映す八方池

都会の喧騒を忘れトレッキング

オフシーズンは山歩きに挑戦。春は山菜摘み、夏は万年雪を見ながらの登山、秋は紅葉狩りと、山は豊かな表情で我々を迎え、楽しませてくれる。

1年中満喫できる白馬の自然

かれんな花をつける高山植物

シーズンごとに咲き乱れる高山植物はなんと100種類近くあるという。夏なお雪の残る大雪渓でも、美しい花をつけ、見るものの心をなごませてくれる。

豊かな自然の中にはフクロウやオコジョ、ニホンカモシカにヤマネなど、多くの野性動物が生息している。

写真の鳥は天然記念物に指定されているライチョウ。冬は羽が雪のように真っ白になる。

協力：白馬村役場観光課

遊・食・見

白馬には、知る人ぞ知る個性的な美術館や史跡が多数点在。スキーやハイキングの合間にぜひ足を運んでみよう。そして遊び疲れたら、温泉につかって、名物に舌鼓！

白馬美術館

色彩の魔術師・シャガールの版画を多数展示。館内では、彼の生涯と代表作を盛り込んだスライドも上映されている。

料800円／時9:00～18:00(冬期10:00～17:00) 毎月最終水曜休館／☎0261-72-6084

和田の森美術館

教会前に建つ、レンガ造りの美術館。憂いを帯びた美人画で有名な、カシニョールのリトグラフコレクションが展示されている。

料400円／開館時間、休館日は季節ごとに異なる。事前確認を。／☎0261-72-5048

和田の森教会

白樺の中にたたずむロマンティックなチャペル。ここでの結婚式に憧れる女の子も多いとか。式の後、そのまま参加者とともにゲレンデを滑るという白馬ならではの結婚式も挙げられる。敷地内には洒落たティールームもある。自然の中で飲むお茶は、また格別！

切久保神社

旧松本藩の四大社のひとつ。七道祭で使われる氏神様の宝物、七道の面がある。その中の般若の面には、その昔〝おかる〟という嫁が折り合いの悪い姑を驚かそうとつけたところ、顔からはがれなくなってしまったという伝説が残っている。

おみやげ・名物

信州といえば、蕎麦。白馬の銘水で打たれた蕎麦はさすがに美味！　また、中にナス味噌やつぶあんが入った〝おやき〟は、素朴な故郷の味で人気。おみやげには、地元芸術家が彫った木彫の小物や手作りブルーベリージャム、野沢菜などがおすすめ。

▶サクッとした歯触りの銘菓、「雷鳥の里」。

◀駅近くの民芸品店で見つけた、ちょっとエッチな道祖面。

CHECK CHECK!!

本当にあったかまいたち伝説!?

風切地蔵

落倉の道端にひっそり立つこの地蔵。見ると手に鎌を持っている。この鎌で農作物を風や虫、病気から守り、人に災いをもたらす悪霊を追い払ってくれるというのだ。

そのため、今でもこのあたりには、鎌を立てて風を断ち切るという風習が残っているという。

温　泉

北アルプスの麓に湧き出る白馬八方温泉には、小日向、みみずく、第一郷、第二郷など様々な浴場が点在。泉質はアルカリ性。単純泉で疲労回復や筋肉痛によく効くとか。スキーの後にはもってこい！入浴料400円。

◀遊び疲れた後は、自然に囲まれた露天風呂でのんびりと。

ACCESS DATA

車：長野自動車道豊科ＩＣから国道147号→148号で約54キロ
電車：新宿駅から特急あずさで松本へ。大糸線に乗り換え、白馬駅下車。
問い合わせ：白馬村観光連盟☎0261-72-7100 白馬村観光案内所☎0261-72-2279

白馬八方 観光MAP

ゴンドラリフト「アダム」
和田野の森教会
ペンション白馬クメプル
白馬八方温泉野天岩風呂
八方尾根スキー場
和田野の森美術館
白馬美術館
岩岳スキー場
平川
おもしろ発信地
どんぐり村
ゴンドラリフト「ノア」
八方温泉
白馬大橋「日本の道百選」
倉下レジャーランド温泉
大楢川
松川
大町へ
保養センター「岳の湯」
塩の道
藤森酒店
148
白馬中
白馬役場
おみやげやさんグリーンベレーガーデン
観光案内所
歴史民俗資料館
白馬グリーンスポーツの森
はくば
大糸線
小谷へ
姫川

※時：営業（開館）時間／料：料金を表しています。

ペンション クヌルプ通信

Pension Knulp Tushin

物語の舞台〝シュプール〟のモデルとなった白馬クヌルプを紹介！

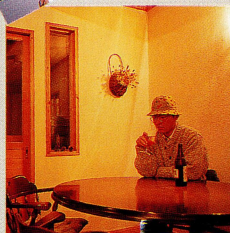
2F

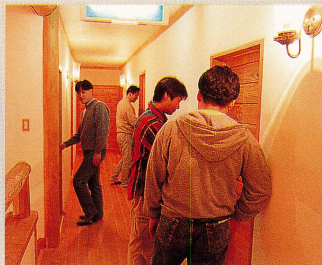
清潔で明るい客室は、全室ＴＶ、電話、冷暖房付き。

1F

大きな窓から自然の光がいっぱい差し込む、解放感あふれるダイニング。ログハウスならではの木の香りに、気持ちもなごむ。

夜は落ち着いた雰囲気のバーに変身。ところで、この怪しい人物は一体、誰……!?

心のこもったディナーは、奥さんが担当。メニューはバラエティ豊かで、味も絶品！

真理も飲んだ!?　口当たりの良い、クヌルプレーベルのワイン。

2階には、廊下をはさんで7室の客室がある。おや？ この人物の配置はどこかで見たような……。

登場人物たちも集った、客同士で話もはずむ談話室。

お風呂は、檜風呂と岩風呂のふたつ。人工温泉なので、24時間いつでも入れるというのがうれしい。

鳩時計の代わりに、可愛いからくり時計が。

山菜、木の実、野性の果実と、一歩外に出ると、そこは自然の宝庫。このカワグミは果実酒になる。

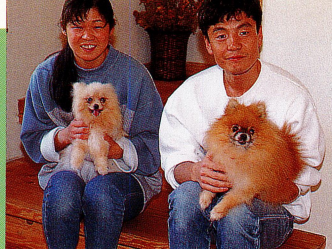
ミシシッピ・マッドケーキに並ぶ人気デザート クヌルプ風ニューヨークチーズケーキの作り方

材料

クリームチーズ450g／無塩バター50g／サワークリーム200g／全卵2個／卵黄2個／砂糖150g／コーンスターチ15g／バニラオイル少々／チーズに酸味が足りないときはレモン汁を少々加えること！

❶室温にもどしたバターとチーズを、泡立て器で混ぜ、なめらかになったらサワークリームを入れ、また混ぜる（チーズの酸味が少ないときは、レモン汁で調整）。❷①に砂糖をふるいながら入れて、よくかき混ぜる。❸よく溶いた卵全部を、②の中へ少しずつ静かに入れていく。そこへコーンスターチをふるいながら入れ、最後にバニラオイルを少々加える。

❹バターを全面に塗った型にシートをひいて、③を流しこむ。これを160度に熱しておいたオーブンへ入れる（このとき鉄板に5ミリほどお湯を張っておくのがコツ！）。❺1時間〜1時間10分焼いてでき上がり。❻冷蔵庫で1日寝かせてから召し上がれ！

オーナーは自然を愛するモーグラー

思う存分白馬を楽しめるペンションを心がけています

玄関に一歩入ると、オーナーの愛川(あいかわ)浩一(こういち)さん・佳代(かよ)さん御夫婦が、あたたかい笑顔で迎えてくれた。

「ここにはみなさん、スキーやパラグライダー、テニスにMTB(マウンテンバイク)、釣りなどを楽しみにみえるんです。うちは、ゲストもキャストも、遊ぶときは真剣に遊んじゃうんですよ。また、静かなときを過ごしたい方には、自然散策がおすすめ。変化に富んだ山の表情を眺めているだけで、贅沢な気持ちになれるんです」

オーナーは現在、無数のコブを越えて滑るモーグルスキーに夢中。チームを結成し、競技大会に向けて、特訓中とのことである。

「私の大好きな場所です。この景色の前に、言葉は不要ですね」

クヌルプの由来は？

「昔読んだ、ヘルマン・ヘッセの小説のタイトルからつけました。この作品の中には、自然を愛した放浪の芸術家・クヌルプの魂が描かれています」

しおりのフクロウは、クヌルプの外灯だった！

ミシシッピ・マッドケーキは本当にあります！

プレイ中に〝ミシシッピ・マッドケーキとはなんぞや？〟と思った人も多いはず。さてこの正体は？

「ココアパウダーやチョコレート、ピーカンナッツなどを入れて作るアメリカのケーキです。名前はミシシッピーの湿地帯からつけられたそうで、クヌルプでもたまに作ります。別名どろんこケーキなんていうんですが、おいしいんですよ！」

information

ＪＲ白馬駅より車で７分。送迎有／客室数９室。'94年冬コテージを新設／料金１泊２食6,500円～／素敵なオリジナル商品はおみやげに最適。

〒399-93長野県北安曇郡白馬村北城9343／☎0261-72-6778

編集部からのお願い

今回はクヌルプさんのご厚意で、いろんな場所を見せていただきました。そこで、実際に宿泊されるみなさんにお願いです。

オーナーはおおらかな方なので何もおっしゃいませんが、みだりにいろんな所を開けて、現場検証などしないでくださいね！

かまいたちの夜

超ウルトラカルト QUIZ

section I

次の記述は、ゲーム中の登場人物について述べたものです。どの記述が誰のことを述べたものか、該当する人物を下の語群より選んで答えなさい。

(各2点、計14点)

A ( )

いつも仲間と一緒に行動しがちな中にあって、この人物だけは印象に残りやすい。事実、スパイになったときには、単独行動で主人公に色仕掛けをしてきたりするが、それが結果的に自分だけが先に命を失う原因にもなっている。スキーは仲間の中でもっとも上手いようだ。

B ( )

比較的おとなしめのキャラクターといってもいいだろう。顔立ちのほうは、かなり整っているようだ。真理に霊が取り付いたエピソードでも犠牲者となっているが、スパイになったときには一転、一番大きな武器を持ったりもする。選択次第では、主人公を撃ち殺す加害者になることすらある。

C ( )

主人公たちが雪の中で迷ったときに一番最初に犠牲者として発見される人物である。

最初のミステリー仕立てのエピソードのときが一番印象に残るキャラクターで、被害者になったり、主人公を殺す加害者になったり、果ては自殺までしてしまうのは、やはりその短気な性格のせいだろうか？

D ( )

目立たないキャラではあるが、ときおりその妙な行動で注目を浴びることになる。まず第一に料理を作るのが下手なこと。その割にはお茶などを入れるのは上手いようである。また、ロウソクという言葉に敏感に反応し、ムチまで用意してしまう、おかしな癖も持っている。

E ( )

各エピソードでその役どころがもっとも大きく変わるキャラクターといっていい。しかも結構重要な役が多いので、役者とすれば、おいしい役ともいえる。またその善悪のイメージも大きく変わり、特にミステリー仕立てのときと、オカルト仕立てのときとでは、180度変わる極端なキャラクターである。

F ( )

仲間うちの中ではもっとも機転がききそうなキャラクター。主人公も「仕事は一番できそう」という印象を受けている。セリフが比較的多いのもそのためか？　スパイ仕立てのエピソードのときは、アイスピックを持って、主人公たちに襲いかかってくる。

G ( )

エピソード次第で、印象に残る活躍をしたり、全然影が薄かったりと両極端なキャラクター。もっとも派手に動くのがスパイ仕立てのエピソードのときだが、ミステリー仕立てのエピソードのときに、このキャラの犠牲のおかげで、謎が解けたというプレイヤーも多いはずだ。

語群

①小林二郎　②小林今日子　③香山誠一　④香山春子　⑤田中一郎　⑥美樹本洋介
⑦北野啓子　⑧渡瀬可奈子　⑨河村亜希　⑩久保田俊夫　⑪篠崎みどり

section II 次に挙げた各設問に関して、正しいと思われる解答を、下の選択肢の中から選びなさい。（各２点、計30点）

問１ 次の中で主人公のギャグのレパートリーにないのは、誰のギャグ？
１）ハナ肇　２）植木等　３）谷啓　４）荒井注

問２ シュプールで飼っているネコのジェニーの種類は？
１）黒猫　２）三毛猫　３）トラ猫　４）シャム猫

問３ 真理が提案して、各自が手に持った武器になかったものは次のどれ？
１）ストック　２）ハンガー　３）モップの柄　４）果物ナイフ

問４ 夕食の時、北野啓子はスープを何杯おかわりした？
１）２杯　２）３杯　３）４杯　４）５杯

問５ 真理と主人公が信州にやってきたのは、何月何日？
１）12月21日　２）12月24日　３）12月31日　４）２月14日

問６ テレビのニュースで銀行強盗にあったと報じられたのは、何銀行の新宿支店？
１）第一産銀　２）二葉銀行　３）三友銀行　４）四菱銀行

問７ 主人公が大阪に就職してしまうシーンで、大きなカニがついた店の看板に書かれていた屋号は何？
１）カニ豪遊　２）カニ遊楽　３）カニ円楽　４）カニ満腹

問８ 主人公が食堂で真理の手と間違えたのは何の形をした灰皿？
１）木の葉　２）魚　３）貝殻　４）ぶどう

問９ 美樹本が主人公に渡したお守りに付いていたのは、何のお守りだったか？
１）商売繁盛　２）安産祈願　３）交通安全　４）悪霊退散

問10 ゲーム中、もっとも章が多くなると、31章まで行くが、そのタイトルは何？
１）チャイムが……　２）サバイバルゲーム　３）二つの惨殺死体　４）裏口の血痕

問11 近未来のロシアが舞台のトレンディドラマ「101年目のコルホーズ」に登場する、冷凍睡眠していた政治家は誰？
１）ブレジネフ　２）スターリン　３）ゴルバチョフ　４）エリツィン

問12 ゲーム中に登場するＳＦＣソフト『かまいたちの夜』に出てくる、ノヨル・カーマイさんの国はどこ？
１）ロシア　２）フィンランド　３）ノルウェー　４）デンマーク

問13 真理が完走したことがあるというゲームセンターのレースゲームは何？
１）アウターラン　２）チャレンジグランプリ　３）トップポジション　４）究極レーサー

問14 真理と知り合うきっかけとなったデパートの屋上でのアトラクションで、主人公が演じていたのは？
１）ナマコ怪人　２）レッドニンジャー　３）イカゲソラー　４）ウミウシ男爵

問15 ゲーム中に登場する真理の母親の名前は、純子と何？
１）しのぶ　２）沙織　３）美雪　４）八千代

section III

次に挙げたA群の人名と、もっとも関係の深い語句やセリフをB群より選び、線で結びなさい。 （各２点、計20点）

問１

［A群］	［B群］
ア）香山誠一　・	・①「プラズマよ！　プラズマのしわざだわ」
イ）香山春子　・	・②「やっぱり　畳の上で　大往生」
ウ）小林二郎　・	・③「素敵な出会いに」
エ）河村亜希　・	・④「しょうがなかったんだ。しょうがなかったんだよ……」
オ）渡瀬可奈子・	・⑤「虫も殺さないような顔して……あたしも危うくだまされるとこだったわ」

問２

［A群］	［B群］
ア）釜井達郎　・	・①真理の叔父
イ）美樹本洋介・	・②フランスの情報部員
ウ）小林一郎　・	・③通りすがりの魚屋さん
エ）北野啓子　・	・④真理の父
オ）久保田俊夫・	・⑤日本政府の防諜機関

section IV

語群にある語句を正しい順番に並べ変えて、カッコ内に入る言葉を完成させなさい。 （計10点）

A （３点）

主人公と香山さんの最高の贅沢論争は、（　　　　　　）という順にエスカレートしていった。

語群

ア．真夏にクーラーをかけて鍋を食う
イ．赤道直下で冷凍庫に入る
ウ．寒い時に暖かくして飲むビール
エ．南極でストーブをたいてアイスキャンデーを食べる

B （７点）

主人公が気絶中に夢で見た最難関スキーコースは（　　　　）コースである。

語群

ア．サンダー、イ．トリャー！、ウ．エキスパート、エ．ソリャー！、オ．ドラゴン
カ．ウルトラ、キ．スペシャル、ク．ウオリャー！

次のゲーム『かまいたちの夜』に関する記述を読み、正しいと思うものには○を、間違っていると思うものには×をカッコ内に記入しなさい。

（各３点、計12点）

A （ ）

ゲームの舞台となったペンション〝シュプール〟は料理がひとつのセールスポイントであり、ストーリー中にもいろいろなレシピが登場する。

ケンチン汁にミネストローネ、中華のスープ、ファッチューチョンも出ているようだが、これは主人公が名前をうろ覚えにしているため、はっきりしない。このとき、料理の語源のエピソードとして登場し、真理に突っ込まれたのがママカリである。

B （ ）

ゲームの登場人物には、それぞれいろいろな特技がある。スキーが得意な真理は、他に合気道の心得もあるようだし、香山さんは、柔道が得意だというが、これは少々当てにならないようだ。また、俊夫さんも体が柔らかいのが自慢だが、それは長年ヨガをやってきているからだ。

C （ ）

ゲーム中、主人公と真理は時折、漫才コンビのような絶妙のボケと突っ込みを見せる。主人公がイスラエル諜報機関モサドをインド料理の名前と間違えたときや、かまいたちを学校給食に出るような食べ物と間違えたときなど口に出さずとも、すかさず真理が突っ込みを入れて、名(迷？)コンビぶりを発揮している。

D （ ）

実際にプレイする時間はともかく、ゲーム内における進行時間は、実は非常に短い。宿泊客のほとんどが各国のスパイというエピソードで、何とか翌日の朝食にありつけることができる以外、日付こそ変わるが、翌日の朝になる前にエンディングを迎えるものがほとんどである。

次の『かまいたちの夜』に関する設問に答えなさい。 （計14点）

問１ （４点）

最初のミステリー仕立てのエピソードで、バラバラにされた被害者の本当の名字は何という？

問２ （４点）

主人公たちがＯＬ３人組と最初に出会ったとき、真理が間違われた女優の名前は？

問３ （６点）

しおりをピンクにするためには、最低何回のプレイ回数が必要か？

クイズの解答はP62からの袋綴じにあります。

✂ ⇨

section I

A－⑧、B－④、C－⑩、
D－②、E－⑥、F－⑨、
G－⑪

解説

一応基本カルトではあるが、ミステリーを解決していない人には難しい問題であろう。

逆にミステリーを解決している人にとっては、ＯＬ３人組の区別がつきにくい（誰がどのキャラか、名前まではっきり覚えていない程度だと思うが）以外は簡単なはずだ。

Ｄがオーナー夫人の小林今日子であることは、料理が下手であるということから用意に推察できると思うが、「ロウソク云々」のおかしな癖は、ピンクのしおりになってからでないと、お目にかかれないものである。

section II

問１：４、問２：１、問３：２、
問４：４、問５：１、問６：３、
問７：２、問８：３、問９：２、
問10：２、問11：３、問12：３、
問13：４、問14：１、問15：３

解説

問１から７までは基本カルト。些細なことではあるが、ミステリーを解決していなくても解ける問題である。

問10もミステリー未解決でも、できる問題だが少し難しいかもしれない。裏口の血痕を発見し、一度外に出てから、俊夫に襲われる前に引き返せば、31章まで行くはずである。その他の問題は大体、ミステリーさえ解決していれば解ける問題だが、問13と14だけは、しおりがピンクになっていないと、わからない問題である。

section III

問１：ア－②、イ－⑤、ウ－④、
エ－①、オ－③
問２：ア－③、イ－①、ウ－④、
エ－②、オ－⑤

解説

問１は基本カルト。香山誠一のカラオケの歌詞だけは、ピンクのしおり以降のものだが、消去法でいけば残るはずだから、解けなくはないだろう。

問２も釜井達郎という、ピンクのしおり以降に登場する人物がひとり混ざっているだけなので、基本的な難易度は問１と変わらないはずなのだが、混同しやすい要素を入れてあるので要注意。真理の叔父は小林二郎であって、小林一郎は真理が母親の霊に乗り移られたときに明らかにされる真理の父である。そのときには美樹本が真理の母方の叔父ということになるのである。

A：ウ→ア→エ→イ

B：カ→ウ→キ→ア→オ→ク→イ→エ

解説

Ａに関しては解説は必要あるまい。基本中の基本問題である。

Ｂはピンクのしおりにさえすれば、すぐに見られるものだが、なかなかその順番まではしっかりと覚えている人はいないだろう。原作の我孫子氏ですら、すぐに答えられるかどうか定かではない、超難問題である。

解説

Ｂはほとんど正しいが、最後の俊夫の体の柔らかい理由のヨガが間違い。俊夫は確かに体の柔らかいことが自慢だが、ヨガをやっていたなどとはひと言も言っていない。

Ｃでは、主人公は「こんや　かまいたちがくる」のメモを見て、確かに給食のときに出た食べ物だと大ボケをかますが、このときに真理は突っ込みを入れていない。

①南

解説

みどりさんが死んだところまでで、事件を解決すれば、犯人は動機を明らかにし、バラバラにした犠牲者の名前も明かしてくれる。

②原田桃世

③21回

解説

ピンクのしおりにするためにはミステリーで事件を解決して、他のエピソードも登場させた後の、バッドエンドも含めたすべてのエンディングを見なくてはならない。

その数は全部で21個。内訳は、

●殺人事件の犯人を見つける最初のエピソードで13個。
●雪の中でさんざん迷うエピソードで１個。
●宿泊客がみんなスパイになるエピソードで４個。
●真理が霊にとりつかれるエピソードで２個。
●ゲーム内でＳＦＣ『かまいたちの夜』をプレイするエピソードで１個。

となっている。

難しいのは、最初のミステリーエピソードにある13個すべてを見ることだろう。ちなみに、みどりさんの犠牲までで、解決できる前半部に７個、みな殺しパターンとなる後半部に６個のエンドが用意されている。

見落としやすいと思われるのは、前半部ではもっとも早く解決できるハッピーエンドに３つのパターンがあることと、みどりさんの犠牲の後で解決するところで、ふざけてわざと自分が犯人だと言ってみるところあたりか。

後半部では、最後の名前入力のところで、香山さんの奥さんを入力したり、真理を疑ってみたりするあたりが、盲点となりやすい。

■スタッフ

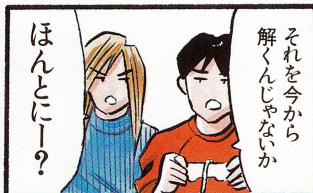
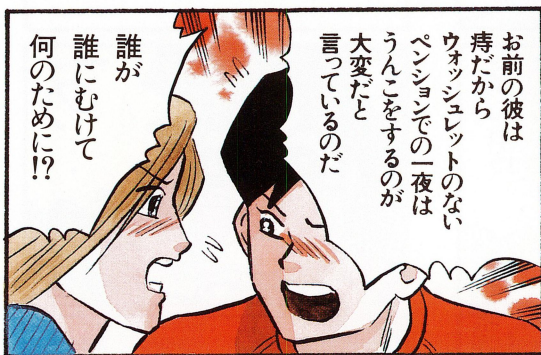
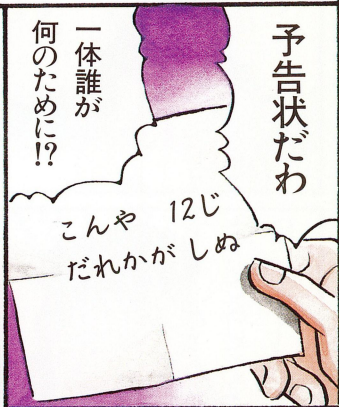
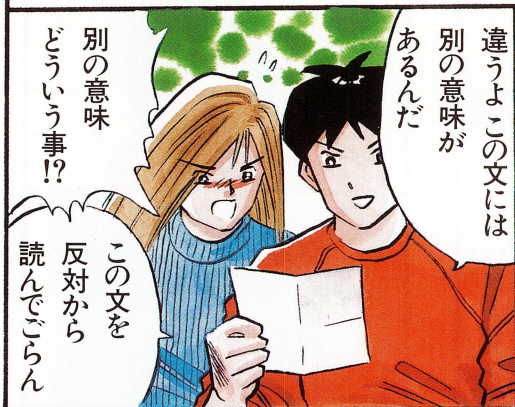
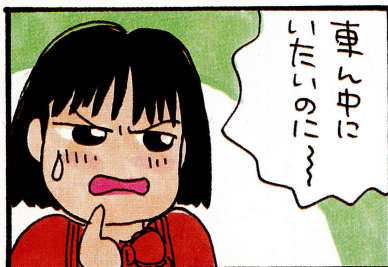
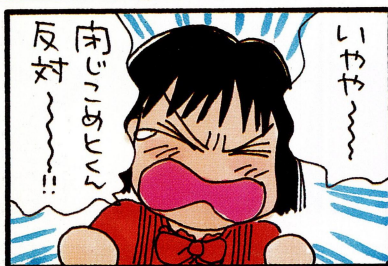
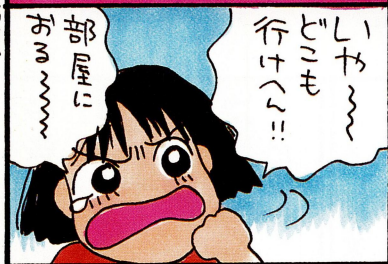
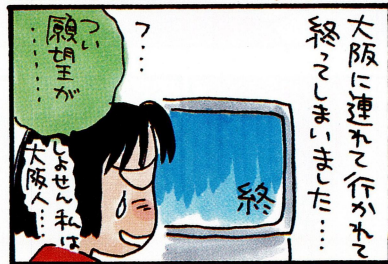
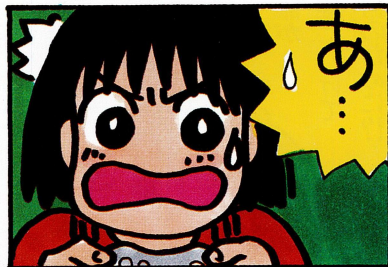
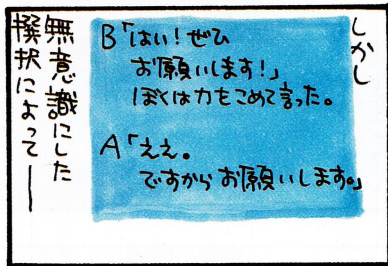
企画・構成	永田浩章／西谷英晃	（超音速）
装丁	辰巳四郎	
本文デザイン	黒川孔美子／坂本直樹	（エストール）
制作・進行	大内めぐみ	
取材・原稿	竹中　清／木川明彦／錦織　正	
	高橋　栄／仁木伸明／荻原麻里	
	大川直人	（スタジオ・ハード）
	沙籐いつき	
	安藤尚彦	
撮影	中村雅章	（エムズ・モリヤマ）
	奥田珠貴	（プレスセンター大阪）
	インタニヤ	
DTP	能島健二	（スタジオ・ハード）

■寄稿・執筆

マンガ	しりあがり寿	
	いしかわじゅん	
	青木光恵	
	喜国雅彦	
イラスト	大原泰志	（キャラクターズ）
	吉井　宏	（ペンション・シュプール）
	長島はちまき	（白馬マップ）

■制作協力

ペンション・白馬クヌルプ
白馬村役場　観光課
㈱アクターズ　プロモーション
㈱青二プロダクション
俳協
㈱日本経済広告社
㈱テイク・ワン
㈱アメリカン・クリエーション
㈱スチュディオシークアトロ
ソフトバンク㈱
The Super Famicom編集部

署名のない手紙　喜国雅彦

帰りたい….

これが1番最初に見たエンディングでした…。

恐怖モノのナゾ

青木光恵

大阪のオッサン

「ひゃあ助かった。
死ぬかと思たわ。」

↑
大ゲサ

「あかん。どこもやってへん。
もうちょっと待たなしゃあないか」

↑
せっかち

「君ら今日の終わり値きいてへんか?」
「株価や株価」

↑
金にこだわる

かまいたちの夜

青木光恵

と、ゆーか「ファミコンが家にあった」ことが今までなかった。パソコンとゲームボーイのみ。

うちにはスーファミがないのでソフトといっしょに送ってもらった…

しかし…

?

なんやこれ

これ…「さしこむ」…?

き…きばん?

なんや?てな感じでわやでした…。

ファミコンなれしてるアシスタントさんにつなぐのをまかせたら勝手に私と夫の名前でプレイするようにされてしまった…。トホホ…。

「じゃ光恵の家って金持ちなんだ」

いしかわじゅん

うるさいわねえ
そんなこといったってこれが…

ええと…こっちを選択…

あ〜〜〜〜オレが死んじゃった〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜！
だ〜〜

このこのこのー犯人はオマエだな〜〜っ！
ヤス〜〜ー！
間違い
もう眠いから先寝るよー
あ〜〜〜また殺された〜〜〜〜〜〜〜〜〜！

よし…じゃあ思い切ってウケ狙いの選択だー！
ガチョーン
ダメだ〜〜〜また死んじゃった〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜！

なんだーまだやってたのー
おはよ〜〜
ギャー！
クソ〜〜〜また死んだ〜〜〜〜〜

かまいたちの夜
を考える
ちょっと
いしかわじゅん

〈かまいたちの夜〉をやっていただいてですねその感想を漫画にしていただきたいんです
フーン

え…〈弟切草〉作ったとこなの
アレはやったけど…

出来はなあ…
これは大丈夫ですよ

推理作家の我孫子武丸さんがシナリオ書いてるんです
へーえ我孫子くんが
いろんなことやってんなー

どれどれやってみるか
なあにその基板

フムフム雪山が舞台か

ウワ〜〜〜っもう殺されてる〜〜〜〜！
ウワ〜〜〜〜ッそんなおっかない〜〜〜〜

しりあがり寿

もー プップカ プップカ おならばっか してぇ〜〜!!
ぶー

どうしますか?
・あやまる。
・もう一発オナラする。
・ウンコまでしちゃう!!
ピッ

アンタ ねえ… 後で みときな…
ふふふふ…
ぷり

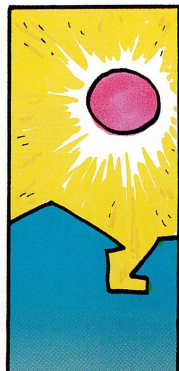
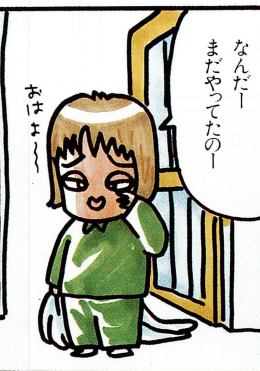
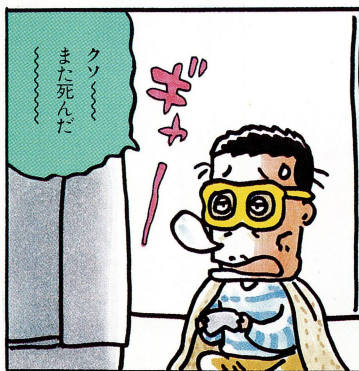
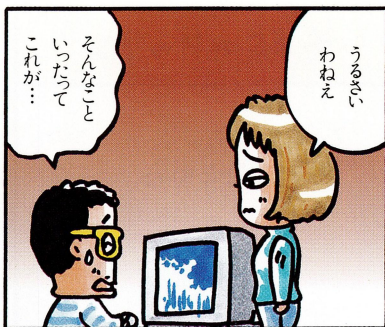
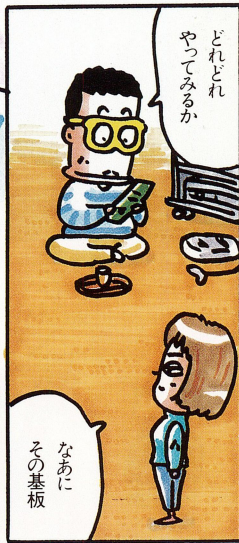
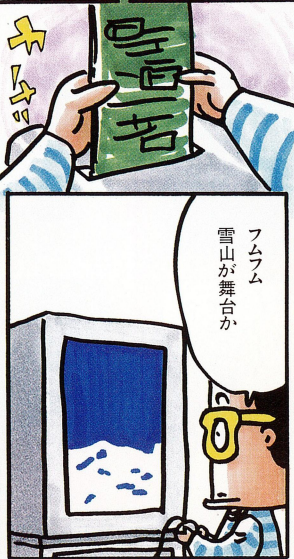
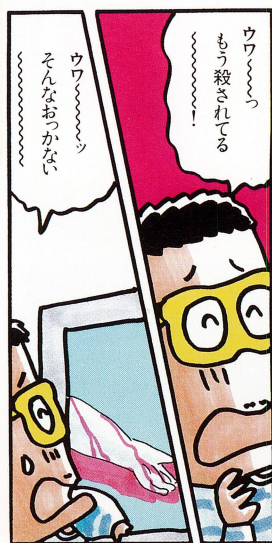
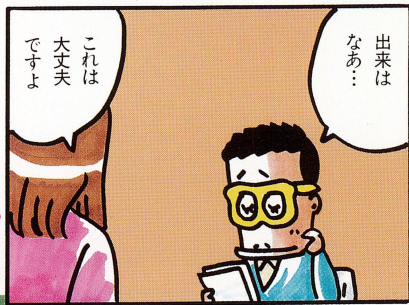
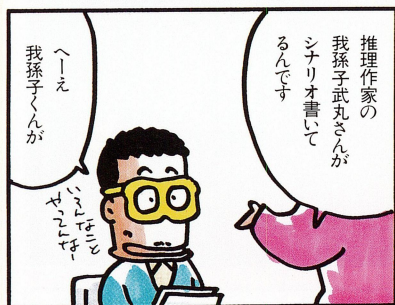
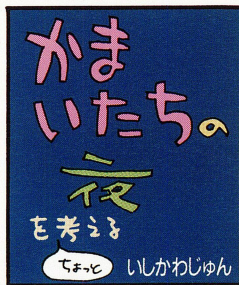
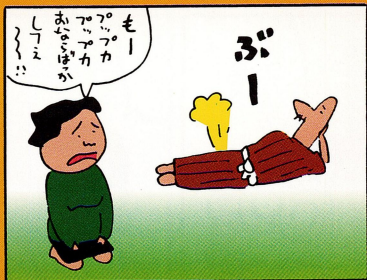
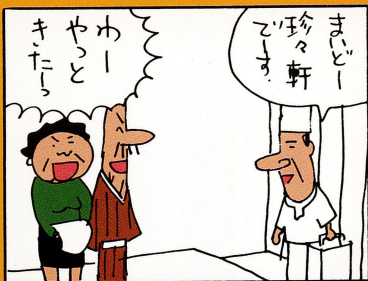
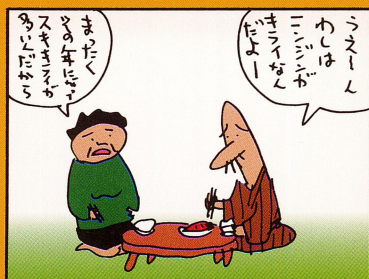
どうしますか?
・自分で食べてキレイにする。
ギャー
コマンドが一つしかない!!

まいどー 珍々軒 でーす。
わー やっと きたー

出前に何と言いますか?
・ごくろうさま。
・オマエが犯人だろ。

出前に何と言いますか?
・ごくろうさま。
・オマエが犯人だろ
ピッ

あんたが 誰かれ かまわず 犯人よばわり するからだよ!!
あ〜 ハラが へったなあ〜

「サウンドノベル」とーさん

いあがり

ニンジンを食べますか?
・食べる
・のこす

ニンジンを食べますか?
・食べる
・のこす ◀

ピー
あなたは偏食が
もとで死にました。

わー
リセット
してくれー!!

かまいたちの夜

COMIX

しりあがり寿
いしかわじゅん
青木光恵
喜国雅彦

もう一つ作ってみましょう。一八ページの最後の行です。

ぼくは考えた。

A：怖い話は苦手だ。部屋に戻ろう。

B：一人で暗い部屋にいたくはない。ここにいよう。

C：今なら真理の体を触っても誰だか分かるまい。

こういう主人公の思考パターンというのは、プレイヤーの性格がもろに反映されて、別の面白さが生まれたりすることもあります。

おや、そろそろ時間のようです。では、次回までに各自、いくつか分岐を作ってくるように。エンディングまで書いてあると一番よいのですが、長くなるようなら途中まででも結構です。独創的なものを期待しています。ではこれで。

（第二回　終了）

というわけで、あとがきのほうも、ちょっと趣向を凝らしてみました。

さて、読者の皆さんも、講師の我孫子氏が次回までの課題として出された、いくつかの分岐を実際に作ってみませんか？

分岐のみでも構いませんし、もちろんその後の展開をしっかり最後まで書いてもらってもＯＫ。形式は問いません。そうしてできた"あなただけの『かまいたちの夜』"をチュンソフトまで送って下さい。審査の上、優秀な作品を送って頂いた方30名様に「かまいたちの夜　ドラマＣＤ」をプレゼントします。みなさんの力作をお待ちしています。

［あて先］東京都新宿区新宿6-24-20
丸増新宿ビル10F
株式会社チュンソフト出版部
「あなただけの『かまいたちの夜』」募集係
［締　切］平成7年3月31日
［発　表］平成7年6月第4週発売の
「ファミコン通信」誌上にて発表（予定）。

ベンチャーゲーム的に主人公の行動や思考など、プレイヤーの意志が反映される部分に作るのが望ましいと思っていますが、絶対そうでなければならないということはありません。途中まで同じ設定を使ったまったく別のストーリーを読むことは、それはそれで面白いはずですから。

　理論はさておき前回講読した小説版の『かまいたちの夜』を使ってサンプルの分岐を作ってみましょう。

　まずは分岐の作れそうな箇所を探すところから始めます。テキストを開いて下さい。

　最初から読んでいきますと……三ページ六行目にありました。

「列車の……（中略）……がっかりした」という部分です。ここは主人公の反応ですから、少し想像力を働かせれば、主人公に別の対応をさせることも可能です。こんなふうに。

「さあ、そろそろ到着ね」列車のアナウンスを聞いて真理が言った。

A：旅の終わりのような気がしてぼくはほんの少しがっかりした。

B：待ちに待ったスキーができるのだとぼくははやる気持ちを抑えた。

C：「何言ってんだよ。降りる駅はもう一つ先だろ」ぼくは真理の早とちりを笑った。

この場合、Bを選ぶということは、主人公は真理との旅行よりもスキーの方に興味があるわけですから、その後の展開、行動などはそれに応じたものになるのでしょう。

　最初の設定とは異なり、スキーのうまい青年だということにしてもいいと思います。

　Cは少し毛色が違う（主人公の意志とは言えない）分岐ですが、三つ、あるいは四つくらいの選択肢を並べる場合、こういうのがあるのも変化があっていいでしょう。

あなただけの「かまいたちの夜」のススメ

初級サウンドノベル制作講座、第一回「小説版『かまいたちの夜』を読む」いかがでしたか?

では、続いて、実際の制作編に入る第二回へと進みましょう。

初級サウンドノベル制作講座

【第二回】 講師 我孫子 武丸

さて、初級サウンドノベル制作講座第二回の今日は、サウンドノベルの基本ともいえる分岐の作り方の勉強です。

『かまいたちの夜』に即して説明しますと、実はあのゲームの分岐はすべて、大きく二種類に分類することができます。

A:違う分岐を選ぶとまったく別のストーリーになってしまうもの。

B:違う分岐を選ぶと、「未来」が変わるもの。ミステリー編における、犯人を当てることによって次の事件を防ぐ、などというのはこれに当たります。

当然の事ながら、ある分岐を作る場合、それがAタイプなのかBタイプなのかを考えておいた方がいいでしょう。

Bタイプの方はアドベンチャーゲームに近い考え方で論理的に作れますが、Aタイプの方は作家的想像力の働きが重要です。

それまでに読んだ部分と矛盾せず、かつ別の分岐とは似ても似つかぬストーリーが要求されるわけです。

次に、分岐はどこにどういうふうに入れるべきかという問題があります。

私自身は一人称のお話の場合、やはりアド

雪に足を取られながら、ぼく達は駆け寄った。
「あの車は……?」
真理は泣いていた。
初めて見る、彼女の涙だった。
「香山さん……あたしを降ろしてくれたの……それからスピード出して……」
ぼくは彼女の肩を抱いて、ちぎれたガードレールを振り返った。
いや、土壇場にきて、良心の声が勝ったということだろうか。
香山さんは、真理を道連れにするつもりなど始めからなかったのかもしれない。
「何も……死ぬこたあないのにな……」
俊夫さんがぽつりと言う。
……今はもう、これ以上考えたくない。元気な真理と、こうしていられるだけでいい。
ぼく達三人は、凍り付くような寒さも忘れ、谷底から上がる黒い煙を、いつまでも見ていた。

「……真理。真理。真理ーっ！」
ぼくはがっくりと膝から雪の中に崩れ落ちた。
「……真理」
ゲレンデで、明るく笑っていた彼女を思い出した。
そしてさっきのペンションで。
ぼくを呼ぶ真理。
そうだ、今朝も真理はこんなふうにしてぼくを……
「透！　透！」
ぼくは振り向いた。
降りしきる雪の中、真理が、よろよろとぼく達の方へ向かって、歩いて来る。
幻ではない。
本物だ。

白い闇の中を、ぼく達は音のした方向へと向かった。
ざくざくと雪に足を取られ、転ぶように歩く。足元に、真新しいタイヤの跡が刻まれているのに気づいた。
タイヤの跡を辿っていると、不意に白い林が途切れ、視界が開けた。
道が、ない。
足を踏み外しそうになったぼくを、俊夫さんがしっかりとつかまえてくれた。
「急カーブだ」
タイヤの跡は、カーブを無視し、まっすぐに崖っぷちに向かっていた。ガードレールが、飴細工のように引きちぎられている。
そろそろと身を乗り出して眼下を見下ろすと、遥か下の沢に、火の手が見える。
ゴムとガソリンの焼ける嫌な匂いが、鼻の奥を突いた。

やがて……おそらくは百分の一秒ほど後で、ずんという衝撃とともに止まった。
ぼくの体は左のドアに叩きつけられ、息が止まった。
「うっ……げほっ……げほっ……」
ぼくも俊夫さんもしばらく咳き込んだ。
「おっ……おい、生きてるか?」
「はい……多分」
顔を見合わせ、かすかに笑った。
助手席の側から道路際の雪の壁に激突したようだった。シートベルトをはずし、運転席側のドアから、二人して這い出る。
あいかわらず回りはただ雪と風。
ペンションから一キロほどは走っただろうか。歩いては戻れないし、真理も助けられなかった……。
その時、木々の枝を震わせて、低い爆発音が地鳴りのように響いて来た。
「何だ?」

ときおりふっと見える道路沿いの杉木立は、白いキャンバスの上の白絵の具のよう。しかも、真昼だというのに、ヘッドライトをつけても、前方の視界は数メートルしかない。一瞬でも気を抜けば、道路を見失って林の中に突っ込んでしまうだろう。

俊夫さんはハンドルにしがみつき、できるかぎりのスピードで飛ばしてくれた。

「足を、踏ん張っといた方がいい」

おそろしく弾むので、言われなくてもぼくはすでにそうしていた。

ヒーターはまだ効いてこず、ぼく達はがちがちと歯を鳴らし、体を震わせ始めていた。このまま雪の中に埋もれて、春になるまで発見されないのではないかと思った。

右に左に、どうしてカーブだと分かるのか、俊夫さんはハンドルを切り続ける。

テールが、スライドした。

あっと思った瞬間、車はコマのようにスピンする。

長い長い一瞬だった。

「……お、お願いします！」

俊夫さんが車を取りに外へ飛び出して行くと、小林さんはぼくを見つめ、言った。

「真理を……真理を、頼むよ」

「……はい」

香山さんからは、五、六分遅れのスタートだった。

車は四輪駆動のレンジローバー。

ぼくがシートベルトをしっかりかけると、俊夫さんは車を発進させた。

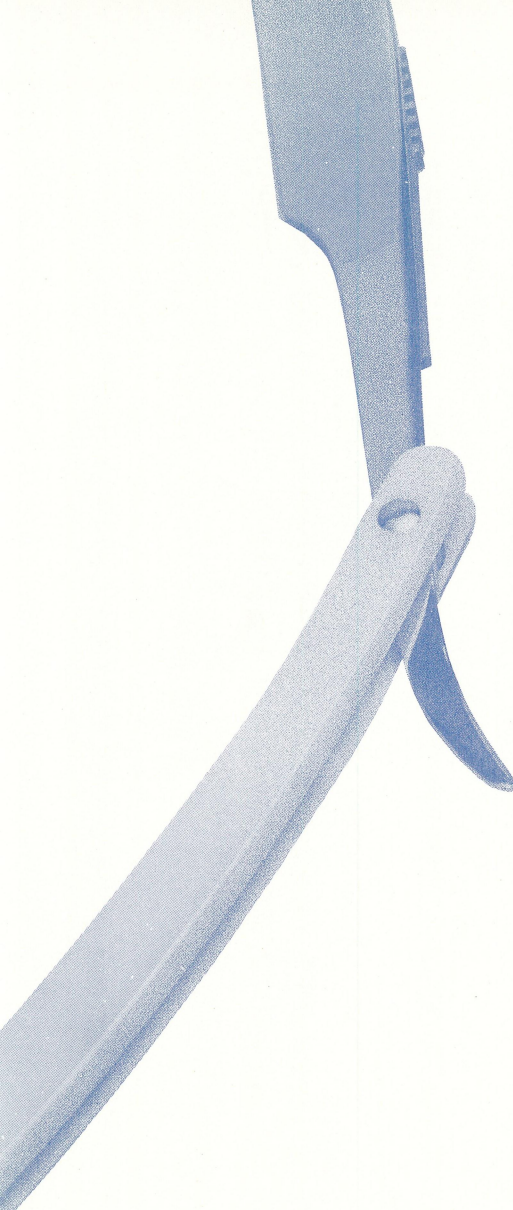
ディーゼルエンジンの咆哮が、今日ばかりは心強い。ワイパーがこそげ取るまもなく、粉雪がフロントガラスにへばりつく。

香山さんは真理をひきずって玄関ポーチを降り、エンジンをかけたままの車に乗り込んだ。
ぼくはたまらず走り出し、玄関のドアを飛び出した。
「真理！」
屋根やボンネットに白い雪を積もらせた白いヴァンが、一瞬、雪を蹴立てたかと思うと、次の瞬間には白い闇の中に溶けるように消え去っていた。
ぼくはしばらく茫然とその闇を見つめていたが、やがて気を取り直すと小林さんに向かって言った。
「車を……車を貸してください」
「追いかけてどうするんだ。これだけの人間がいても、手出しができなかったじゃないか。君一人でどうするつもりだ」
分からなかった。でも、何もせずに、ただここでじっと待っているわけにはいかない。
「ぼくの車で行こう」
俊夫さんが言った。
「このあたりの運転なら、ぼくが一番慣れてる」
地獄に仏とはこのことか。

カミソリの刃に向かって倒れて行きそうに見える。
「しっかりしろ、真理！」
「……透……」
細く目を開け、真理がか細い声を出した。
玄関から、雪まみれの小林さんが風とともに入って来る。
「さあ。ご要望通りにしたぞ。その子を放せ」
「まだや。まだあかん。……みんなそっちに寄るんや。早く！」
香山さんに言われるとおり、ぼく達は談話室の片隅に集まった。
「そこでじっとしてるんやで。彼女は麓で解放したる。もし下で警察が待ち構えとったりしたら、どうなるか分かっとるやろな？　分かっとったら警察なんかには電話せんことや。おとなしゅう待っとけ」
誰も止めることはできなかった。

奥さんの涙声の訴えに、香山さんはゆっくりとかぶりを振った。
「すまん、春子……。お前にはなんもしてやれんかったな……」
そう言いながら、彼は蒼白の真理を引きずるようにして、談話室から玄関の方へと向かう。
小林さんが、じりじりとすり足で近づこうとしているのを香山さんは見とがめる。
「小林くん。変な真似したらあかんで。……今から車を回してもらおか。誰のんでもええ。玄関へ回すんや」
「車で逃げようったって、無理な相談だ。やめた方がいい」
「ええから持ってこい！」
小林さんはしばらくぼく達の顔を見回した後で、諦めたように頷き、裏の駐車場へと向かった。
奥さんがすすり泣きを始めた。
恐怖からか、もらい泣きか、カナちゃんも泣き始める。
真理が泣いてないのに、一体どういうつもりだと理不尽な怒りさえ覚える。
この寒さで冷え切っていたのだろう、表玄関にエンジンの音が響いたのは、十分以上も経ってからのことだった。
すでに真理は半ば意識を失いつつあり、香山さんが支えていなければ、自分から

12

「いやあっ！」
顔を上げると、香山さんが、後ろから真理を抱きかかえるようにして、喉元に茶褐色に汚れたカミソリの刃を押し当てている。
今にも、真理の白い喉を切り裂きそうだ。
「真理！」
ぼくは叫んだ。
彼女はぼくの名を呼ぼうとしたのか、口をぱくぱくさせたが、息の漏れる音しか聞こえなかった。
ぼくは真理に手を伸ばそうとした。
「動くんやない！　頼むから、動かんといてくれ。この子を傷つけとうない」
脅迫というよりも、それは必死の懇願だった。
だからこそぼくは、いざとなったら彼が本気で真理の喉を掻き切るだろうと信じて疑わなかった。
彼を追いつめてはいけない。
「あなた、やめて！　お願いだからもうやめて！」

いらぬ詮索など、するんじゃなかった。こんなことは警察に任せておけばよかった。ぼくはただ、あの重苦しい状況から抜けだそうと思っただけなのに……。ぼく達はみんな、香山さんから目をそらすようにしていたのだと思う。だから、真理の悲鳴が聞こえるまで、香山さんが何をしようとしているか、まったく気づかなかったのだ。

の手この手でたかりを始めよったんや。昔のつきあいがあるさかい、警察に訴えるわけにもいかへん」
香山さんの話を聞きながら、奥さんは涙を流し始めた。
「……黒木は、そん中でも一番たちの悪い奴や。こんなとこまで追っかけてきよって、五千万よこせ、そやなかったら会社つぶしたるって言いよった。わしとこかて中小企業や、右から左にそんな金出るわけあらへん。話し合いで何とかならんかと思たけど、最後にはあいつ……家族に何かあってもええんかって……」
奥さんが顔を上げて、香山さんを見た。
「五体満足でいてほしいやろって……そいでわし、かーっとなって……気がついたら、あいつの首絞めてたんや」
そう言って、自分の両手に視線を落とした。
「……はっとして手ぇ放したけど、あいつは目ぇ剥いて泡吹いとった。こうなったらもうしゃあない。鞄からでっかいカミソリが覗いとったさかい、それであいつの喉、切ったったんや。ゆうべの怪談みたいに見えるんちゃうかと思って」
香山さんの長い告白はそれで終わりだった。

11

香山さんはずっと目を伏せて黙っていたが、しばらくすると腹の底から絞り出すような声で言った。
「……あいつは……マムシのような奴やった」
彼の肩に手をかけていた奥さんが、熱いものに触れたように手を放し、口を押さえた。
「あなた……」
「……すまん、春子。しゃあなかったんや。あいつはな……あいつは、黒木英治っちゅう元総会屋……いや、やくざや。……田中一郎やて。笑わしよるわ」
ちっともおかしくなさそうに、香山さんは笑った。
「会社始めた頃は、労働争議やら何やらで、やくざまがいの連中につい世話になることもあった。みんなやっとることやさかい、しゃあない思てつきおうとった。……でもやっぱりこのままやったらいかん、そう思うて、すっぱり手ぇ切ったんや……切ったつもりやったんや」
香山さんの顔が歪んだ。
「そしたら、暴力団新法たらいうもんができて、金回りが悪なったんやろな……あ

なら、あらかじめ電話線を切るでしょうからね」
香山さんの表情が、ぼくの推理が正しいことを裏付けていた。
「最初はまず、落ち着いて話をしてたんじゃないですか？　おそらくその時に、時計を合わせてしまったのでしょう。その後、口論か何かがあり、香山さんは田中さんを殺した。計画的でないとすると、凶器は田中さんの持ち物でしょう。旅行中持っていそうな刃物というとカミソリくらいですかね。田中さんは、床屋さんが使うようなカミソリを持っていたんじゃないですか？」

香山さんは、あの停電以降、ビデオのある部屋に入って、自分の時計を合わせたんだ。……さて、さっきの質問をもう一度繰り返します。部屋にビデオのある方で、香山さんを部屋に招き入れた方が、この中にいらっしゃいますか？　いませんね？　ちなみにぼくの部屋にも、もちろん招待した覚えはありません。つまり……」

ぼくは大きく息を吸い込んで続けた。

「香山さんは、夕べ、停電以降に田中さんの部屋を訪れた、ということになります。そして田中さんを殺す前か、殺した後かは分かりませんが、彼はビデオの表示を見てしまった。デジタルの表示というのは、正確そうに見えるものです。彼はつい、そちらが正しいのだと思って合わせてしまった」

「あなた！　ほんとなの？」

香山さんの奥さんが、彼の肩をつかみながら、悲痛な叫びを上げていた。目をそらした香山さんの様子を見て、彼女はぼくの言葉を信じたようだった。

「どうして……どうしてなの？」

奥さんは香山さんの顔とぼくの顔を交互に見る。

「動機は、ぼくには想像もつきません。本人の口から聞くしかないでしょう。ただ、香山さんに、始めから田中さんを殺す気があったとは思えません。犯行の後、慌てて同じ凶器で電話線を切っていることから、ぼくはそう推測しました。計画的犯行

香山さんはぼくを見返して反論した。
「もちろん、それが正確な時刻なのだとしたら、おかしくはありません。でもそれは間違った時間なんです。妙じゃありませんか?」
「そういうことかてあるやろ」
ぼくはしかたなく奥の手を出すことにした。
「そうですね。そういう偶然がないとは言い切れません。でも、香山さんに限ってはそうではないんです。香山さんが昨日の夕食の前、ご自分の時計を、あの鳩時計に合わせているのをぼくは見ているんですから」
真理がいぶかしげに訊ねた。
「一体どういうことなの?」
「……いいかい。こういうことだ。昨日、夕食の時点では、香山さんの時計は鳩時計に合っていた。そして田中さんが自室に戻り、停電があり、やがて元に戻った。そして次の日、不思議なことに香山さんの時計は一気に十六分も遅れ、それは狂ったビデオと同じ時間だった。――これが意味することは一つしか考えられない。

……今は正確だと判明した、ぼくの腕時計です」
「先程ぼくは、香山さんと俊夫さんの時計の時間を確かめました。俊夫さんは当然、鳩時計と同じです。これは当たり前のことですね。俊夫さんが合わせたんですから。では、香山さんの時計は、一体どんな時間だったでしょうか?」
ぼくはみんなに問いかけたが、誰も答えず、ただじっと香山さんの顔を見つめている。
額から脂汗を流し始めている香山さんの顔を。
「香山さんの時計は、ぼくのものとも俊夫さんのものとも異なっていました。ぼくよりも十一分遅れ、そして俊夫さんの時計よりは十六分遅れていました。……おや、何かと同じですね」
「ビデオね?」
と真理。
ぼくは大きく頷いた。
「そう。不思議なことに、香山さんの時計は、停電で狂ったビデオの表示と同じなのです」
「偶然や。別におかしなことでもなんでもあらへん」

「でもうちのビデオは、停電すると時間は0:00になっちゃうわよ?」
俊夫さんは、肩をすくめた。
「それは古い型ですね。最近のは、停電しても少しの間はタイマーが動くのがほとんどです。残念ながら、ここのビデオはその中間型で、停電してる間はタイマーが止まっていて、通電が始まるとまた動くようになってます」
ぼくは再び口を開いた。
「分かってもらえましたか? つまり、夕べの停電以降、ビデオの時間表示はすべて、正確な時刻から十一分遅れ、鳩時計と比べると十六分遅れになったのです。最初鳩時計と同じ時刻だったとすると、十六分間停電していた、ということですね」
「いや。ビデオの時計を合わせる時は、確か電話の時報で確認したはずだから……」
と小林さん。
「そうですか。では、停電は十一分だった、ということになります。でもそれは重要ではないんです。重要なのは、犯行があったと思われる時間、このペンション内には三通りの時間があったということです」
「三通りの時間……?」
と真理。
「そう。鳩時計と俊夫さんの時計を基準とした時間。それに狂ったビデオ。そして

誰も口を挟まない。
ぼくは続けた。
「一方、時計以外に時間を知る方法というと、テレビやラジオ、電話の時報といったもの……それにビデオがあります。このペンションには鳩時計以外時計がありませんから、ビデオの時間表示は、非常に目につくものとなっています。そうですね、香山さん？」
香山さんは答えない。
「ぼくはゆうべ寝る前にも朝起きた時にも、ビデオの時間表示が点滅しているのに気づいていましたが、それが何なのか、よく分かりませんでした」
「あっ」と声を上げた人がいる。
俊夫さんだった。きっとビデオなんかの扱いに慣れているのだろう。
「俊夫さん、なぜ点滅していたのか、説明してもらえますか？」
俊夫さんは頷き、説明を始めた。
「ここのビデオはどれも、停電すると、そのことを気づかせるために、数字が点滅するようになってるんです。ゆうべの停電……あれのせいでビデオの時間は全部狂ってたんですよ」
真理が口を挟む。

「ご自分の時計に、合わせたわけですね？」
「ああ。……じゃあその時から、ぼくの時計は狂ってたと？」
「そうでしょうね。温度変化が激しいとクォーツも狂いますから」
ぼくは言葉を切り、今度は香山さんの方を向いた。
「さて、香山さん。香山さんの時計はなかなか高そうですが、狂ったりはしないんでしょうね」
「狂ったりはせえへんよ。ただ、巻き忘れると止まってしまいよるけどな」
「今はちゃんと、動いてますか？」
「ああ。動いとる」
「最後に合わせたのはいつですか？」
香山さんは唇を噛んで考え込み、やがてはっと思い出したような表情を見せた。
「思い出したみたいですね」
ぼくが言うと、彼は落ち着きなく視線を飛ばし、もそもそとし始めた。
みんなは戸惑いながら、ぼくと香山さんを交互に見ていた。
「さて。これまでに分かったことを整理してみると、こういうことになります。ペンション『シュプール』の時計は、俊夫さんが合わせたもので、正確な時刻より五分進んでいた。当然、俊夫さんの腕時計も五分進んでいたわけです」

10

みんな何も言わなかった。
笑いだす人もいなかった。
最初に口を開いたのは、真理だった。
「それで?」
不安そうな目つきをしていた。
ぼくが間違って犯人を指摘するとでも心配しているのだろうか。
それとも自分が指摘される心配か?
まさか。
ぼくは気を取り直して、再び質問を始めた。
「俊夫さんは、最後に時計を合わせたのはいつか、覚えてらっしゃいますか?」
「最後に……? いや、ちょっと記憶にないな。クォーツだから滅多に狂うこともないし」
「では、そこの鳩時計は、誰が合わせたんです?」
「……ぼくだったと思う。シーズンが始まる時に、電池を入れ替えて、ぼくが合わせた」

「ぼくには犯人が分かったんです。あの田中と名乗っていた人を殺した犯人が」

《さて、犯人は誰でしょうか？　手がかりはそろっています。解決編の前に、考えてみてください》

真理はもちろん持っているが、スキーウェアのポケットにあるという。
「女の子って、腕時計するの嫌いな人多いのよ」
と真理は言う。
小林さんもみどりさんも香山さんの奥さんも、腕時計はしていない。
結局腕時計をしていたのは、ぼくと香山さん、それに俊夫さんだけだった。
「俊夫さんの時計は、今何時ですか？　正確に、お願いします」
ぼくが訊ねると、俊夫さんはアナログの時計にちらりと目を走らせ、答えた。
「十二時二十分……今三十秒になった」
「香山さんは、いかがですか？」
「変やな……十二時四分ちょうどやけど」
「またおかしくなりよったかな？」
香山さんは首をかしげている。
ぼくは、あいまいに首を振った。
「妙ですね。正しい時間は、十二時十五分です。ぼくは今117に電話して聞いたから間違いありません」
俊夫さんは、不安げな顔つきになり、壁の鳩時計を見上げた。
「……そう……なのか？　しかしそれが一体何だと……」

『……ただいまから、午後、0時、14分、10秒をお知らせします……』
ピ、ピ、ピ、ポーン。
ぼくの時計は、ぴったり合っている。
この瞬間、ぼくの頭の中でようやくすべてがすっきりと、収まる所へ収まった。
犯人が誰か、ぼくにはほぼ見当がついた。
田中さんの喉を切り裂き、そしてその凶器で電話線を切ったのは誰なのか。
後はただ、それを確認するだけだ。
ぼくはちょっと黙り込み、そして今度は回りの人達に向かって言った。
「みなさんの時計を見せてほしいんです。腕時計でも懐中時計でもかまいません。時計を今持ってらっしゃる方だけで結構です」
みんなはいぶかしげに顔を見合わせたが、協力を拒む人はいなかった。
「一体何をしようとしてるの?」
真理がささやくように訊ねるのを、ぼくは視線でなだめた。
OL三人組は、驚いたことに時計を持っていなかった。
「車にはついてるけど……」
「それは結構です」
とぼくは言った。

ね?」
ぼくはその質問にはかまわず、先を続けた。
「自室にビデオのある人で、ゆうべ誰かを部屋に入れたという人はいますか?」
誰もが首を振って否定した。
「どうも。では次に時計のことを伺います。ぼくの部屋には時計がないんですけど、どの部屋もそうなんですか?」
「……そうだよ。ほんとは時計なんか全部なくしてしまいたいんだけどね、そうもいかないから、ここにはあの通り鳩時計を置いてる。レジャーというものはのんびり楽しむものであって……」
「分かりました。もう一度確認します。このペンションには、時計はあの鳩時計だけ、そうなんですね?」
「そうだ」
「ちょっと、電話を貸してもらえませんか。すぐ済みますから」
「別に構わないが……どこにかけるんだね?」
それには答えず、ぼくは電話に歩み寄り、ボタンを押した。
1、1、7。
テープに録音された女性の声が、時を告げる。

みんながぼくを見つめる。
ぼくは戸惑い、隣の真理を見た。
不思議そうな顔でぼくを見ている。
「どうしたの、突然」
「大事なことなんだ。大事なことなんだよ。……小林さん、いくつか確認したいことがあるんですが」
ぼくはまだ立ったままの小林さんの方を向いた。
「何かね」
「テレビと、ビデオのことなんですが。あれは、どことどこに設置してあるんですか?」
予想外の質問に、小林さんは面食らったようだったが、すぐに答えてくれた。
「わたし達夫婦の部屋とみどりさんの部屋にある。客間は、渡瀬さん達三人の部屋と、君の部屋、それに……殺された田中さんの部屋だ」
「それだけなんですね? 他にはテレビも、ビデオもありませんね?」
「ないよ」
「そのビデオですが、それらはすべて同じ型ですか?」
「ああ。一括購入したからね。……なあ、ビデオが一体、どうしたっていうんだ

「警察に電話するんだ」
やがて電話が通じたらしく、奥さんはしどろもどろに説明を始める。
「貸しなさい」
小林さんが受話器を取り上げ、人が殺されたこととペンションの住所、電話番号、自分の名前をてきぱきと言って切った。
「すぐ、来てもらえるんですか？」
みどりさんが訊ねた。
「いや。今すぐというわけには、いかないようだ。でもこの吹雪が収まりしだい、来てくれると言ってた」
誰かのお腹がぐうっと鳴った。ほっとしたせいで、食欲が出たのだろうか。こんなふうに世間と隔絶されていると、電話が通じただけでも、やはり安心するものらしい。
淀んだ空気に、ほんのわずか新鮮な酸素が送り込まれたみたいな感じだった。おかげで、頭の中でもやもやと漂っていた形にならない考えが、少しずつまとまってきた。
ぼくは立ち上がって言った。
「ちょっと……ちょっと聞いてください」

ぼくは愕然とした。
小林さんが犯人なら、いちかばちか、車に乗ってどこかへ逃げているかもしれない。
当然他の車は動かないようにして……
いやいや、そんなはずはない、とぼくは思い直した。
そもそも電話線が切れたのを発見したのは、小林さんだ。それにあの人は、いつも率先して捜索をしていた。
……ということは、不利な証拠があっても、隠すことができたということでもあるんじゃないだろうか？
ビューっと風の吹き込む音が聞こえ、小林さんの戻って来たのが分かった。
「あなた！　大丈夫？」
奥さんが声をかけて、走り寄る。
頭にも肩にも雪が降り積もり、全身真っ白になって震えている。
ちょっとでも疑ったことをぼくは後悔した。
「ああ。なんとかなったと思う。電話してみてくれ」
奥さんは頷いて、フロントのカウンターに置いてあった電話の受話器を取り上げた。
「通じてるみたいよ。音がするわ！」

「食事の用意をすっかり忘れてたけど……どうしたらいいんでしょう」
今日子さんが誰にともなく言った。
誰も何も言わないので、仕方なくぼくが、
「ご主人が戻るまで、待った方がいいと思います。それに……みんなそんなに食欲もないんじゃないですか」
と言った。
反論がなかったから、それでよかったのだろう。
じりじりと時は過ぎた。
時を遅くする魔法でもかけられたみたいに、ひどくゆっくりと。
今日子さんは心配そうに、談話室と玄関の間を行ったり来たりしている。ときおり窓から外を覗くが、小林さんのいるあたりは、死角になっていて見えないのだ。
重苦しい沈黙が支配していた。
電話が復活するかもしれないという望みはあったが、そんなものが問題の解決にならないことをみんな知っているのだ。さっき香山さんが言ったように、連絡がついても当分警察が来られるとは思えない。
五分が過ぎ、やがて十分が過ぎた。
……もしも、小林さんが犯人だったら？

ホットチョコレートを飲み終えると、小林さんは道具入れを持って立ち上がった。
「一人で行くよ。寒いからね。その代わり、わたしが外に出ている間、誰もここを出ないでもらいたい。みなさん、いいですね？」
異論はない。もう一度外に出て、修理が終わるまで待っているなんて耐えられそうもない。
俊夫さんも同じ気持ちのようらしく、腰を上げる気配はない。
小林さんが出て行くのとほとんど同時に、鳩時計が鳴りだした。
十二時。
ちらりと腕に目を走らせると、11:55と表示されている。
胸騒ぎがした。なぜかは分からない。
なぜだろう？　この胸騒ぎはいったい何なのだろう？

9

「……な、直せないんですか？」
「……やったことはないが、応急処置ならできると思う。道具を取って来なきゃならんが」
ぼく達は先を争うようにして建物に戻ると、みんなに事情を説明した。
ありがたいことに今日子さんとみどりさんが、ホットチョコレートを用意してくれていた。
ひどく寒がっているのが分かったのだろう、真理は「五分くらいで大袈裟ね」と笑った。
「冗談じゃないよ。出てみれば分かるって。こんな格好で、あれ以上外にいたら凍えちまう。スキーウェアを着て、カイロでも五、六個入れなくちゃ」
俊夫さんも、ぼくの言葉に頷いている。
ここで働いていて、ぼくなんかよりずっと寒さには慣れているはずの彼が頷くのだから、この吹雪はちょっと異常なのだろう。

突然、目の前に雪に覆われた壁が出現し、危うくぶつかりそうになる。小林さんが、その壁のすぐそばにしゃがみ込んでいた。
後ろからやって来た俊夫さんが、ぼくの肩にぽんと手を置いたので、思わず飛び上がりそうになった。
「ほら、これを見てごらん」
そう言った小林さんの手元には、建物の外壁に取りつけられた箱が見える。
その箱から伸びたケーブルが、すっぱりと断ち切られている。
「やっぱり、誰かが電話線を切ってたんですね」
俊夫さんが言った。
「それだけじゃない。もっとよく見てごらん」
ぼくと俊夫さんは、さらに顔を近づけた。
ケーブルの断面に、茶褐色の汚れがついている。
血だ。田中さんの血なのだ。
ぼく達が身を震わせたのは、必ずしも寒さのせいだけではなかった。

不意に風の向きが変わったので、ぼくは突き飛ばされるようにして階段を転げ落ち、深い雪の中に、頭から突っ込んでしまう。
「大丈夫かい？」
俊夫さんが慌てた様子で声をかける。
その瞬間、ぼくは嫌な想像をした。
……俊夫さんが犯人だったら。
上着のポケットから、血まみれのカミソリを取り出す俊夫さん。
ぼくは這うようにして雪の上を進み、俊夫さんから離れたところで立ち上がった。
「おーい！　どうした！」
小林さんの声だ。
いぶかしげな顔でぼくを見る俊夫さんを尻目に、声のする方角へ小走りに向かった。
一瞬、狂暴な風と雪に包まれて何も見えなくなった。
今出て来たばかりの「シュプール」でさえ、どちらにあるのか定かでない。
それでもぼくは歩いた。
さっきまで暖かかったのが嘘のように、ぼくは歯をがちがちと鳴らし、身を縮めて震わせていた。
寒い。痛い。耳がちぎれそうだ。

屋根があるにもかかわらず、足元はすっかり雪に覆われていた。普通の靴では、ずるりと滑りそうになる。

驚いたことに、先を歩いてポーチの階段を降りたはずの小林さんの姿が見えない。

「小林さん、どこですか?」

吹きすさぶ風にかき消されそうだ。もう一度叫んだ。

「小林さん! どこですか!」

「……こっちだ……」

左手から聞こえた。

俊夫さんの後について、ぼくはそろそろと階段を降りた。

「まあ、そうだろうな。公衆電話の方も不通なんだし。……外に出なきゃならんようだ」
香山さんが遠慮して残った結果、ぼくと俊夫さんが小林さんと外へ出ることになった。
部屋から取ってきたコートをしっかりと着込み、手袋もはめる。靴を履くとまず内側のドアを開け、三人とも二枚のドアの間に入り込む。内側のドアが閉まっているのを確認すると、小林さんは外側のドアを開けた。その途端、カミソリのように研ぎすまされた風と無数の雪片が襲いかかり、ぼくは腕で顔をかばった。
「早く外へ出て！　閉めるぞ！」
小林さんが叫ぶので、仕方なしにぼくと俊夫さんはドアを抜けた。
ドアの外は、地上から一メートルほど高い、木造のポーチになっている。

いくわけにもいかない。人殺しと一緒に、ね」
カナちゃんの泣き声がまたひときわ高まった。
「もうすでに一人殺している奴だ、自分が逃げるためとなれば、またもう一人殺すことだっていとわないだろう。だから、わたし達は常に一緒にいる必要がある。常にこうしている限り、犯人には手が出せないはずだ」
「トイレなんかは、どうしたらいいんです?」
カナちゃんの背中を撫でていた、啓子が訊ねた。
「……そこのトイレならすぐ近くだから、別に問題ないだろう。部屋にどうしても用事があるというなら、三人くらいで行くようにすればいい」
他の人間がそろっている時なら、逆に一人の方が安全なのではないかとも思ったが、小林さんは、犯人を逃がさないことも考えているのかもしれない。
「そうだ、そういえば電話線は……?」
ぼくは思い出して言った。
「そうだ。早速調べて見よう」
小林さんはフロントへ行き、電話の受話器を取り上げて、まだ通じていないことを確かめたようだった。
その後、電話線を辿って行き、差し込み口にちゃんと刺さっていることを確認する。

8

ぼく達は、複雑な思いを胸に、談話室へと戻って来た。
誰も口を開かなくても、人殺しなど隠れていなかったことは、一目瞭然だろう。
ぼくの顔を見た真理は、目を伏せると、
「やっぱりこの中に犯人がいるのね」
と言った。
これまでにもまして重い沈黙が訪れた。
今まではまだあった、なにがしかの希望的観測が、粉々に打ち砕かれてしまったのだ。
「もう我慢できない！」
突然、カナちゃんが立ち上がって叫びだした。
「誰なの？　誰が殺したの？　……ううん、誰でもいい。誰でもいいけど、あたし達を巻き添えにしないで。お願いだから……」
後は再び涙声になって、何も聞き取れなかった。
それをじっと見ていた小林さんは、やがて口を開いた。
「とにかく、今日一日、わたし達は助けを求めることもできないし、ここから出て

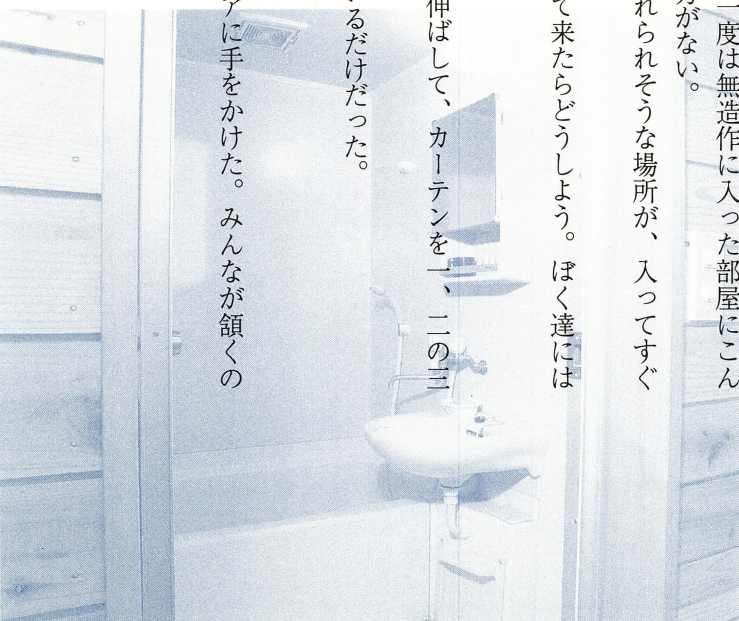
11:16。

ぼくは反射的に自分の時計を見た。

11:16。

備え付けのビデオは、11:05を示して点滅している。
一体、どうなってるんだ?
「香山さん、今何時ですか?」
「ん?……十一時五分だ」
香山さんは自分の腕時計を見て言った。
どうも今朝から、時計には悩まされる。
ぼくは取り合えず気にしないことにした。
「さあ、もう出よう。誰も隠れちゃいないよ」
小林さんが言い、ぼく達はそろって外へ出た。
ぼくは心にトゲの引っかかったような感じを覚えたが、それがなぜなのか、どうしても分からなかった。

シャワーカーテンは寄せられたままで、湯船の中にも誰もいない。
クリーム色の陶器の洗面台には、点々と赤い血が飛び散っている。
犯人が返り血を洗ったのか。
「後はベッドの下か……」
不快そうに、香山さんが言った。
いくらなんでも死体の下に隠れる奴はいないだろうと思ったが、小林さんは素直にベッドの下を覗いた。
まず窓に近い側のベッド。そして死体の乗った方。
見るつもりはなかったが、ついまた死体を見てしまい、そうすると目が離せなくなった。
ふと、血にまみれていない、死体の左手に目が行った。
腕時計をしている。
犯行時に時計が壊れたりしていれば、正確な犯行時刻が分かるかもしれない、なんてことを考えてぼくは近寄った。
あいにくそんなことはなく、ぼくのよりはだいぶ高級そうなデジタル時計は、まだ動いていた。

中はしんと静まり返っている。
もわっとした血の匂いにむせ返りそうになった。
まず俊夫さんが、そろそろと足を踏み入れる。一度は無造作に入った部屋にこんなふうにして入るのは、何だか変な感じだが、仕方がない。
左手にクロゼット、右手にバスルーム。人が隠れられそうな場所が、入ってすぐにある。
突然バタンと扉が開いて、殺人鬼が飛びかかって来たらどうしよう。ぼく達には何も武器がないというのに。
俊夫さんが視線で、クロゼットを示す。
ぼく達は二人ずつ両側に別れ、俊夫さんが手を伸ばして、カーテンを一、二の三で勢いよく引き開ける。
……中には、襟にボアのついたコートが揺れているだけだった。
誰かがふうっと、安堵のため息を漏らした。
次はバスルームだ。
四人ともくるりと後ろを向き、今度はぼくがドアに手をかけた。みんなが頷くのを確認すると、思い切りドアを引き開けた。
突然何かが飛び出して来たりは……しない。

かれたと考えた方がいいのか……？

「馬鹿馬鹿しい」

と小林さんは言った。

「いつまでもこんなとこにじっとしてるわけはない。きっとすぐに外へ出ただろう」

「でもドアの鍵は？」

ぼくが訊ねると、小林さんは鼻で笑った。

「何言ってるんだ。ここの鍵は中のボタンを押しておけば、自動的にロックされるだろうが」

ああ、という呟きが残りの三人から漏れた。

ぼくは気を取り直して言った。

「でも、なんにしろこの部屋が最後なんですからね。ここに誰も隠れていなかったら……」

「分かってる。犯人は、わたし達のうちの誰かだってことを認めなくちゃならない」

小林さんは重々しい口調で言い、ドアにキーを差し込んだ。

「いいかい。開けるよ」

誰かがごくりと唾を飲む音が聞こえた。

ぼく達が身構えると、小林さんはドアを開いた。

と俊夫さん。
「でも、考えて見たら、鍵はかかっととったし、窓かて閉まっとった。おかしいやないか」
と香山さんはおかしなことを言い出した。
「犯人は、一体どっから出たんや?」
ぼく達は立ちすくみ、田中さんの部屋のドアをじっと見つめた。
「……じゃあやっぱり、まだこの中に……?」
ぼくは言いながら、ドアの内側で息をひそめ、大きなカミソリを手にした男の姿を思い浮かべていた。
入るなり、きらりと銀の光が閃いて、誰かの喉から血のシャワーが……!
まさか。そんな馬鹿なことのあるはずがない。
でもそれでは、鍵のかかった部屋から、犯人が抜け出したことを説明しなければならない。それとも真理の怪談のように、女の怨念が生み出した、かまいたちに喉を切り裂

「よし。とにかく捜索はしておいた方がいいだろう。不意打ちを食らうのだけは避けたいからな」

小林さんは、また男性四人での捜索を提案した。

元気な時の真理なら「女性差別だ」とでも騒いだかもしれないが、今は黙っている。

まず台所に食堂。テーブルの下から、冷蔵庫の中まで確かめる。

フロントのカウンターの後ろ、トイレに物置。

乾燥室ももう一度調べたが、人の隠れるところなどどこにもない。

小林夫妻の部屋やスタッフ用の部屋も見せてもらうが、人の気配はない。

続けて二階。

さっき一度見回っているから、今度はざっとベッドの下を見、クロゼットを覗いてみるだけだ。

もちろんいない。

「後は死体の部屋だけですね」

「ちょっと待った！　今の話がほんまやったら、電話より人殺しの方が問題やないか。見つけて捕まえるんや」
「どんな狂暴な奴か分からないんですよ？　下手に手を出さない方が賢明です。それより警察ですよ」
「あほやな。たとえ電話が通じたとしてもや、この天気で警察がどうやって来るねん。それより犯人や。つかまえてしもたら一晩でも二晩でも、安心して眠れるっちゅうもんや」
どちらの意見にも一理あるが、香山さんの方に分がありそうだった。
ぼくは言った。
「とりあえず、中を捜索するのが先でしょう。そうでないと、おちおち一人でトイレにも行けないってことになりますよ」
俊夫さんは不満そうだ。
「でも……誰の目にも止まらずに、誰かが入り込むなんて、考えられないんだけどな」
「それじゃ俊夫さんは、この中の誰かが犯人だっておっしゃるんですか」
「いや、そういうわけじゃ……」
言い争いを打ち切ったのは、小林さんだった。

ここにいる誰かが人殺しだと考えるよりは、はるかに信じやすい話だった。
ぼくは深く考えずに言った。
「でも、もしそうだとしたらそいつは、ぼく達が警察に連絡するのを、できるだけ遅らせようとするんじゃないかな」
「どういう意味？」
真理が聞き返す。
「……口を封じようとするかもしれない」
「まさか。あたし達みんなを殺すっていうの」
「そこまではしないかもしれないけど……たとえば電話線を切るとか……」
言いかけてから気づいた。
真理は目を丸くしている。
「まさか……」
俊夫さんが勢い込んで言った。
「調べたほうがいいですよ。もし本当に誰かが切ったのなら、つなげて連絡だってできるし」
香山さんも立ち上がった。

小林さんは絶句した。

犯人が出て行ってない？　つまりまだ、この中にいるということか？

真理はさらに言った。

「車が動かせるようになってから、逃げ出すつもりなのかもしれないわ」

ぼく達は自然と天井を……死体のある部屋のあたりを見上げていた。

犯人はまだ、二階にいるのか？

さっきは戸締まりを見て回っただけだから、どこかに隠れていたとしてもおかしくはない。

あの血まみれの死体が、腐り始める……考えただけで、気持ちの悪い想像だった。
「あそこだけ暖房を切ることはできないんですか」
ぼくは言った。
「集中システムだから、無理なんだ」
部屋にコントロールするものが何もないから、そうだろうとは思っていた。
暖房を全部切ったらぼく達は凍え死んでしまうだろうし、そうしなければやがて腐臭が漂い始めることだろう。
「わあああん!」
ひときわ高くカナちゃんが泣き叫び、他の女の子達もすすり泣きを始めた。
ぼくは真理の手に自分の手を重ねた。それをきっかけにしたかのように、真理が口を開いた。
「たとえば犯人は、ゆうべ、戸締まりが完全になる前に入り込んでいたとは考えられないのかしら」
小林さんは頷く。
「なるほど。それだと鍵をこじあけたりする必要はないわけだ。でも、出ていく時には、どうやって鍵をかけるんだね?」
「出て行ってないかもしれないじゃないの」

小林さんは思い出すようにして言った。
「なんだか偽名臭いな」
と俊夫さん。
確かにそうだ。それにあのサングラス。
彼は一体何しにこのペンションへ来たんだ？
「あの人、何でこのペンションを選んだんでしょう。以前に泊まったとか、友達の紹介とか、そういうんじゃないんですか」
ぼくは聞いてみた。
「いや。何も言ってなかった」
「何泊の予定だったんです？」
「二泊したいと言ってた」
香山さんが、業を煮やした様子で口を挟んだ。
「なあ、小林くん。もういっぺんあの部屋行って、あの人の持ち物調べてみいへんか。なんか分かるかもしれへんで」
「しかしそれは……警察が来るまであのままにしておかないと……」
「そんなことゆうたってな、あの死体かてこのまま暖房効いた中においとったら、腐りよるで」

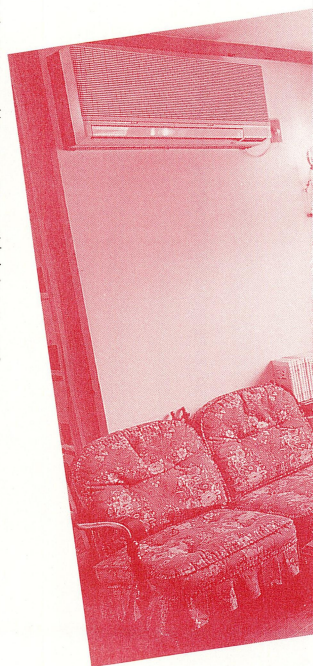
「それまで人殺しと一緒にいろっていうの！」
みどりさんが泣き叫ぶように言うと、みんな改めてお互いの顔を見つめあった。それにしても、みどりさんにこんなヒステリックな面があるとは思わなかった。しかしそれも、仕方のないことかもしれない。
誰もが、虫も殺さないような人達に見える。でもこの中に、田中さんの喉を切り裂いた奴がいるのだ。
ショックを受けた振りをして、みんなと一緒にコーヒーをすすっているこの人達の誰かなのだ。
何も信じられない。
俊夫さんが、ぽつりと口を開いた。
「でもあの人、一体誰だったんですか。ここにいる誰か、あの人のこと知ってた人いるんですかね」
それは重要なことだった。
あの人は誰とも知り合いでないように見えた。彼を殺す理由など、誰もないはずだ。少なくともぼくにはない。
「宿帳には、東京世田谷の田中一郎、と書いてある。でも、スキーをしに来たわけでもなさそうだし、妙だとは思ってた」

突然、カナちゃんが泣き出した。亜希と啓子が両側から慰めるが、二人とも逆にもらい泣きしそうな気配だ。
それを冷ややかな目で見つめながら、小林さんに訊ねたのは、みどりさんだった。
「かまいたちにやられたって、ほんとなんですか?」
唐突すぎる質問にぼく達は唖然としたが、女性達はみんな答を待ち受けている様子だった。どうやら真理から死体の様子を聞いたらしい。
ぼくは遅まきながら、小林さんのあの時の「かまいたち……」という呟きの意味が分かった。
田中さんの死に方は、真理が話した怪談そのままだったではないか。
小林さんは笑い飛ばそうとしたみたいだったが、うまくいかなかった。
「誰がそんなことを。馬鹿馬鹿しい。……そりゃ確かにひどい様子だったよ。でも人間がやったに決まってる。人の皮をかぶった獣みたいな奴だったとしても、かまいたちなんかいるわけがないだろう」
「じゃあ一体、誰なんですか」
「わたしには分からない。警察に調べてもらわないと」
「そんな……そんなことといったって……警察なんか来ないじゃない!」
「明日になれば、何とかなる。それまでの辛抱だよ」

んだ」
　小林さんは首をふりふり言った。その言葉の意味を、十分わかっているらしい口ぶりだった。
　……犯人はやはり、この中にいるのだ。
　ぼく達は重苦しい沈黙とともに、談話室へと歩いていった。
　コーヒーを前に黙りこくっていた女性達は、はっとしてぼく達の方に顔を向ける。ぼく達が黙ったままソファに腰掛けると、心配そうにみどりさんがコーヒーを置いてくれる。
　ぼくはもちろん真理の隣に腰をおろした。
「それで……どうだったの？」
　ようやく少し落ち着きを取り戻したらしい、真理がぼくに向かって言った。
　答えたのは小林さんだった。
「誰かが出入りした様子はなかった」
　しばらくみんな黙って、その言葉を噛みしめているようだった。
　小林さんは奥さんの方を向いた。
「それで……電話はまだつながらないのか？」
「ええ。駄目みたい」

濡れた跡があるはずだ。そんなものはどこにもなかった。
ぼくははっとして言った。
「乾燥室を忘れてますよ!」
こういったスキーペンションに欠かせないもの。それが乾燥室だ。
スキー板と雪まみれのスキー靴。
そんなものを持ったまま中に入るわけにはいかない。だから、外からまずそこへ入って靴を脱ぎ、スキー板を置いて乾かす。それから中に入れば、中を濡らさずに済むという仕組みだ。
もし田中さんを殺した犯人が外部の人間なのだとしたら、その侵入経路は乾燥室以外考えられない。
ぼく達は一階へ降り、乾燥室へ向かった。
ここのドアには鍵はかからない。だからさっきは調べずに通り過ぎたのだ。
中へ入ると、みんなのスキー板と靴が、整然と壁際に並べられている。どれも雪どころか、しずく一つついていない。外へ通じるドア付近も、まったく濡れていなかった。
このドアには錠がついていて、今はしっかりとかかっているようだった。
「駄目だ。やっぱりここからも入れない。どこからも、誰も出入りなんかしてない

ぼくは言うと、小林さんの顔が、かすかに明るくなった。
「うん。そうだな。それはやっておいた方がよさそうだ。じゃあ、透くんと香山さん、それに俊夫くん、一緒に来てもらえますか」
どうも男だけで見回ろうというつもりらしい。ぼく達は重々しく頷いた。
「よし。今日子はみどりちゃんと一緒にみんなに飲み物でも作っておいてくれたらいいだろう」
別れ際に、真理がささやいた。
「気をつけてね」
ぼく達は一丸となって移動し、窓やドアの戸締まりを見て回った。
まず一階を見て、それから二階。
気は進まなかったが、もう一度死体のある部屋にも入らなければならない。入る前は興味津々という様子だった香山さんと俊夫さんも、想像以上のひどさだったからだろう、一瞬にして血の気が引くのが分かった。
俊夫さんはうっとうめいて口を手で押さえ、吐き気をこらえている様子。
ぼくはつとめて見ないようにしていたが、心なしかさっきよりひどくなったような臭気に、胸がむかつく。
窓にはやはり、鍵がかかっていた。どのみちこの天気の中、外から入って来たら

小林さんは、この突発事態に、ただただ困り果てている様子だった。
奥さんは、そんな彼を見て、心配げだ。バイトの二人はやや傍観者のよう。ＯＬ三人は、寄り添うようにして、震えている。
香山さんは、安心させるように自分の奥さんの手を握っているが、奥さんはちょっと迷惑そうな面持ちだ。
そして真理。
彼女は今、ぼくのひじを両手で強くつかみ、蒼白になってぶるぶると震えている。
誰もが、その人なりにショックを受け、戸惑い、あるいは恐れているように見える。
この中に、本当に犯人が？
ぼくにはとても信じられなかった。
「小林さん、戸締まりを確認した方がいいんじゃないですか。誰かが侵入した形跡がないかどうか」

疑っているかのように。
ぼくは慌てて言った。
「いや、ぼくが言ったのは、犯人はまだそんなに遠くには逃げてないんじゃないかってことで……」
そう言いながらぼくは、自分の言葉に何の説得力もないことに気づいていた。
ここには宿の人間全部がいる。そして、この吹雪の中、誰か別の人間が外からこっそり来て田中さんを殺し、またこっそり出て行ったなどということは考えにくい。
つまり……
犯人は、この中にいる？
ぼくは慄然として、居並ぶ顔を見渡した。

かもしれない。
「そや！」
不安げに話を聞いていた香山さんが、突然声を上げた。
「携帯電話や。携帯電話があるんや。ちょっと待っててな」
携帯電話か。それなら不通だろうがなんだろうが、関係ない。
しかし小林さんは部屋へ行こうとする香山さんに声をかけて止めた。
「無駄ですよ。電波状況が悪いんでね、このあたりは携帯電話も入らないんです」
「やだー、会社に電話しなきゃならないのに」
こんなときにそんなことを言っているのは、もちろんＯＬのカナちゃんだ。
みんなはしばらく押し黙っていた。
「……今日一日、あのまま放っておくしかないの？」
真理が呟き、ぶるっと体を震わせた。
一瞬垣間見た死体の様子を思い出したのかもしれない。
ぼくは不気味な映像を頭から追い出し、言った。
「それより問題は、誰があの人を殺したのか、ってことじゃないのかな。その犯人はまだ、この辺りにいるかもしれないんだから」
全員がはっと息を飲んで、互いに顔を見合わせた。まるで……まるで、お互いを

「あなた……」
フロントで受話器を握っている奥さんが、真っ青な顔をして小林さんに言った。
「電話が……電話が通じないの」
「何だって？」
小林さんはすぐに受話器を受け取り、電話機のフックを何度も押す。
「ほんとだ……電話線が切れてるみたいだ。……部屋の電話は？」
多分夫婦の寝室には別回線の電話があるのだろう、小林さんはそう訊ねた。
「同じよ。あっちも何も聞こえないの」
奥さんはゆっくりと首を振りながら言った。
全員が小林さんを注視していた。
彼がゆっくりと窓に視線を向けると、みんなもつられたようにそちらを見る。
「麓まで降りるのは、明日にならないと無理だな」
「近くに電話を借りられるところはないんですか」
ぼくは訊ねた。
「車さえ動けばいいんだが……この吹雪の中を歩くとなると……」
小林さんは言葉を飲み込んで首を振った。
それに、雪か何かのせいで電話線が切れたのだとしたら、このあたり一帯が不通

ドアのところから返事がある。
小林さんはそちらを向き、ゆっくりと言った。
「警察に……警察に、電話しなさい。泊まり客が……泊まり客が死んでいると」
誰かの押し殺した悲鳴が聞こえた。
「……さあ、透くん、出よう」
小林さんはぼくの背中に手を当てて、部屋を出ようとした。
ぼくは石のように固い唾を飲み込みながら言った。
「ほんとうに死んでるのか、確かめた方がいいんじゃないですか？」
小林さんは驚いたように振り向く。
「一目瞭然じゃないか！　あれだけ大量の血を流して……」
後は言葉にならなかった。
しかしぼくは言った。
「暖かいか冷たいか分かれば、いつごろ殺されたのか分かるかもしれませんよ」
思えば、こんな恐ろしい場面を前にして、ひどく冷たい態度だったと思う。
「……わたし達の仕事じゃない。何もせずにおこう」
部屋を出ると、小林さんは再びドアに鍵をかけた。
外で息を飲んで待ち受けていた人達を追い立てるようにして、談話室へと下りた。

7

田中さんは身体のあちこちに切傷を作っていたが、一番出血がひどかったのは、まるでもう一つ口ができたみたいに見えるぱっくり開いた喉の傷だ。
「いやあっ!」
真理が叫んで、外へ飛び出した。
ぼくはそれに気づいていながら、彼女を追うことも、死体から目を離すこともできなかった。
「かまいたち……」
小林さんが真っ青な顔をして呟いた。
「えっ?」
ぼくは聞き返したが、彼は黙っていた。
ざわめきがして、何人もの人がドアから覗き込んでいるのに気づいた。真理の叫びを聞きつけて、やって来たらしい。
「きょ……今日子! そこにいるか?」
小林さんは死体を見つめたまま、奥さんを呼んだ。
「ええ……何があったの?」

かしすぐにそうではないことに気づいた。だって、赤黒い色のシーツなんて趣味の悪いものを、小林さんが使うはずはないから。
下に敷くシーツも、アッパーシーツも、そして枕も毛布も、どっぷりと赤黒い液体を吸い込んでいたのだ。
上に乗っている、田中さんの身体から出た血液に間違いなかった。

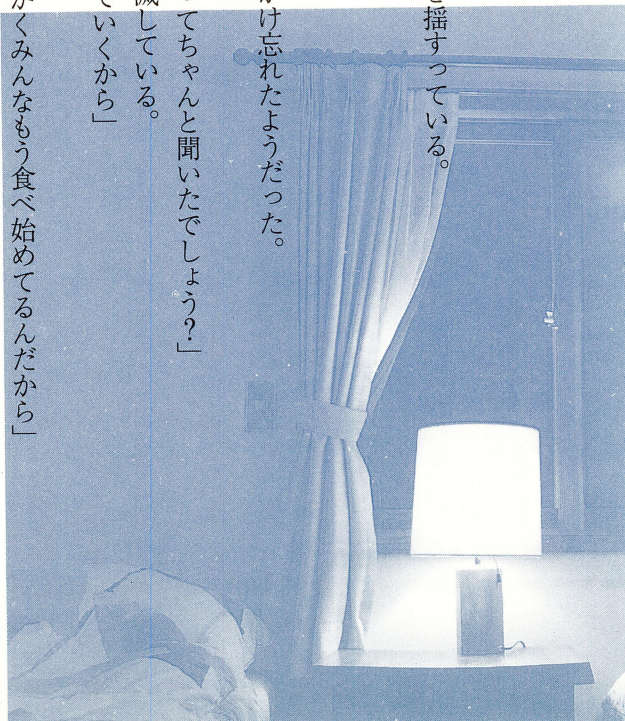
真理が後ろから訊ねる。
小林さんはそれには答えず、そっとドアを押し開けると忍び入るように中へ踏み込んだ。
ぼく達もそれに続く。
小林さんの小さな肩越しに、ベッドの端が見えた。
「何、この匂い」
真理が眉をひそめて鼻と口を押さえた。
確かに、むせかえるような匂いだった。磯臭い海岸のようでもあり、錆びついた鉄の匂いのようでもある。この匂いは……?
「ああ、なんてこった!」
小林さんはベッドの前で足を止め、呟くように言った。
部屋の作りは、ぼくのものと変わらない。入って左手にユニットバスがあり、ベッドが二つ、並んでいる。
テレビとビデオがあるのも、ぼくの部屋と同じだ。
そのうちの入り口に近い方のベッドに、田中さんはまだ横たわっていた。かつては田中さんだったもの、と言った方がいいかもしれない。
最初ぼくは、この部屋のシーツは変わった色をしているな、と思ったものだ。し

レジャーにはビジネスを持ち込まないという、小林さんの方針だそうだ。
鳩時計が鳴りだした。
十時になったらしい。相変わらずぼくの時計はまだ五分遅れの9:55を示していたが。
鳩が鳴きやむと、小林さんはぼくに言った。
「一緒に、ついてきてもらえないかな。一人でお客さんの部屋に入るのは、まずいから」
「いいですよ」
ぼくは答え、当然のようについてくる真理と三人で、二階の客室へと向かった。
田中さんの部屋の前で立ち止まると、小林さんは念を押すようにもう一度ノックした。
「田中さん、いらっしゃいますか?」
数秒耳を澄ませたが、返事はない。
小林さんは諦めたように鍵束を出し、かちりとロックをはずした。
ドアを開け、小林さんはまず首だけを中へ突っ込む。
「田中さん?　田……」
小林さんの身体がこわばるのが分かった。
「叔父さん、どうかしたの?」

「お気に入りだなんて嘘よ。アキの方が、いいんじゃない。こないだお尻触られたって言ってたし」
「うっそー、セクハラじゃん」
「そ、セクハラ、セクハラ」
……どうも女の子の会話というのは、長く聞いていると頭が痛くなる。
真理とどこかで二人きりになれないかな、と彼女をちらりと見た時、小林さんが二階から首をふりふり戻って来た。
「どうかしたんですか」
「いや……お客さんがね、起きて来ないんだ。いないのかもしれない」
「田中とかいう人ですか」
ぼくが訊ねると、小林さんは頷いた。
「もうそろそろ十時になるし、あれだけノックすれば、聞こえないはずないからね」
「鍵はかけてあるんですか」
「かかってる。でも、合鍵があるからね。開けようかどうしようか迷ってるところなんだ。転んだか何かして、頭でも打ってたら大変だし」
「電話は……あ、ないんですね」
「シュプール」の客室には電話はない。

「危ないから、今日は止めた方がいいよ。それに、免許取り立てだったでしょ？悪いこと言わないから、もう一晩泊まっていきなさい。お金は食事代だけでいいから」
「ねえ、どうする？」
カナちゃんは、他の二人に相談する。
「しょうがないじゃない。帰れないんだもの」と啓子。
「でもさー、休み取るときも、課長渋ってたでしょう？　明日三人とも行けないなんて聞いたら、きっとヒステリー起こしちゃうんじゃない？」
「しょうがないじゃない」
「そうよ、しょうがないわよ。泊まっていきましょ」
亜希も啓子と同意見らしい。
ぼくは聞くともなしに、そんな会話を聞いていた。
結局彼女達は残ることに決めたものの、今度は誰が会社に電話をするかで責任の押し付け合いを始めた。
小林さんが何かを思いだしたように二階へ上がっていくのをぼくは見るともなく見ていた。
「カナちゃん課長のお気に入りだし、カナちゃんがいいよ」

急いで服を着て下へ降りて行ったが、「みんな食べ始めてる」というのは嘘だった。
テーブルには、七人。一人足りない。
誰が足りないかは、すぐに分かった。サングラスの人、田中さんだ。
「あのサングラスの人は?」
コーヒーをついでくれたみどりさんに、聞いてみた。
「まだ寝てるみたいなんです。何度ノックしても起きなくて」
ぼく達より早く部屋に引き取ったのに、変な話だ。
結局、みんなが食べ終わっても、田中さんは降りて来なかった。
ぼく達は例によって談話室に、場所を移す。
「まあ、どっちみちこの天気じゃ早起きしたってしょうがないけどね」
真理は窓を見ながら言った。
雪は相変わらずやむ気配はなく、外は白い闇に塗り潰されている。
「今日は一日、こんな調子なのかな?　ここでじっとしてるしかないの?」
誰にともなく言うと、小林さんが答えてくれる。
「予報じゃ、夜中くらいまでは低気圧が居座ってるって話だよ。雪崩警報も出てる」
「えー、あたし達今日帰らなきゃいけないのにー」
と小林さんを責めるような口調で言ったのは、渡瀬可奈子だ。

……誰かがぼくの名前を呼びながら体を揺すっている。
「透、いい加減起きなさいよ！」
真理だ。
ぼくはうっすらと目を開けた。
アットホームな雰囲気のせいか、鍵をかけ忘れたようだった。
「今、何時？」
「もう八時四十分よ。八時半から朝食だってちゃんと聞いたでしょう？」
ぼくはビデオを見たが、まだ8:20で点滅している。
「まだ二十分じゃないか。……すぐ降りていくから」
真理は首をひねった。
「あれ？　変ね。……まあいいわ。とにかくみんなもう食べ始めてるんだから」
「……分かったから、出て行ってくれない？」
「？」
「……ぼくの着替え、見たいの？」
真理は頬を赤らめ、「バカ」と言い残して部屋を出て行った。

る、アニメのキャラクターみたいだと思っておかしかった。
真理の部屋に忍んでいきたい気持ちもあったが、ひどく疲れてもいたのでおとなしく寝ることにした。
「おやすみなさい」
小林夫妻とバイトの二人を残して、ぼくと真理はそれぞれの部屋へと入った。
この「シュプール」には基本的に一人部屋はないので、ぼくの部屋も真理の部屋もツインだ。
二つあるベッドは、暖かみのある木でできた北欧風。全部の部屋にあるわけではないらしいが、テレビとビデオもある。頼めば何かビデオを借りられるのだが、もちろんそんな元気はない。
服を着替えてベッドに入った時、ビデオの時間表示は23:10だった。
その数字が点滅しているのを見ながら、形にならない考えが浮かんだが、それが何か分かる前に、ぼくは深い眠りに落ちていた。

ぼくにとってはさっきの話だけでも、もう一人で眠れないんじゃないかと心配し始めていたので、ありがたいことだった。
「あ、あたし、見たいテレビがあるんだった」と言ったのはもちろん、メガネの亜希ちゃんだ。
「失礼します。おやすみなさい」
他の二人もそれにならって立ち上がり、三人は部屋へ戻ってしまった。
「怪談なんかじゃなくて、ゲームでもしませんか」
小林さんがそう提案すると、香山さんはおっくうそうに立ち上がり、「若い人達だけの方がええやろ。わたしらはこれで失礼しますわ」と言った。
壁の鳩時計は、九時を回っていた。
結局残ったのは、ぼくと真理、バイトのみどりさんと俊夫さん、小林夫妻の六人だった。
俊夫さんがトランプを持ち出して来たので、ナポレオンでひとしきり遊ぶ。
吹雪は一向に収まる気配がなかったが、幸いもう停電になることはなかった。
「ああ、もう十一時になるよ。そろそろお開きにしよう」
小林さんが言った。
もうそんな時間なのかと思うと、あくびが出た。地面がないと気づいてから落ち

お茶を飲んでようやくほっとしたらしい、バイトのみどりさんが言った。
「ねえ、さっきの話、真理さんが自分で作ったの？　結構よくできてたわね」
「え？　あれは、ほんとの話なのよ。ねえ、叔父さん？」
真理は小林さんに話しかける。
小林さんは、ちょっと眉をひそめながらもうなずいた。
女の子達は、不安げにお互いの顔を見合わせた。
「ほらね？」と真理は得意げにみどりさんを見返す。
しばしの沈黙の後、みどりさんはきゃははと馬鹿笑いを始めた。
「もう、やだ！　小林さんもぐるだったのね？　すっかりだまされるとこだったわ」
なるほどそうだったのかと、ほっとしたのも束の間、小林さんは言った。
「いや、そうじゃないよ。そういう話が伝わってるのは、ほんとのことなんだ。先祖の一人がひどい死に方をしたというのも、昔調べたことがあるから確かなことだ。ただもちろん、かまいたちだの女のうらみだのなんて話は、信じちゃいないけどね」
昔とはいえ先祖の話だけに、小林さんは辛そうに見えた。
怖い話だからというよりも、体裁が悪いからかもしれない。
彼のそんな様子を見ているうちに、みんなの遊び気分はどこかへ行ってしまい、続けて怪談をしようという人も結局現れなかった。

「お茶でも、入れましょうね」
喉がからからに渇いていたことに気づいた。
「あ、あたしちょっとお手洗いに……」
渡瀬可奈子がそう言いながら立ち上がると、「あたしも」「あたしも」と言って女の子たちが立ち上がる。みどりさんまで一緒になってぞろぞろとトイレへ向かった。
さっきの話が怖かったせいもあるのだろうが、どうして女の子は連れ立ってトイレへ行きたがるのだろう。
と考えていたら、ぼくも行きたくなった。

5

全員がトイレから戻ると、お茶の用意ができていた。
花のようないい香りがしている。
「わあ、いい香り！　何のお茶ですか？」
真理の質問に小林さんの奥さんが答える。
「ラベンダー・ティーなの。珍しいでしょ？」
ぼく達は熱い紅茶をふうふう吹きながら、ゆっくりと味わった。

女の子たちの悲鳴が闇にこだまする。
ぼくも腰を浮かせて、何か叫んでいた。
誰かが窓を閉め、再びロウソクに火がつけられた。小林さんだ。
「落ち着いて、落ち着いて。きちんと閉まってなかっただけです。……偶然とはいえ、みんなを怖がらせる役には立ったようだね、真理ちゃん」
話を知っていたはずの小林さんも、さすがに驚いたらしく声がうわずっていた。
ところが真理は言った。
「あら、偶然じゃないのよ。さっき立ったとき、窓のところに毛糸を輪にして結びつけておいたの。引っ張ると留め金がはずれるようにね。さらに引くと、輪がはずれて手元に戻ってくるってわけ」
何てことだ。真理に一杯食わされたとは。しかしそれがわかっても、まだぼくの心臓はどきどきと早鐘のように打っていた。

と、ちかちかっと瞬いて、部屋に白い光が充満した。
電気が回復したのだ。
全員から安堵の溜め息が洩れた。もう大丈夫だ、ぼくはそんなふうに思った。
今日子さんが言った。

「それ以来、久左衛門は外出するたびに、かまいたちに襲われるようになったそうよ。ひどい時には服がぼろぼろになるほど。——とうとう彼は、風の強い日には絶対出歩かないようになったの。そしてちょうど一年後、女の人の命日も、今日みたいにひどい吹雪の晩だったらしいわ。久左衛門はお屋敷の奥座敷から一歩も外に出なかった。食事も運ばせてね。ところが翌朝彼は起きてこなかった。女中が見にいくと、あたりは血の海だった」

誰かがごくりと唾を飲む音が聞こえた。

「喉がぱっくりと切れていたのが致命傷だったんだけど、全身に無数の切り傷があったそうよ。畳や布団もぼろぼろ。でもそれは彼が寝ていたほんの一畳ほどの部分だけで、それ以外は何の変化もなかったの。まるでそこだけ突然かまいたちが発生して荒れ狂ったみたいにね」

しばらく誰も口を利かなかった。

と、突然窓ががしゃんと音を立てて開き、凍りつくような風と雪が吹き込んだ。

ロウソクの炎が一瞬にして吹き消される。

心臓が止まりそうになった。

「きゃーっ！」

「あら、どうして？　面白い話じゃない。……それでね、透、かまいたちって、知ってるでしょ？」
「かまいたち？　つむじ風で真空状態か何かになって怪我したりするってやつ？」
「そう。この地方には、かまいたちで怪我をしたって人が、大勢いるの。とりわけこんなふうに冷たい風の吹く、吹雪の夜にはね」
話には聞いていたが、ただの迷信だと思っていた。
「かまいたちにあうのは、ほとんどが男の人だったらしくてね、この地方では、不幸な死に方をした女の人の魂が、かまいたちになって恨んでいる男に切りつけるんだって言われてるの」
非力な女性には、その程度の復讐しかできないということだろうか。
「久左衛門は、ひどい女たらしだったらしくて、一度目をつけた女性は必ず手に入れたらしいわ。ある時、許嫁のいる村の娘に手をだして、その人は舌を噛んで自殺したの。久左衛門を呪いながらね」
真理は悲しげに首を振った。
これは一体、本当の話なのだろうか？　彼女の家に伝わる、本当のことなのだろうか？
ぼくは背中に虫が這い登るような嫌な感触を覚えた。

ろうかと考えた。
結局ぼくは真理のそばにいる方を選んだが、それが間違いだった。

4

切れた暖房を補うため、石油ストーブを焚き、みんな体に毛布を巻き付けると、真理が話しだした。
「これは実は、本当にあったことなんだけど」
怪談の常套手段だ。
もちろんそんなことは嘘に決まっている。でもぼくはごくりと唾を飲み込んだ。
「あたしやこの叔父さんの先祖は、小林久左衛門といって、このあたりの大地主だったんだけど、山の頂上から見渡す限りの土地をほとんど持ってたんですって。嫌な話だけど、小作人たちからは絞り取れるだけ絞り取ってた、相当ひどい人だったらしいわ。ね、そうでしょ、叔父さん?」
「その話はやめなさい」
小林さんは苦々しい口調で言った。
「つまらない話だ」

カーテンをめくって外をうかがった。
「暗くてよくわからないけど、雪がひどくなってるみたい」
「もうしわけありませんが、こうなったら早めにお休みいただいた方がいいかもしれませんね」
小林さんが言うと、アルバイトのみどりさんという女の子が、「せっかくこんな雰囲気なんだから、怪談話なんかするのもいいんじゃないですか?」などと言い出した。
「えー、あたしそういうのぜんっぜん、駄目なのー」と北野啓子がうれしそうに言う。
うそつけ、とぼくは心の中で思った。
ぼく自身は本気でそういうのは嫌だったのだが、口には出さなかった。
「百物語ってやつか?　いいね。やろうよ」
ゆらゆらと揺れるロウソクの明かりに照らされ、不気味な顔つきになっている俊夫さんが口を挟む。
「ちょっと待ってくれ、俊夫君。……部屋に戻りたいという方がいたらお送りしますよ。ロウソクもお貸しします。いかがですか?」
小林さんがそう訊ねたが、誰も名乗り出なかった。大勢の方が気が休まるからだろう。
ぼくは、大勢の中で怖い話を聞くのと、一人暗い部屋にいるのとどちらが怖いだ

に富んでいることがわかった。どくんどくんという心臓の鼓動が、触れ合っている
あたりで特に強く感じられる。
これは彼女の鼓動だろうか、それともぼくの……？
今明かりがついたら、顔が火照っていることを気づかれてしまうかもしれない、
などと変な心配までしてしまう。
と、懐中電灯の明かりが戻ってきた。
小林夫妻が、ロウソクを何本か持ってきてくれたようだ。
広いテーブルの上にそれらを立てて火をともすと、何とか回りの人々の顔が見える
程度の明るさにはなった。
「風が、相当強くなってきたみたいです。どこかで送電線が切れたんだとしたら、
今晩の復旧は無理かもしれません」
小林さんは申し訳なさそうに言った。
「えー。見たいテレビがあったのに」
つまらない文句を言ったのは、三人娘の一人、河村亜希だった。
「自家発電とか、できないんですかあ？」
「こんなことは、滅多にないことなんでね。そこまでの用意はないんですよ」
明るくなって安心したのか、真理はぼくから体を離し、立ち上がって窓際へ行き、

「ど、どうしたんや。停電か？」
さすがに少し慌てたような口調の、香山さんの声が聞こえる。
「大丈夫です！　みなさん、落ち着いてください。わたしがすぐロウソクを持ってきますから」
小林さんが闇の中をすいすいと歩いているらしい様子がわかる。
唐突にぱっと小さな光が拡がった。常備してあった懐中電灯を、小林さんが見つけたのだ。
「今日子、一緒に来てくれ」
二人とともに懐中電灯の光が談話室から消えると、再びあたりは真の闇に包まれた。
「やだー」
「信じらんなーい」
「アキ、ちゃんといる？」
「いるいる」
三人娘がささやき合っている。
「大丈夫。すぐ元に戻るよ」
ぼくは真理の手に触れながら言った。
ぼくの腕にしがみついている彼女の体の一部は、セーターを通してさえひどく弾力

食事はおいしく、そして十分な量があった。
食後のコーヒーを飲み終えた時には、無表情なサングラス男の顔にさえ、満足そうな笑みが浮かんでいるように見えたものだ。
しかし、小林さんが談話室に誘った時には、あからさまに迷惑そうな顔で断り、そそくさと二階へ引き上げていった。
結局、残る全員が談話室に集まり、雑談を交わしたりして過ごそうということになった。
しかし、みんなが腰を落ち着ける間もなく、突然、すべての明かりがちかちかとまたたき、そして消えた。
女の子達の悲鳴が、暗闇の中に飛び交った。
誰かの手がぼくの腕をまさぐり、ぎゅっとつかむ。
真理だ。真理の手だった。
ぼくは安心させるように自分の手を重ねた。
闇に浮かぶ腕時計の表示が、目に入った。20:15。

いつもならまだ夕食には早い時間だが、ハードな運動のおかげで、ぼくはもう腹ぺこになっていたことに気づいた。駆け出さないようにするのには、自制心を総動員する必要があった。

食堂のテーブルには、談話室にいた香山夫妻、ＯＬ三人組に加えて、サングラスをかけた三十前後らしい男が坐った。

アルバイトの女の子と小林さんの奥さんが料理を運ぶ間、小林さんが簡単に自分たちも含めて全員の名前を紹介しはじめる。

「……それから、こちらの三人はランちゃんスーちゃんミキちゃん……じゃなくて、渡瀬可奈子さん、北野啓子さん、河村亜希さん。東京からいらっしゃいました」

三人組はくすくす笑いながら誰にともなく頭を下げる。

「そちらの渋い男性は、田中一郎さんとおっしゃいます」

みんなが自然と、サングラスの男の方を見た。

男は、小林さんにそう紹介されてもまったく反応しなかったので、ぼくは一瞬この人ではないのかと思ったが、それはありえないことだった。もう紹介されるべき人は残っていなかった。

一瞬重い沈黙が流れたが、すぐに小林さんは明るい声で言った。

「では、ごゆっくり」

ぼくがいいわけをしようとしたとき、壁にかけられた鳩時計が七時を告げた。
反射的に自分の腕時計を見たが、そのデジタル数字は、18:55を示していた。最近合わせていないので、いつのまにか遅れてしまっていたようだ。
舌打ちが聞こえたのでそちらを見ると、香山さんが自分の時計を合わせている。ぼくの安物とは違って高そうな手巻きの時計のようだから、こまめに合わせないといけないのだろう。
鳩が鳴きやむのを待っていたかのように、小林さんが談話室に入ってきて、言った。
「食事の用意ができましたよ。どうぞ食堂の方へ」

れ込んだ。まったく、真理と来たら、限度というものを知らない。
うとうととまどろんでいると、ノックの音がした。
「透？　何してるの？　下に降りるわよ」
……はいはい。
ぼくはのそのそと起きあがり、真理と一緒に談話室へ降りた。先ほどの香山夫妻に加えて、三人の若い女の子達が腰掛けていた。ぼくと真理も、隅っこに座らせてもらう。
彼女たちは情報誌らしき物を広げ、くすくすと笑いながらぼくたちには聞こえない声で何か話している。
真ん中の、カナちゃんと呼ばれていたやせた髪の長い子が、左手に持った赤ペンで情報誌に印をつけている。お目当てのイタメシ屋か何かなのだろうか。
向かって右側にいるのは、ケイコと呼ばれていた、ちょっとぽっちゃりした可愛らしいショートカットの女の子だ。
左側にいる大きな眼鏡をしている子は、アキと呼ばれていた。
「どの子が好みなの？」
真理が冷たい声でささやいた。
「違うって！　そんなつもりで見てたわけじゃ……」

「どうも」
「こんにちは」
「君の、姪？　そうは見えんな」
香山さんと呼ばれた小太りの男の人は関西弁でそう言って、真理を上から下までじろじろと眺めた。
香山さんの奥さんという人はよく見ると、中年と呼ぶのがためらわれるような、若々しくきれいな人だった。黙ったままにっこりと笑い、ぼく達に向かって軽く頭を下げる。
「相当、滑ってきたみたいやな。えらい疲れた顔しとるで」
「え、ええ。まあ……」
ぼくは苦笑いを浮かべながら真理を見やるが、彼女は素知らぬ顔で、「大したことないんですよ。滑り足りないくらいで」などと言う。
「夕食は七時からだから、着替えてシャワーでも浴びてくるといいよ」
小林さんはそう言ってキッチンへと消えた。
ぼくと真理の部屋は残念なことに、というか当然、というべきか、別々にとってあった。ユニットバスがついているので、軽く汗を流して服を着ると、ベッドに倒

3

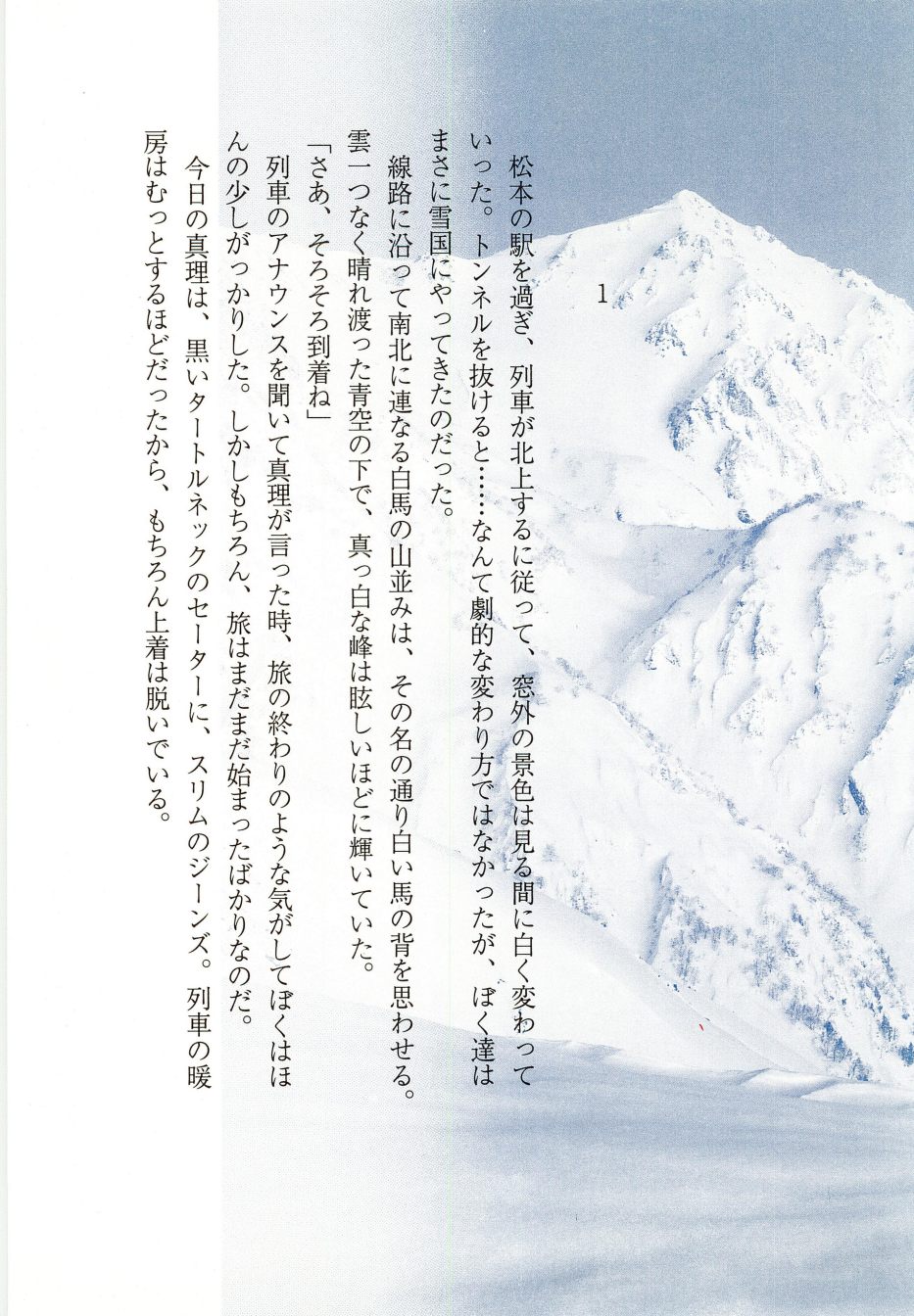
『シュプール』にたどり着いて改めてゆっくりと観察した。
ログキャビン風の外観に、白を基調にしたおしゃれな内装。隅々まで清潔にされていて、気持ちよさそうな宿だった。
乾燥室にスキー一式を入れると、ぼく達は中へ上がった。車の音でぼく達の帰還に気づいていたのだろう、小林さんが出てきて声をかけてくれる。
「お帰り。——彼は、どうだった?」
「まあ、あんなもんでしょ。もうちょっと根性あるかと思ってたんだけど」
「厳しいね。——透君、明日は体動かないかもしれないよ。筋肉痛の薬貸して上げるから、寝る前に塗っとくといい」
「はい、ありがとうございます」
その時、談話室に中年の夫婦が座ってこちらを見ているのに気がついた。軽く頭を下げると、小林さんが口を出す。
「一応、紹介しとこうか。わたしが昔世話になった人で、大阪で会社をやっておられる香山さんと奥さんの春子さん。——こっちはわたしの姪の真理と、大学の友人の透君です」

「……うん。頼むよ」
真理は少し乱暴すぎるほどの運転でペンションへの道をすっ飛ばした。たかだか十分ほどのドライブだったはずだが、その間に日はとっぷりと暮れ、雪は本降りになり始めていた。
「こんな夜は――」
真理が何かを言いかけた。
「何？　こんな夜は、どうしたの？」
真理はにっこりと笑いながら首を振る。
「ううん……何でもないの」

2

宿に荷物を置くのもそこそこに、着替えを済ませ、スキー一式を借りる。
「運転は、できるんだろ?」
「はい。一応」
「なら、悪いけど二人だけで行ってくれないかな。もうじきまたお客さんが来るはずなんでね。裏にもう一台止めてあるから。……ほら、これがキー」
裏にあったRVを表に回すとスキーを積み込み、スキー場めざして出発した。
時刻はそろそろ十二時になろうとしていたから昼食を取ってもいいはずなのだが、真理は少しでも早くゲレンデに行きたくて仕方がないらしい。
道はところどころ固い雪で覆われていたが、スタッドレスを履いた4WDは、ほとんど不安を感じさせなかった。

「やあ、真理ちゃん。久しぶり」
運転席にいた男の人が顔をほころばせて声をかける。
「さあ、乗って」
一番後ろの座席に荷物を放り込むと、ぼく達は真ん中の座席に並んで腰掛けた。
「これがあたしの叔父さんで、小林二郎さん。ペンション『シュプール』のご主人様よ」
「どうも。お世話になります」
ぼくはぺこんと頭を下げた。
「いらっしゃい。君が透君？　スキーは初めてなんだって？」
小林さんは車を発進させながらルームミラー越しに笑いかける。
どうやら真理はぼくのことをある程度彼に話しているようだった。
「ええ、そうなんです」
「真理ちゃんのしごきについていくのは大変かもしれないよ。覚悟しといた方がいいな」
「やだ、叔父さん。しごいたりなんかしないわよ」
ぼくは声を上げて笑ったが、これが小林さんの冗談でなかったことはすぐに分かることになった。

くせのない長い黒髪、全体に小作りな顔の中できらきらと目立つ大きな瞳――。
やっぱり可愛いよな、と今さらながら思った。
「何ぼーっとしてるの？　さ、早く荷物下ろしてよ」
「あ、ごめん」
ぼくは立ち上がり、網棚に乗せられた二人のバッグを引っ張り下ろした。たかだか二泊三日の旅行だが、スキーともなるとウェアと着替えでバッグはえらく大きいものが必要になるものだ。その上スキー一式を担いでいる乗客も大勢いる。そんな苦労をしてまでやりたいほど、スキーというのは楽しいものなのだろうか。絶対面白いから、という真理の言葉を信じてついては来たけれど、楽しむレベルになれるのかどうか、はなはだ不安だった。

駅前の広いロータリーにはスキー場行きのバスやタクシーが何台か止まっている。スキー列車が吐き出した乗客の多くはそちらへ向かったが、真理はぐるりとあたりを見回し、何かを見つけたらしく手を振った。
「叔父さん！」
少し離れたところにいたシルバーグレーのワゴンが動きだし、ぼく達の真ん前まで来て止まった。

1

松本の駅を過ぎ、列車が北上するに従って、窓外の景色は見る間に白く変わっていった。トンネルを抜けると……なんて劇的な変わり方ではなかったが、ぼく達はまさに雪国にやってきたのだった。

線路に沿って南北に連なる白馬の山並みは、その名の通り白い馬の背を思わせる。雲一つなく晴れ渡った青空の下で、真っ白な峰は眩しいほどに輝いていた。

「さあ、そろそろ到着ね」

列車のアナウンスを聞いて真理が言った時、旅の終わりのような気がしてぼくはほんの少しがっかりした。しかしもちろん、旅はまだまだ始まったばかりなのだ。

今日の真理は、黒いタートルネックのセーターに、スリムのジーンズ。列車の暖房はむっとするほどだったから、もちろん上着は脱いでいる。

かまいたちの夜

A NOVEL

我孫子武丸

公式ファンブック
かまいたちの夜
我孫子武丸＝著
●イラストレーテッド・メモリアル
チュンソフト